WN-B11/PCM 取扱説明書

85386-04

【呼び方】

呼び方	意味
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Operating System、 Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating Systemの総称
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating Systemおよび Microsoft® Windows® 98 Operating System Second Editionの総称
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Operating System Version 4.0 Workstation
Windows	Windows XP,Windows 2000,Windows Me,Windows 98,Windows 95, Windows NT 4.0の総称

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社PLANTコールセンターまでご連絡ください。
4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
5) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
6) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、各1部だけ複写できるものとします。
7) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
8) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
9) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
10) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関る設備や機器、及び海底中継機、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
11) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
12) お客様は、本サポートソフトウェアを一時に1台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
13) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
14) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

もくじ

本製品を使うまでの手順

以下の流れにしたがって、本製品を使う環境をつくりましょう。

はじめにすること

使う前に

▼

使用モードにしたがってセットアップする

▶アクセスポイントと通信する

▶無線LANアダプタのみで通信する

必要なときに読むところ

応用操作、使用中のトラブルがあったときの解決法、本製品の付属情報です。

応用編

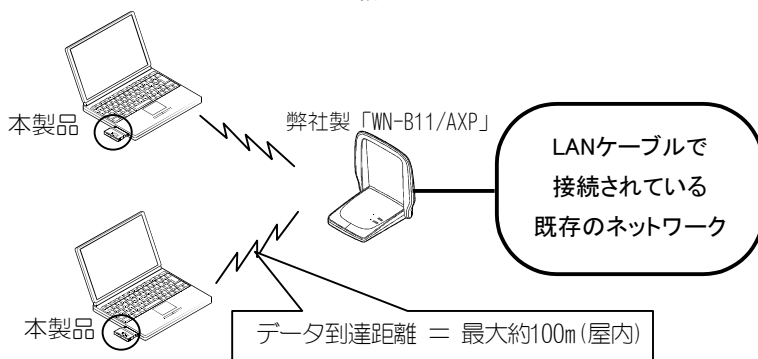
通信を暗号化する

設定ユーティリティを使う

付録

本製品を使えば…

本製品を使えば、無線 LAN ブロードバンドルータ「WN-B11/BBRH」や無線 LAN アクセスポイント「WN-B11/AXP」を使用したネットワークや、無線 LAN USB アダプタ「WN-B11/USB」と通信することができます。
また、本製品に接続したパソコン同士で LAN を形成することになりますので、パソコン同士のデータのやりとりなどを LAN 経由でできるようにもなります。

<ネットワーク構築例>

必ずお守りください

ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

■警告及び注意表示

	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵記号の意味

この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「発火注意」を表す絵表示

この記号は禁止の行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「分解禁止」を表す絵表示

この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「電源プラグを抜く」を表す絵表示

⚠ 警告

本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守し、正しい手順で使用してください。

警告・注意事項を無視すると人体に多大な損傷を負う可能性があります。また、正しい手順で操作しない場合、予期せぬトラブルが発生する恐れがあります。ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意事項、正しい手順を厳守してください。

本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。

火災や感電、やけど、故障の原因となります。
修理は弊社修理係にご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有償修理となる場合があります。

煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。

電源がある場合は、電源を切ってコンセントからプラグを抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

本製品の取り扱いは、必ず取扱説明書で接続方法をご確認になり、以下のことにご注意ください。

●接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。指定品以外を使用すると火災や故障の原因となります。
●ケーブルにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わないでください。火災や故障の原因となります。
●ボード製品の場合は、指定されたスロットにきちんと差し込んでください。正しく装着されていないと、火災および故障の原因となります。

本製品の取り付け、取り外し、移動の際は、本製品の取扱説明書をご確認になり、必ずパソコン本体・周辺機器および本製品※の電源スイッチを切り、コンセントからプラグを抜いてから行ってください。

※電源スイッチを持っていない製品、Plug & Play製品（USB,IEEE 1394,PCカードなど）は除く。

電源コードを抜かずに行うと、感電および故障の原因となります。

本製品を濡らしたり、水気の多い場所で使用しないでください。

お風呂場、雨天・降雪中、海岸・水辺での使用は火災・感電・故障の原因となります。

決められた電流内で使用してください。

本製品を出力電流の絶対最大定格を超えた電流で使用または保管すると火災・感電・故障の原因となります。

故障や異常のまま、通電しないでください。

本製品に故障や異常がある場合は、必ずパソコンから取り外してください。また、電源や AC アダプタがある場合は、通電をしないでください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

本製品を病院内で使用しないでください。

医療機器の誤動作の原因になることがあります。

心臓ペースメーカーの装着部位から 22cm 以上離して使用してください。

電波によりペースメーカーの動作に影響を与える恐れがあります。

本製品を飛行機の中で使用しないでください。

飛行機の計器などの誤動作の原因になります。飛行機の中ではコンピュータの PC カードスロットから本製品を取り外してください。

日本国外で使用できません。

⚠ 注意

本製品を使用する際に、取扱説明書などでの操作手順説明と異なった操作をしてデータが消失した場合は、データの保証は一切いたしかねます。

取扱説明書などで、操作方法を確認して操作してください。
また、故障に備えて定期的にバックアップを行ってください。
修理の際、検査のためにデータの消去などを行う場合があります。修理にお出しになる前にもバックアップを行ってください。

本製品は以下のような場所（環境）で保管・使用しないでください。

故障の原因となることがあります。

- ●振動や衝撃の加わる場所
- ●直射日光のあたる場所
- ●湿気やホコリが多い場所
- ●温湿度差の激しい場所
- ●熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
- ●強い磁力・電波の発生する物の近く（磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
- ●水気の多い場所（台所、浴室など）
- ●傾いた場所
- ●本製品に通風孔がある場合は、その通風孔をふさぐような場所（保管は問題ありません）
- ●腐食性ガス雰囲気中（Cl_2、H_2S、NH_3、SO_2、NO_Xなど）
- ●静電気の影響の強い場所
- ●保温性・保湿性の高い（じゅうたん・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）場所（保管は問題ありません）

本製品は精密部品です。以下のことにご注意ください。

- ●落としたり、衝撃を加えたりしない
- ●本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
- ●重いものを上にのせない
- ●本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物を入れない

本製品のコネクタ部分には直接手を触れないでください。

静電気が流れ、部品が破壊されるおそれがあります。また、静電気は衣服や人体からも発生するため、本製品の取り付け・取り外しは、スチールキャビネットなどの金属製のものに触れて、静電気を逃がした後で行ってください。

パソコンから本製品にアクセス中（アクセスランプ点灯中）に電源を切ったり、パソコンをリセットしないでください。

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。

本製品で使用する電波について

本製品は、2.4GHz帯域の電波を使用しています。
本製品を使用する上で、無線局の免許は必要ありませんが、以下および次ページの注意をご確認ください。

・*以下の近くでは使用しないでください。*

・電子レンジ／ペースメーカー等の産業・科学・医療用機器など
・工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）
・特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

上記の機器などは、無線LANと同じ電波の周波数帯を使用しています。
上記の近くで本製品を使用すると、電波の干渉を発生する恐れがあります。
そのため、通信ができなくなったり速度が遅くなったりする場合があります。

・*携帯電話/PHS/テレビ/ラジオを本製品の近くでは、できるだけ使用しないでください。*

携帯電話/PHS/テレビ/ラジオなどは、無線LANとは異なる電波の周波数帯を使用しています。
そのため、本製品の近くでこれらの機器を使用しても、本製品の通信やこれらの機器の通信に影響はありません。
ただし、これらの機器を無線LAN製品に近づけた場合は、本製品を含む無線LAN製品が発する電磁波の影響によって、音声や映像にノイズが発生する場合があります。

・*間に鉄筋や金属およびコンクリートがあると通信できません。*

本製品で使用している電波は、通常の家屋で使用されている木材やガラスなどは通過しますので、部屋の壁に木材やガラスがあっても通信できます。
ただし、鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されている場合、電波は通過しません。部屋の壁にそれらが使用されている場合、通信することはできません。
同様にフロア間でも、間に鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されていると通信できません。

2.4GHz帯使用の無線機器について

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器等のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

・この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運営されていないことを確認してください。

・万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数帯を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。

・その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きた場合は、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先:PLANT コールセンター　電話:　金沢　076-260-3644
東京　03-3254-1144

2.4　DS　4

2.4：2.4GHz 帯を使用する無線設備を表す
DS　：変調方式を表す
4　：想定される与干渉距離を表す（<=40m）
■■■ ：全帯域を使用し、かつ、移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

使用上の注意

本製品は非常に精密にできておりますので、お取り扱いに際しては十分注意してください。

・取り扱い上の注意

・コネクタ部分に金属を差し込まないでください。
・ぬらさないでください。
・ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは高周波の信号により、ノイズを与えることがあります。
・モータなどノイズが発生する機器の近くでは誤動作することがありますので、必ず離してお使いください。

・使用上の注意

・本製品はパソコンの「スタンバイ」、「スリープ機能」、「レジューム」、「ハイバネーション」には対応しておりません。
本製品を使用する場合は、これらの機能は無効に設定してください。

・修理について

・本製品の修理は弊社修理センターにご依頼ください。
改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。

使う前に

ここでは、本製品を使う前の作業について、順を追って説明しています。

箱の中を確認する

内容物リストを確認します。

☞ 14ページ

▼

動作環境を確認する

本製品を使うことができる機種やOSなどを確認します。

☞ 15ページ

▼

各部のなまえとはたらき

本製品の各部のなまえとはたらきを確認します。

☞ 20ページ

▼

使用モードを確認する

本製品をどんな形態で使用するのかを確認します。

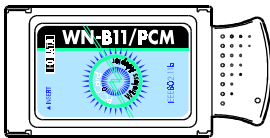
☞ 21ページ

箱の中を確認する

ご使用の前に以下のものがそろっていることを □ にチェックをつけながらご確認ください。
万一、不足品がありましたら、弊社サポートセンターまでお知らせください。

注意！

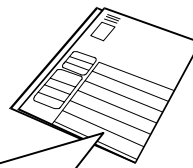
- **箱や梱包材は大切に保管し、修理などの輸送の際にご利用ください。**
- **イラストは若干異なる場合があります。**

□ 本製品（1枚）

□ サポートソフトディスク（1枚）
［CD-ROM］

☑ 取扱説明書（1冊）

□ ハードウェア保証書（1枚）

□ ハードウェアシリアルNo.シール（1枚）

□ ユーザー登録カード（1枚）

ユーザー登録はお済みですか？
「ユーザー登録カード」に登録方法が記載されています。
登録してから次ページへ進みましょう。

動作環境を確認する

本製品の動作環境を確認します。

対応機種

CardBus規格に準拠したPCカードスロット（PCMCIA TYPEⅡ）を搭載※1し、
CD-ROMドライブ（「設定ユーティリティ」のインストール用）を搭載※2した
下記の機種

・NEC PC98-NXシリーズ
・DOS/Vマシン
弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認を行っております。

※1　本製品は16ビットPCカード形状ですが、CardBus対応のパソコンが必要です。
※2　CD-ROMドライブが無い場合は、17ページを参照してください。

対応OS（日本語版）

・Windows XP
・Windows 2000
・Windows Me
・Windows 98(Second Edition含む)
・Windows 95 OSR2以降　（→OSR2以降の確認は19ページ参照）
・Windows NT 4.0 （Service Pack 4以上）

通信可能機器

IEEE802.11/IEEE802.11b準拠の無線LAN製品と通信できます。
既存の有線LAN（LANケーブルで接続されているネットワーク）との接続には、
アクセスポイント（以下のWN-B11/AXPなど）が必要です。
《弊社製品例：WN-B11シリーズ》
・WN-B11/PCM　（本製品⇔本製品で通信）
・WN-B11/AXP　（別売の弊社製無線LANアクセスポイント）
・WN-B11/USB　（別売の弊社製無線LAN USBアダプタ）
・WN-B11/BBR　（別売の弊社製無線ブロードバンドルータ）
・WN-B11/BBRH　（別売の弊社製無線ブロードバンドルータ）
・WN-B11/PRS　（別売の弊社製無線プリントサーバ）
・WN-B11/INS　（別売の弊社製無線ISDNルータ）

注意！

- **以下とは通信できません。**
  弊社製 無線LAN PCカードPCWN-W10
  弊社製 無線LAN PCカードWN-A54シリーズ
  弊社製 コードレスネットワークシンフォニーシリーズ（WN-S/560, WN-S/PCI,PCWN-S）
  弊社製 無線スイッチングハブWNA-FSWH4

CD-ROMドライブが無い場合

本製品を使用するには、サポートソフトディスクをインストールするためのCD-ROMドライブが必要です。
パソコンにCD-ROMドライブが無い場合は、以下を行ってください。

1. **インターネット上の弊社ホームページ(http://www.iodata.co.jp/lib/)より、本製品の「設定ユーティリティ」のファイルを入手します。**

2. **ハードディスクドライブ（Windowsがインストールされているドライブ）に、任意のフォルダを作成し、入手したファイルをそのフォルダで展開してください。**

このあとのインストール手順内では、Windows XPの場合は、サポートソフトCD-ROMが要求された時に、作成したフォルダ内の「WINXP」を指定してください。その他のOSの場合は、「SETUP.EXE」を実行してください。

Windows XPでPCカード接続のCD-ROMドライブをお使いの場合

本製品を使用するには、サポートソフトディスクをインストールするためのCD-ROMドライブが必要です。
Windows XPをお使いで、パソコンにPCカードスロットが1つのみで、かつPCカード接続のCD-ROMドライブをお使いの場合、インストール時にCD-ROMドライブが使えません。
以下の方法で「サポートソフト」の内容をハードディスクにコピーしておいてください。

1. **パソコンにCD-ROMドライブを接続し、パソコンの電源を入れます。**

2. **エクスプローラを起動します。**
   [スタート]→[すべてのプログラム]→［アクセサリ］→[エクスプローラ]を順にクリックします。

3 [すべてのファイルを表示する]に設定します。

1. ［ツール］メニューの［フォルダ オプション］を選びます。
2. ［表示］タブに移動し、［すべてのファイルとフォルダを表示する］をチェックします。（Windows XPの場合は、［表示］タブの［詳細設定］欄にあります。）
3. ［OK］ボタンをクリックします。

参考

[ツール]メニューの[フォルダオプション]が無い場合、次の手順で設定します。
①[表示]メニューの[フォルダ オプション]を選びます。
②[表示]タブの[すべてのファイルを表示する]をチェックします。
③[OK]ボタンをクリックします。

4 CD-ROMドライブにサポートソフトディスクをセットします。

5 ハードディスクドライブ（Windowsなどがインストールされているドライブ）に、任意のフォルダ（ディレクトリ）を作成します。

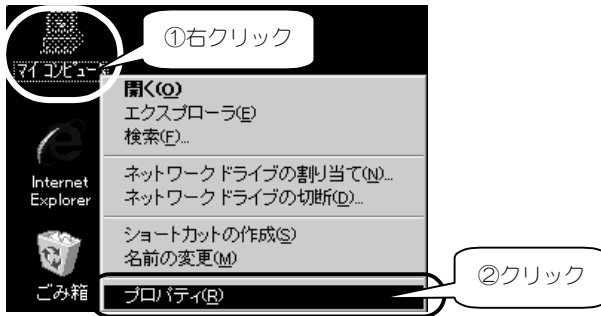
6 サポートソフトディスクの内容をすべて手順5で作成したフォルダ（ディレクトリ）にコピーします。

このあと、インストール手順内では、サポートソフトCD-ROMが要求された時に、上記の手順**5**で作成したフォルダ内の「WINXP」を指定してください。

Windows 95がOSR2以降かの確認方法

Windows 95には、OSR2より前とOSR2以降のバージョンがあります。
本製品では、OSR2以降のバージョンでのみ使用できます。
Windows 95のバージョンがOSR2以降かは、以下の方法で確認できます。

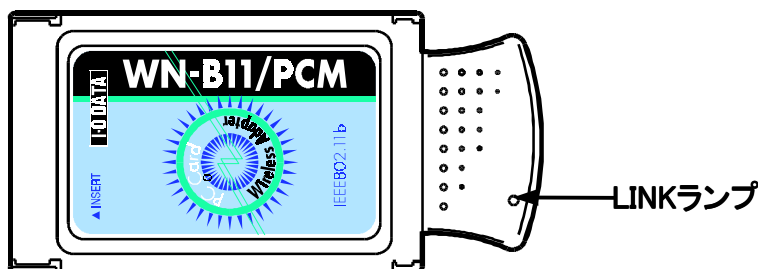
●確認方法

1 ［マイコンピュータ］を右クリックし、表示されたメニュー内の［プロパティ］をクリックします。

2 表示された［システムのプロパティ］画面の［情報］タブでの［システム］欄の番号で確認できます。

・表示されている番号が［4.00.950 B］または［4.00.950 C］の場合
OSR2以降のバージョンです。本製品を使用できます。

・表示されている番号が［4.00.950］または［4.00.950a］の場合
OSR2より前のバージョンです。本製品を使用できません。
本製品で使用できるOS（対応OS：15ページ参照）にバージョンアップしてください。

各部のなまえとはたらき

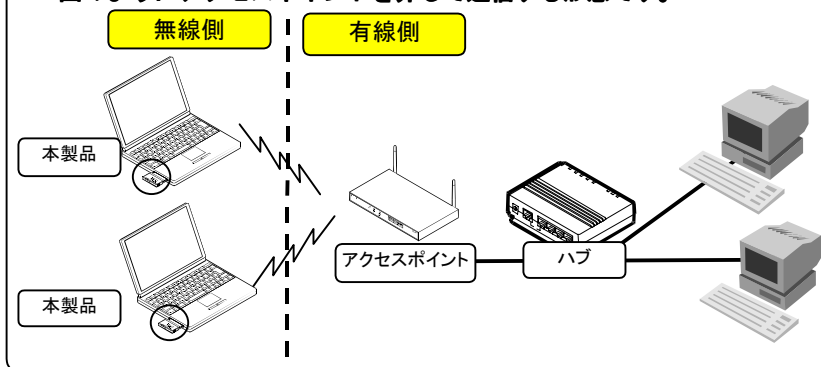
各部のなまえとはたらきを確認します。

ランプ	モード	状態
LINK	Infrastructure	緑色点灯 ： アクセスポイントと通信が行われている状態 緑色点滅 ： ネットワーク上にアクセスポイントが見つからない状態 消灯 ： 機能が停止している状態（パソコンから取り外せる状態の時）
	Ad hoc	緑色点灯 ： 通信できる他の無線LAN製品を探している状態、または、他の無線LAN製品と通信できる状態 緑色点滅 ： ネットワーク上に通信可能な無線LAN製品が見つからない状態 消灯 ： 機能が停止している状態（パソコンから取り外せる状態の時）
	802.11 Ad hoc	緑色点滅 ： 通信できる他の無線LAN製品を探している状態または、他の無線LAN製品と通信できる状態 消灯 ： 機能が停止している状態（パソコンから取り外せる状態の時）

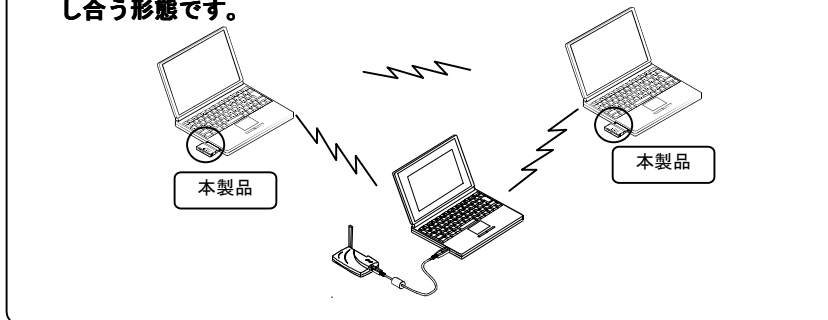
使用モードを確認する

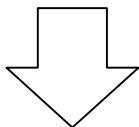
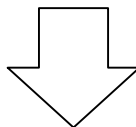
本製品をどのような形で使用するのかを確認します。
ここで確認したモードによって、設定方法が異なります。

本製品には、「Infrastructure」と「Ad hoc」の２種類の通信形態があります。本製品をどちらの通信形態でご使用になるかをお選びください。

Infrastructureモード

図のようにアクセスポイントを介して通信する形態です。

Ad hocモード

図のようにアクセスポイントを介さずに、パソコン同士で直接通信し合う形態です。

【お選びください】

ご使用のモードが決まったら、以下にチェックを付けましょう。
その後、それぞれのページをご覧ください。

□ Infrastructureモード	□ Ad hocモード
２３ページ	**６３ページ**
[アクセスポイントと通信する]	**[無線LANアダプタのみで通信する]**
へお進みください。	**へお進みください。**

アクセスポイントと通信する

Infrastructureモード

本製品とアクセスポイントを使用して通信するためのセットアップをします。

①アクセスポイントを設置する

アクセスポイントの設置をし、アクセスポイントの設定などを確認します。

☞ 24ページ

▼

②接続とインストール

本製品をパソコンに接続し、ドライバをインストールします。
OSにより手順が異なります。

☞ 25ページ

▼

③使ってみる

本製品とアクセスポイントを使用して通信するための設定を行います。

☞ 56ページ

①アクセスポイントを設置する

無線LANアクセスポイントと通信する場合は、次のように設置をしておいてください。

1　アクセスポイントの電源を入れた状態で設置します。
アクセスポイントの設置方法については、アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。

2　アクセスポイントの「SSID」（ESSID）をメモします。
アクセスポイント取扱説明書をご覧になり、下に書き込んでください。
※SSIDは【③使ってみる】の設定で使用します。

▼確認したSSID(ESSID)を記入してください。

SS ID(ESS ID)	

3　アクセスポイントの[暗号キー]をご確認ください。
アクセスポイント取扱説明書をご覧ください。
暗号化されている場合は暗号キーをメモしてください。
※暗号キーは【③使ってみる】の設定で使用します。

注意！

はじめて、弊社製WN-B11/BBRHなどのルータ機能を持つアクセスポイント設定する場合は、ADSLモデムやケーブルモデムとつなぐ必要はありません。アクセスポイント側のインターネット接続に関しては本製品との無線接続が終了した後にアクセスポイント付属の取扱説明書を参照して設定を行ってください。

参考

●SS IDとは？
複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。SS IDが一致していないと、そのネットワークには参加できません。アクセスポイントによっては、SS IDがESS IDと記載されている場合もあります。

②接続とインストール

本製品を接続しインストールします。

・パソコンへOSをインストールする、または、OSをアップグレードにてインストールする際には、本製品を取り外した状態で行ってください。OSのインストール完了後に、再度本製品のインストールを行ってください。
・PCカードスロットが1つのみのパソコンで、PCカード接続のCD-ROMドライブをお使いの方は、インストール時にCD-ROMドライブが使えません。
本製品を接続する前に、17ページの手順でサポートソフトの内容をハードディスクにコピーしてください。
インストール作業では、サポートソフトの挿入は不要となります。
・パソコンにCD-ROMドライブが無い場合は、17ページを参照してください。インストール作業では、サポートソフトの挿入は不要となります。

用意するもの

・サポートソフトディスク（CD-ROM）

接続とインストール

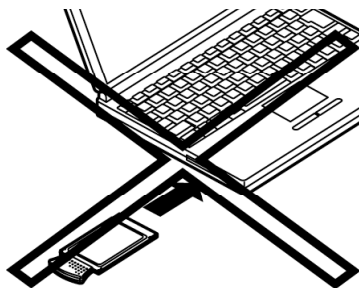
お使いのパソコンのOSごとに、インストール方法が異なります。以下の必要なページのみご覧ください。

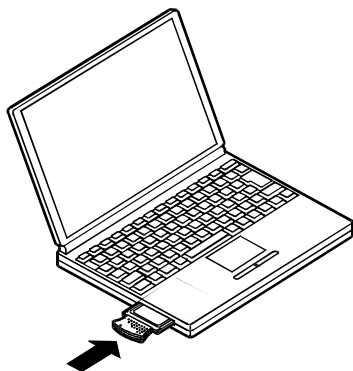
●Windows XPでご使用の場合
⇒【Windows XPで使う】（26ページ）

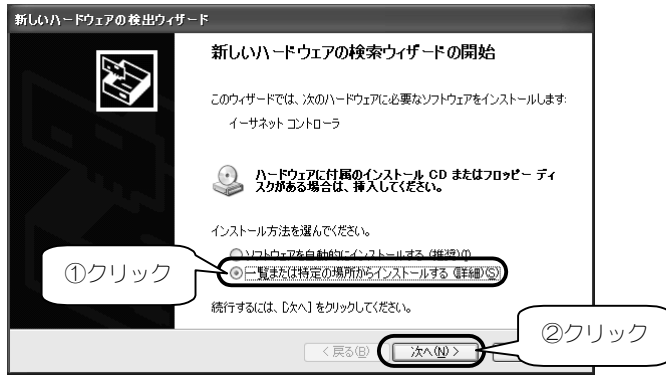
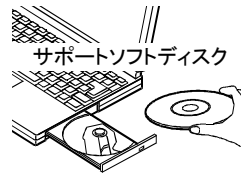
●Windows 2000/Me/98/95でご使用の場合
⇒【Windows 2000/Me/98/95で使う】（31ページ）

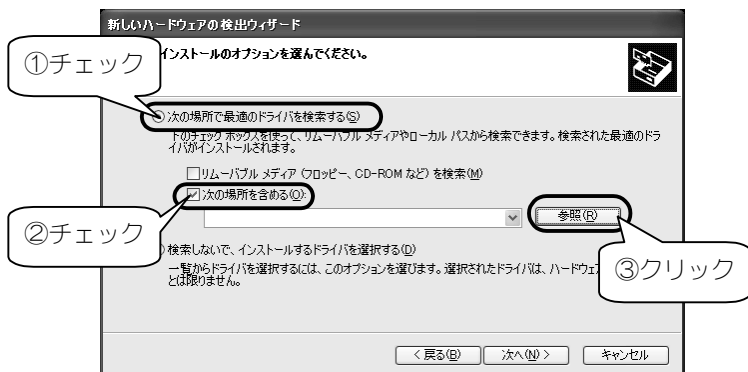
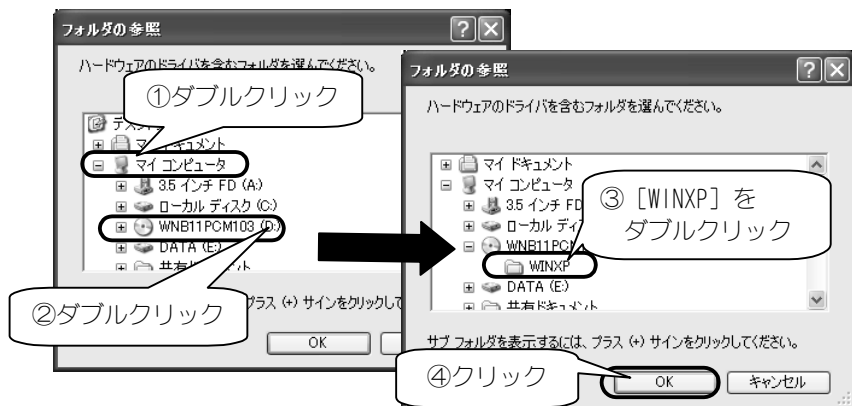
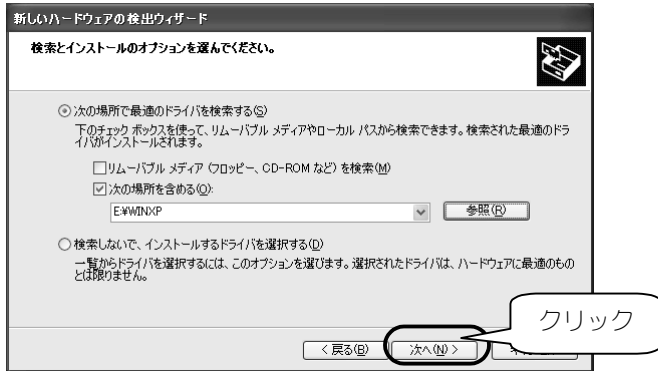
●Windows NT 4.0でご使用の場合
⇒【Windows NT 4.0で使う】（44ページ）

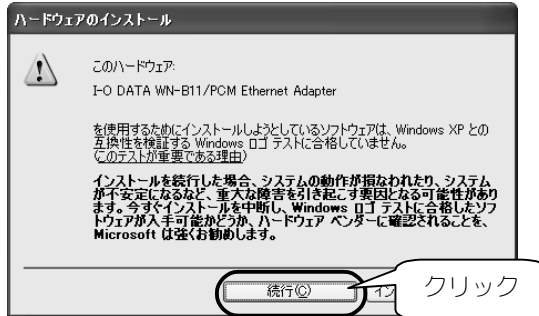
Windows XPで使う

手順内で指示があるまで、本製品を PC カードスロットに挿入しないでください。

1　管理者権限のあるユーザーでWindows XPにログインします。

2　本製品のラベル面を上にして、PCカードスロットの奥まで挿入します。

PC カードスロットの位置は、お使いのパソコンによって異なります。
パソコンの取扱説明書をご覧ください。

3 ［一覧または特定の場所からインストールする］をチェック後、［次へ］ボタンをクリックします。

4 サポートソフトディスクをCD-ROMドライブにセットします。

サポートソフトディスク内の[SETUP]アイコンは、本製品を Windows XP 以外で使用する場合にセットアップするものです。Windows XP では[SETUP]アイコンを実行しないでください。

5 **［次の場所で最適のドライバを検索する］をチェック後、[次の場所を含める]のみをチェックして（その他の項目のチェックは外してください）、[参照]ボタンをクリックします。**

6 **［マイコンピュータ］→CD-ROMドライブ→［WINXP］を順にダブルクリック後、［OK］ボタンをクリックします。**

7　[次へ] ボタンをクリックします。

8　[続行] ボタンをクリックします。

ボタンをクリック後、ファイルのコピーを開始します。

弊社製ソフトウェアが確認された時点で、マイクロソフトが認証するソフトウェアでは無いというメッセージが表示されますが、そのまま続行します。(特に問題ありません。)

→マイクロソフト社は WHQL という組織において、パソコン本体や周辺機器などを対象とした認定手続きを実施しております。

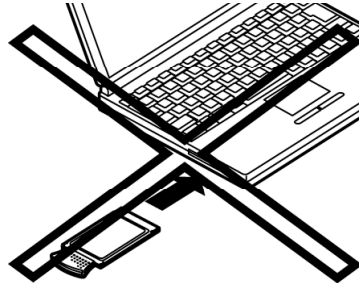
このたびお買い上げ頂いた製品は、現時点では認定を受けておりません。

9　しばらくして以下の画面が表示されたら、サポートソフトを取り出し、[完了] ボタンをクリックします。

以上でインストールは終了です。【③使ってみる】（56ページ）へお進みください。

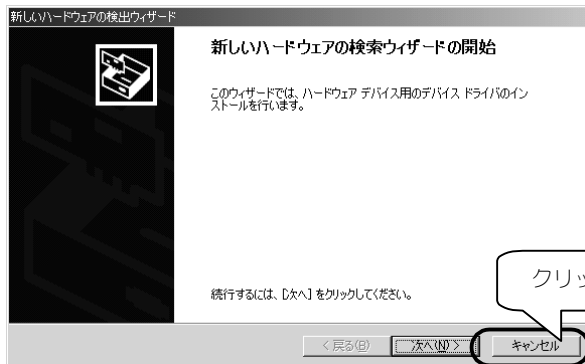
Windows 2000/Me/98/95で使う

ここでは、Windows 2000/Me/98/95へのインストール手順について説明します。

手順内で指示があるまで、本製品を PC カードスロットに挿入しないでください。

《カードを挿したまま、パソコンを起動してしまった場合…》

万一、カードを挿したままパソコンを起動した場合は、本製品を認識する画面（以下の画面）が表示されますが、以下の手順を行って、本製品を取り外してください。

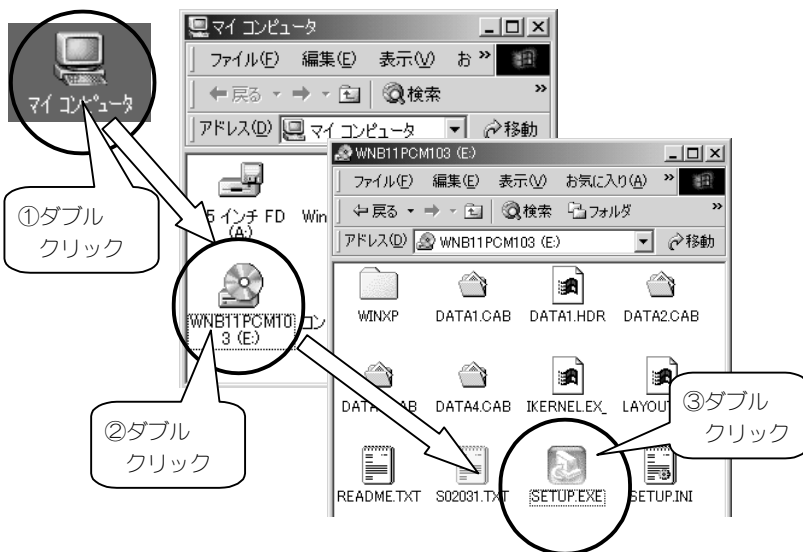
①以下の画面の［キャンセル］ボタンをクリックし、中断します。
②そのまま、Windows を一旦起動し、Windows の終了を行います。
③パソコンの電源を切って本製品を取り外してください。

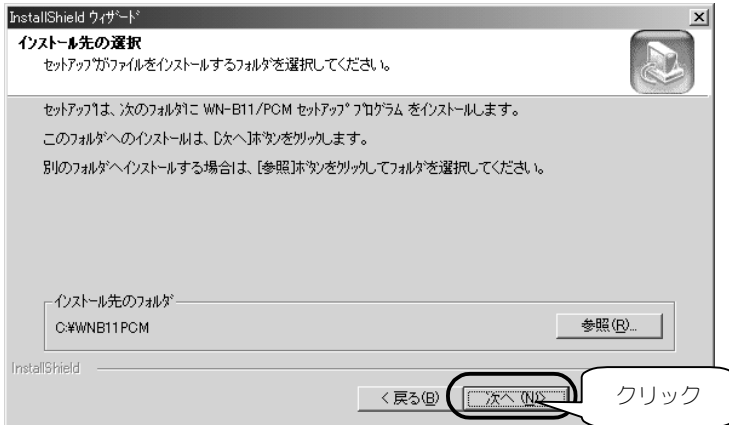
（画面はWindows 2000での例）

1 Windows 2000/Me/98/95を起動します。

Windows 2000 にて本製品を使用する場合は、Administrator 権限を持ったユーザーでログインしてご使用ください。

2 サポートソフトディスクをCD-ROMドライブにセットします。

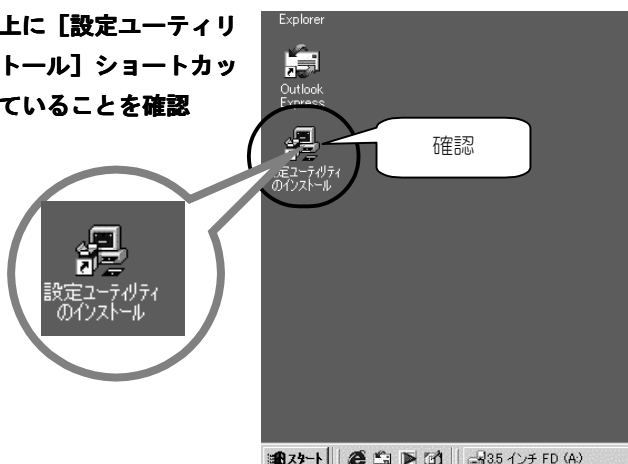
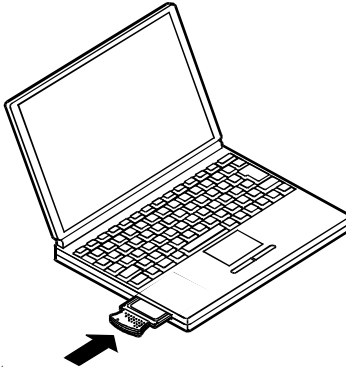
3 ［マイコンピュータ］のCD-ROMドライブ内の［Setup］を順にダブルクリックします。

参考

お使いの環境によっては、[Setup]と表示されずに、[Setup.exe]と表示される場合があります。

4　［次へ］ボタンをクリックします。

5　［次へ］ボタンをクリックします。

6 ［完了］ボタンをクリックします。

7 サポートソフトディスク取り出します。

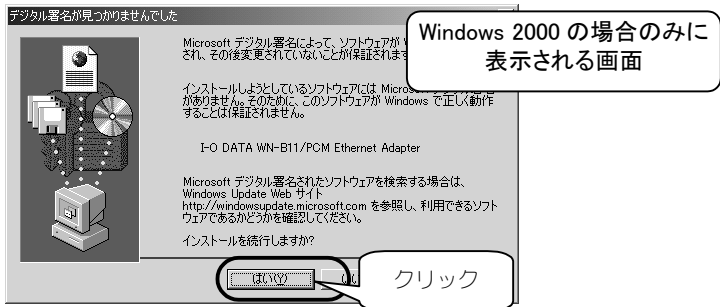
8 デスクトップ上に［設定ユーティリティのインストール］ショートカットが表示されていることを確認します。

9　本製品のラベル面を上にして、PCカードスロットの奥まで挿入します。

PC カードスロットの位置は、
お使いのパソコンによって
異なります。
パソコンの取扱説明書を参照
してください。

10　本製品がWindowsに「新しいハードウェア」として検出されます。

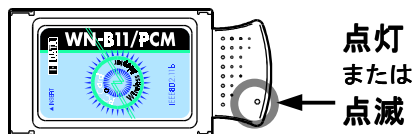
・Windows Me/98/95の場合

本製品のドライバが自動的にインストールされます。

・Windows 2000の場合

以下の画面が表示されますので、［はい］ボタンをクリックします。

弊社製ソフトウェアが確認された時点で、マイクロソフトが認証するソフトウェアでは無いというメッセージが表示されますが、そのまま続行します。（特に問題ありません。）
→マイクロソフト社は WHQL という組織において、パソコン本体や周辺機器などを対象とした認定手続きを実施しております。
このたびお買い上げ頂いた製品は現時点では、認定を受けておりません。

11 本製品の［LINK］ランプが点灯または点滅していることを確認します。

弊社アクセスポイントを設置している場合は点灯します。

注意！

［ファイルのコピー］画面が表示される場合があります。

●お使いのパソコンがWindows Meプリインストールモデルの場合

→①［ファイルのコピー元］欄を以下のように指定します。

［C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS］

（Windows MeがインストールされているドライブがCドライブの場合の例）

②［OK］ボタンをクリックします。

ファイルのコピー

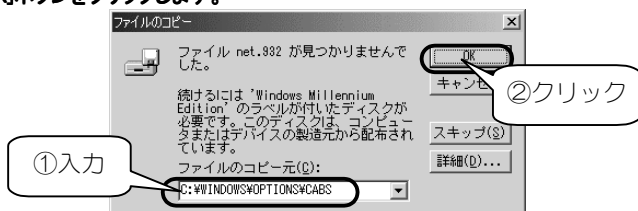
ファイル net.932 が見つかりませんでした。

続けるには 'Windows Millennium Edition' のラベルが付いたディスクが必要です。このディスクは、コンピュータまたはデバイスの製造元から配布されています。

ファイルのコピー元(C):

C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS

OK　キャンセル　スキップ(S)　詳細(D)...

①入力　②クリック

●他のWindowsからアップグレードインストールした場合（CD-ROMからWindows Meをインストールした場合）

→①［ファイルのコピー元］欄を以下のように指定します。

［C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥INSTALL］

（Windows MeがインストールされているドライブがCドライブの場合の例）

②［OK］ボタンをクリックします。

ファイルのコピー

ファイル net.932 が見つかりませんでした。

続けるには 'Windows Millennium Edition' のラベルが付いたディスクが必要です。このディスクは、コンピュータまたはデバイスの製造元から配布されています。

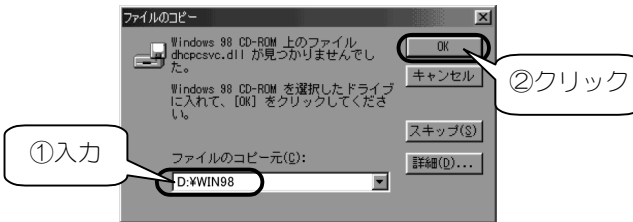
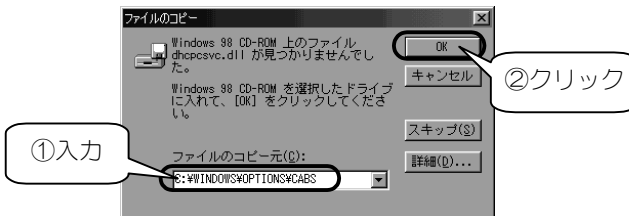
ファイルのコピー元(C):

C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥INSTALL

OK　キャンセル　スキップ(S)　詳細(D)...

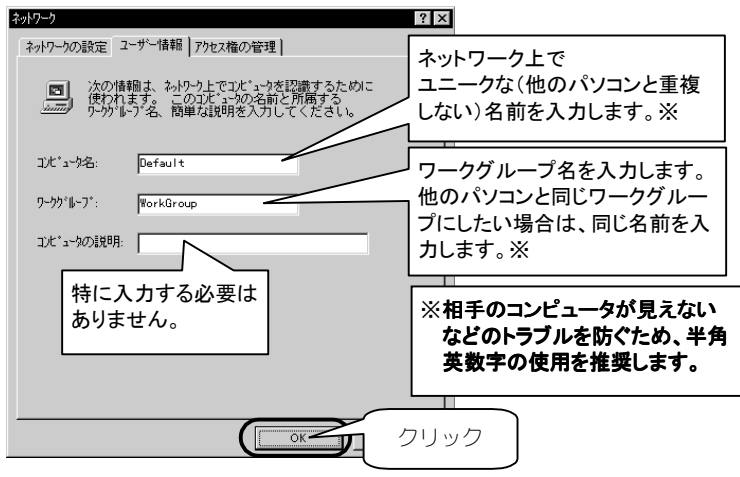
①入力　②クリック

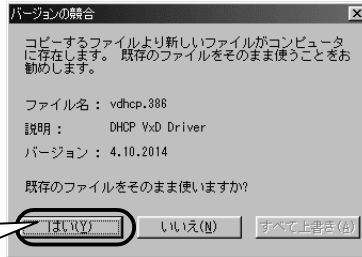
「Windows 98 CD-ROM」を要求された場合は
→①「Windows 98 CD-ROM」を CD-ROM ドライブにセットします。
②[OK]ボタンをクリックします。

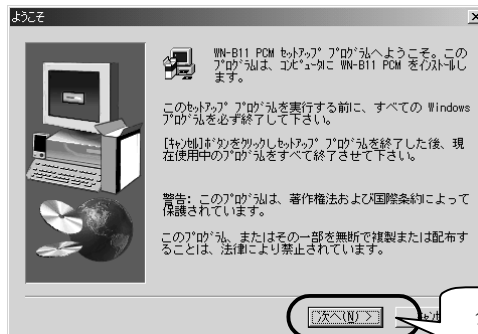
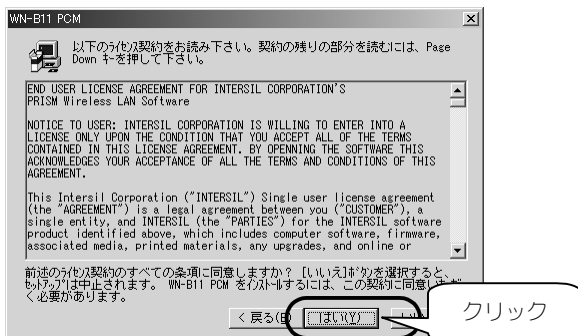
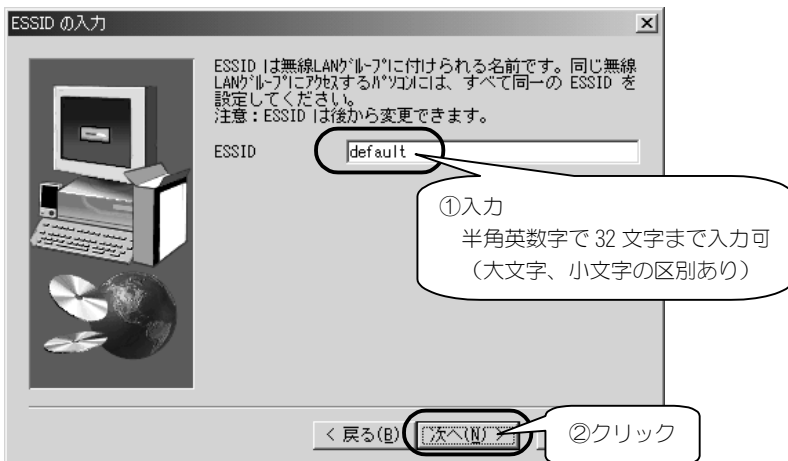
さらに、以下の画面が表示された場合は
→①[ファイルのコピー元]欄を以下のように指定します。
[D:¥WIN98]（CD-ROM ドライブが D ドライブの場合）
※Windows 98 プリインストールモデルをお使いの方は、次ページの「注意」もご覧ください。
②[OK]ボタンをクリックします。

[ファイルのコピー]画面で、お使いのパソコンが Windows 98 プリインストールモデルの場合は
→①[ファイルのコピー元]欄を以下のように指定します。
[C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS]
（Windows 98 がインストールされているドライブが C ドライブの場合の例）
②[OK]ボタンをクリックします。

Windows 95 プリインストールモデルを Windows 98（Second Edition を含む）へアップグレードした場合、および Windows 98 プリインストールモデルを Windows 98 Second Edition へアップグレードした場合は
→①[ファイルのコピー元]欄で、[C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS]は指定せず、CD-ROM ドライブを指定してください。
②[OK]ボタンをクリックします。

[ファイルのコピー]画面で、お使いのパソコンが Windows 95 プリインストールモデルの場合は
→①[ファイルのコピー元]欄を以下のように指定します。
[C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS]
（Windows 95 がインストールされているドライブが C ドライブの場合の例）
②[OK]ボタンをクリックします。

ファイルのコピー
Windows 95 CD-ROM 上のファイル afvxd.vxd が見つかりませんでした。
Windows 95 CD-ROM を選択したドライブに入れて、[OK] を押してください。
ファイルのコピー元(C):
C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS
OK
キャンセル
スキップ(S)
詳細(D)...
①入力
②クリック

以下の画面が表示された場合は
→必要な個所を入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。

注意！

[バージョンの競合]画面が表示された場合は
→[はい]ボタンをクリックします。
※複数の[バージョンの競合]画面が表示された場合は、すべて[はい]ボタンをクリックしてください。

12 **デスクトップ上の［設定ユーティリティのインストール］をダブルクリックします。**

13 **以下の画面が表示されますので、［次へ］ボタンをクリックします。**

14 内容を確認し、同意するなら［はい］ボタンをクリックします。

15 ［ESS ID］を設定し、［次へ］ボタンをクリックします。

⇒【①アクセスポイントを設置する】（24ページ）で記入した［SS ID］（または［ESS ID］）を入力してください。

注意！

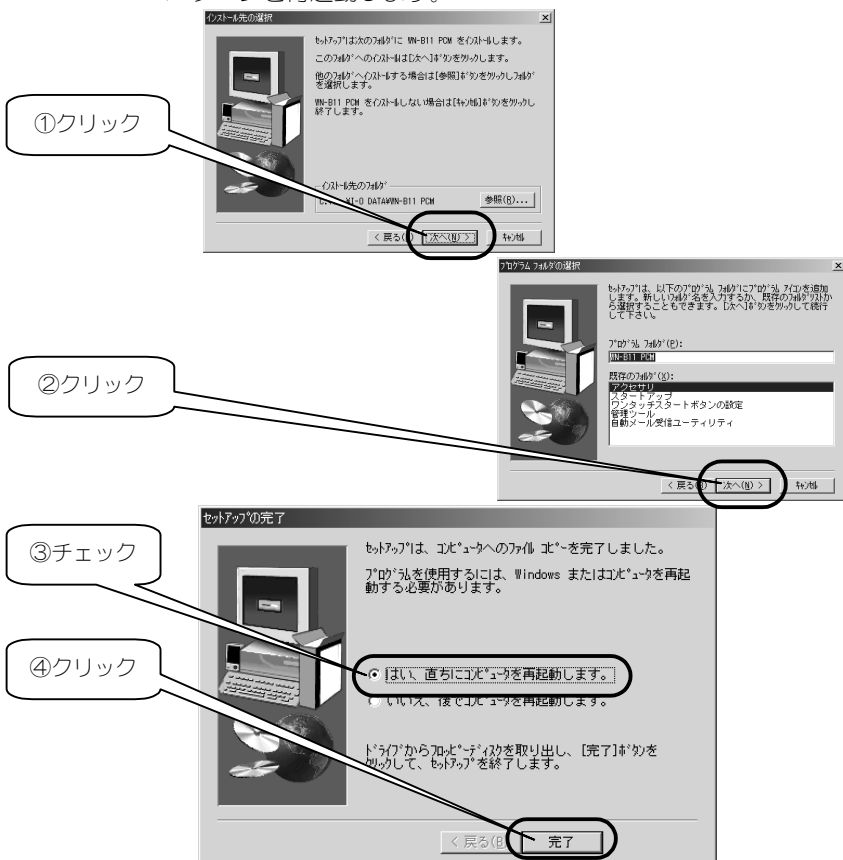
・本製品を含め、同一のアクセスポイントと通信する無線 LAN アダプタ製品は、すべて同じ ESS ID にする必要があります。

・ESS ID およびチャンネルの値が他の無線 LAN と重なると、他の無線 LAN に通信の内容が流れる、あるいは、他の無線 LAN の通信が来てしまいます。
そのために起こったトラブルに対しては弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

・アクセスポイント使用時の通信チャンネルはアクセスポイントの通信チャンネルが使用されます。

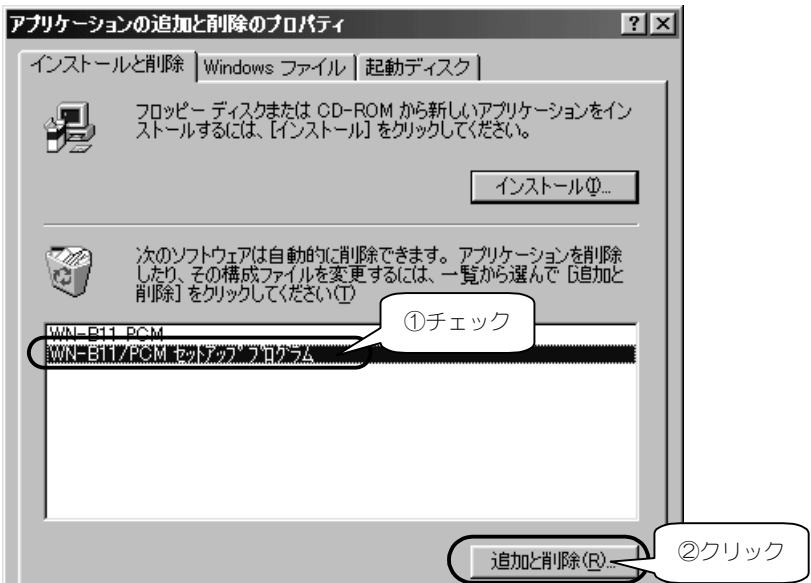
16 “Infrastructure”を選択後、［次へ］ボタンをクリックします。

17 画面の指示にしたがいます。

①[次へ]ボタンをクリックします。
②[次へ]ボタンをクリックします。
③[はい…]をチェックします。
④[完了]ボタンをクリックします。
　⇒パソコンを再起動します。

18 パソコン再起動後、[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]を開きます。

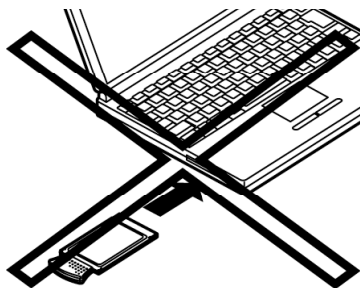
19 ここまでの手順で不要となった
[WN-B11/PCM セットアップ プログラム]を削除します。

[WN-B11/PCM セットアップ プログラム]をクリック後、[追加と削除]ボタンをクリックします。後は、画面の指示にしたがってください。

[WN-B11 PCM]は削除しないでください。

以上でインストールは終了です。【③使ってみる】(56ページ)へお進みください。

Windows NT 4.0で使う

ここでは、Windows NT 4.0へのインストール手順について説明します。

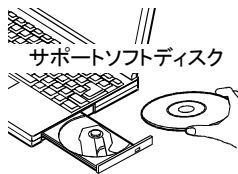
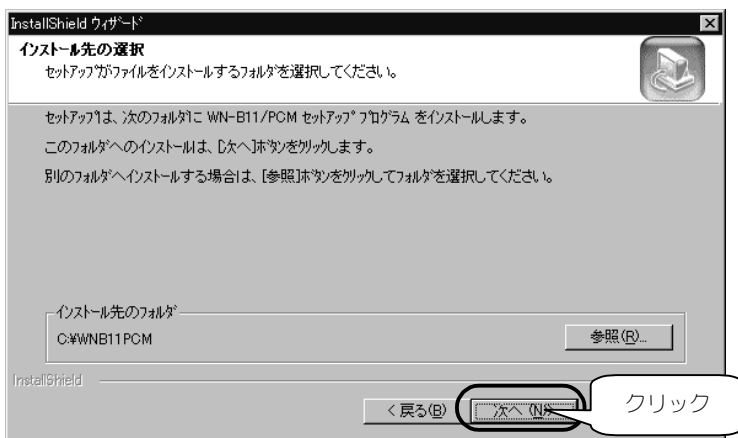
手順内で指示があるまで、本製品をPCカードスロットに挿入しないでください。

《カードを挿したまま、パソコンを起動してしまった場合…》
万一、カードを挿したままパソコンを起動した場合は、Windows NT 4.0を終了し、パソコンの電源を切った後、本製品を取り外してください。

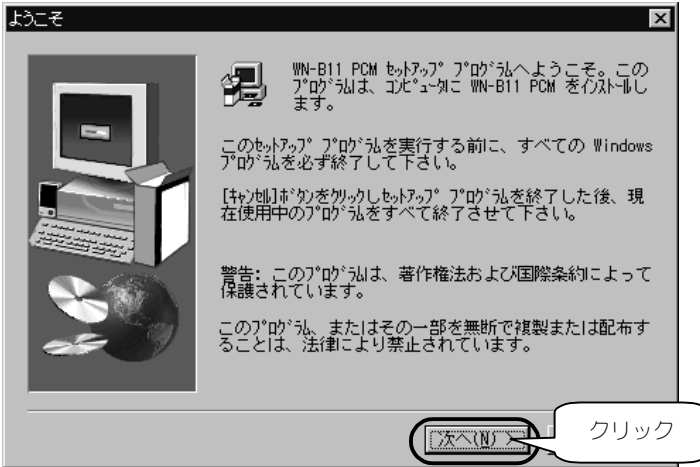
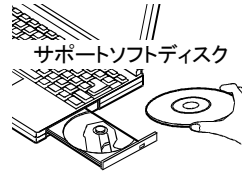
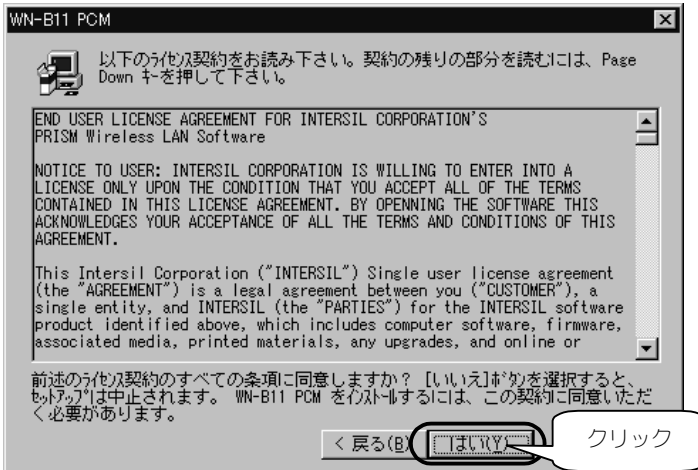
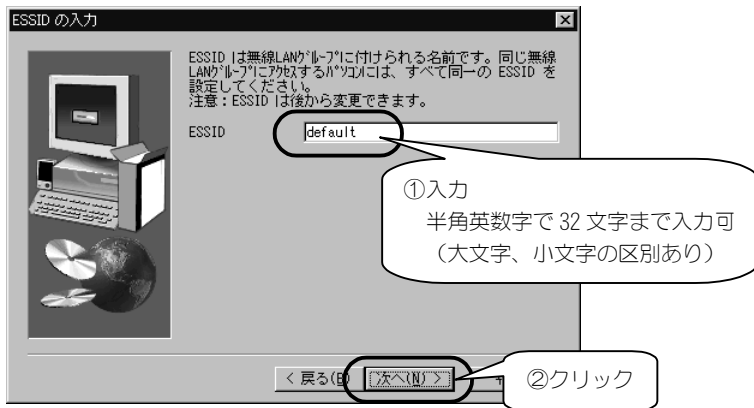
1 **Windows NT 4.0を起動し、Administrator権限を持ったユーザーでログインします。**

2 **サポートソフトディスクをCD-ROMドライブにセットします。**

3 **［マイコンピュータ］内のCD-ROMドライブの［Setup］をダブルクリックします。**

参考

お使いの環境によっては、[Setup]と表示されずに、[Setup.exe]と表示される場合があります。

4 ［次へ］ボタンをクリックします。

5 ［次へ］ボタンをクリックします。

6　サポートソフト取り出して、
【次へ】ボタンをクリックします。

7　内容を確認し、同意するなら［はい］ボタンをクリックします。

8 ［ESS ID］を設定し、［次へ］ボタンをクリックします。

⇒【①アクセスポイントを設置する】（24ページ）で記入した
［SS ID］（または［ESS ID］）を入力してください。

・本製品を含め、同一のアクセスポイントと通信する無線 LAN アダプタ製品は、すべて同じ ESS ID にする必要があります。
・ESS ID およびチャンネルの値が他の無線 LAN と重なると、他の無線 LAN に通信の内容が流れる、あるいは、他の無線 LAN の通信が来てしまいます。
そのために起こったトラブルに対しては弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

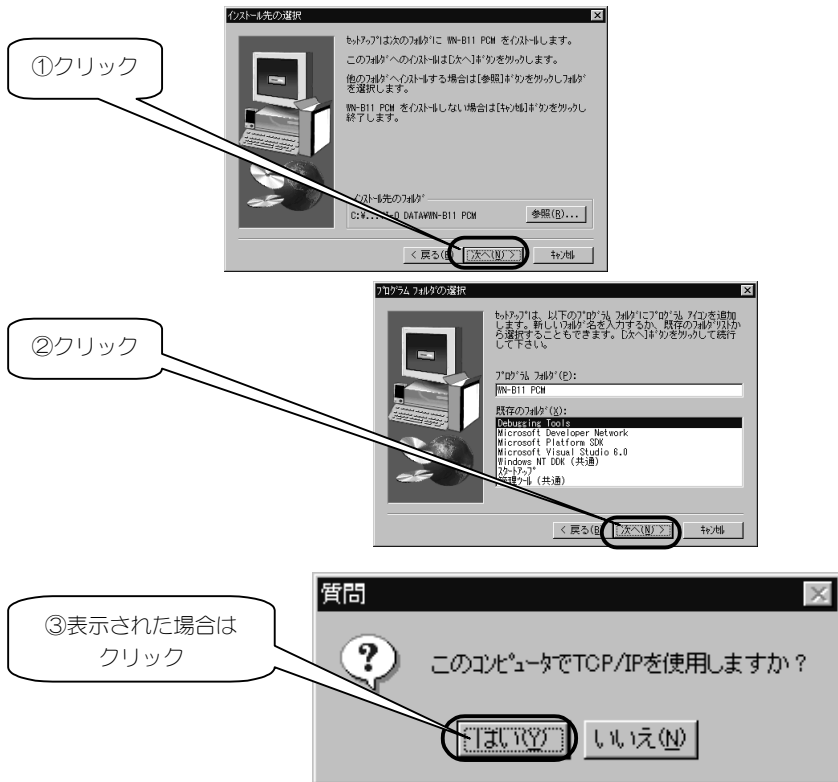
・アクセスポイント使用時の通信チャンネルはアクセスポイントの通信チャンネルが使用されます。

9 “Infrastructure”を選択し、［次へ］ボタンをクリックします。

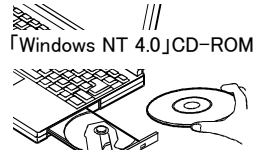
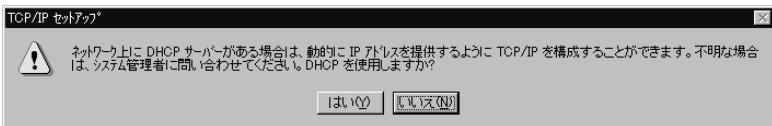
10 画面の指示にしたがいます。

①[次へ]ボタンをクリックします。
②[次へ]ボタンをクリックします。
③以前にネットワークの設定で［TCP/IP］を設定していない場合は、
［はい］ボタンをクリックしてください。

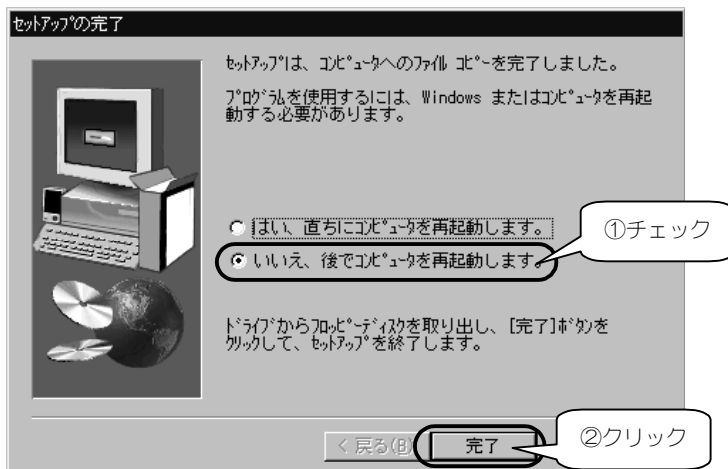
※以前に［TCP/IP］を設定していた場合は、画面は表示されません。

11 以下の画面が表示された場合は、次のようにします。

「Windows NT 4.0」CD-ROM

①「Windows NT 4.0」CD-ROMを
　CD-ROMドライブに挿入します。
②CD-ROMドライブの　i386 フォルダを指定します。
　（以下の画面例は、CD-ROMドライブがDドライブの場合）

③［次へ］ボタンをクリックします。

12 以下の画面が表示されたら、ネットワーク上（アクセスポイントで接続されているネットワークも含む）で**DHCPサーバを使用しているなら［はい］**ボタンを、**DHCPサーバを使用していないなら［いいえ］**ボタンをクリックしてください。

注意！

**クリック後、［TCP/IP のプロパティ］画面が表示された場合は、
ネットワーク管理者に設定を確認してください。**

13 **［いいえ、後でコンピュータ・…］をチェックし、［完了］ボタンをクリックしてください。**

14 **お使いの環境を選択します。**

この後の手順は、お使いのパソコンのネットワーク設定により異なります。

▼すでにネットワークを設定している場合

▼お使いのパソコンにLANポートがある場合

手順**22**（55ページ）へお進みください。

▼以前にネットワークを設定していない場合

以下の手順**15** へお進みください。

注意！ドメインコントローラにログオンする設定へ変更すると「NET Logon」の値は[自動]になりますが、改めて[手動]にする必要はありません。

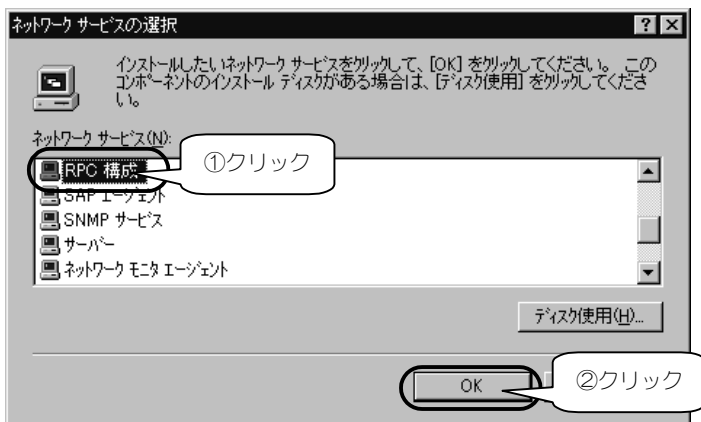
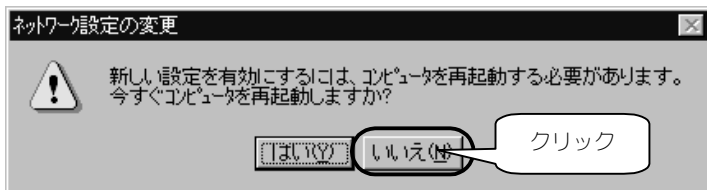
15 **［スタート］→［コントロールパネル］の［サービス］アイコンをダブルクリックします。**

16 **[Net Logon] をクリックして、[スタートアップ] ボタンをクリックします。**

17 **[手動] をチェックして、[OK] ボタンをクリックします。**

18 **[閉じる] ボタンをクリックします。**

19 **[ネットワーク] アイコンをダブルクリックし、[サービス] タブで [追加] ボタンをクリックします。**

20 **[RPC構成] をクリック後、[OK] ボタンをクリックします。**

21 **[いいえ] ボタンをクリックします。**

22 **再度、サービスパックをインストールし直します。**

23 **パソコンの電源を切ります。**

24 **本製品のラベル面を上にして、PCカードスロットの奥まで挿入します。**

25 **パソコンの電源を入れ,、Windows NT 4.0を起動します。**

26 **本製品の［LINK］ランプが点滅していることを確認します。**

以上でインストールは終了です。【③使ってみる】（次ページ）へお進みください。

③使ってみる

本製品をアクセスポイントと通信させるための設定を行います。

●ここで設定すること
アクセスポイントと通信する際は、本製品で以下の設定が必要です。
［SS ID］や［暗号キー］が同じでないと通信できません。
本製品の設定の前にアクセスポイントの設定を確認しておいてください。

▼本製品に必要な設定

モード	[Infrastructure]
SS ID	24ページで記入した［SS ID］
暗号キー	アクセスポイントと同じ［暗号キー］ （設定方法は【通信を暗号化する】(103ページ)参照）

●接続するパソコンのネットワーク設定を、完了しておいてください。
詳しくはネットワーク管理者やアクセスポイントの取扱説明書をご確認ください。

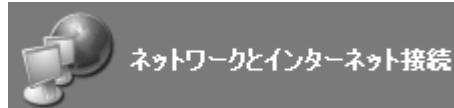
お使いのパソコンのOSごとに、設定方法が異なります。
以下の必要なページのみご覧ください。

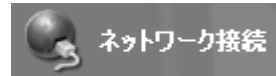
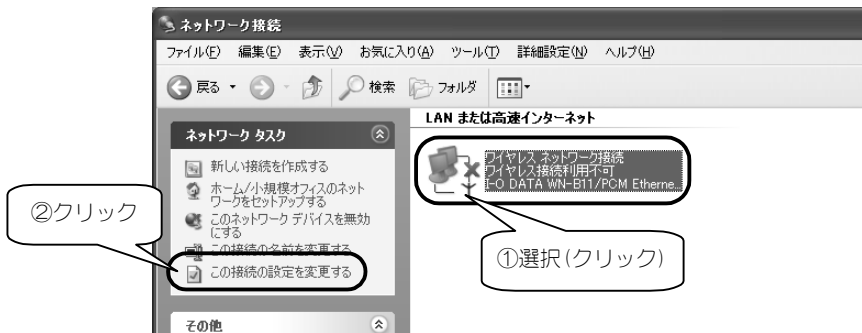
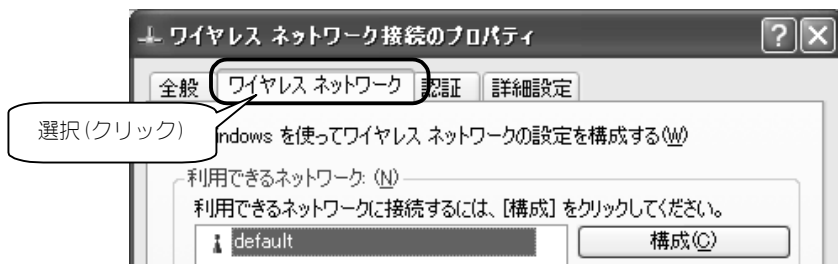
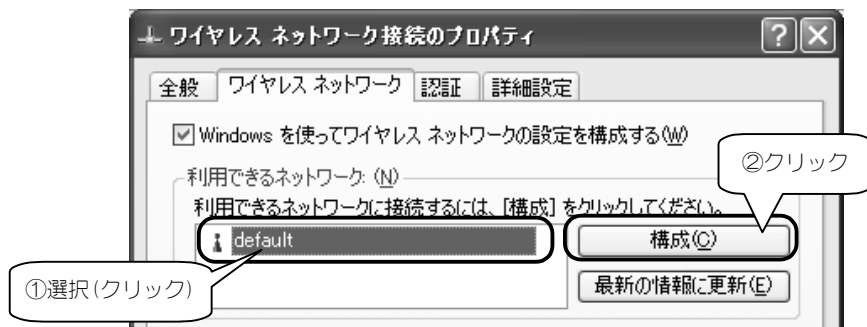
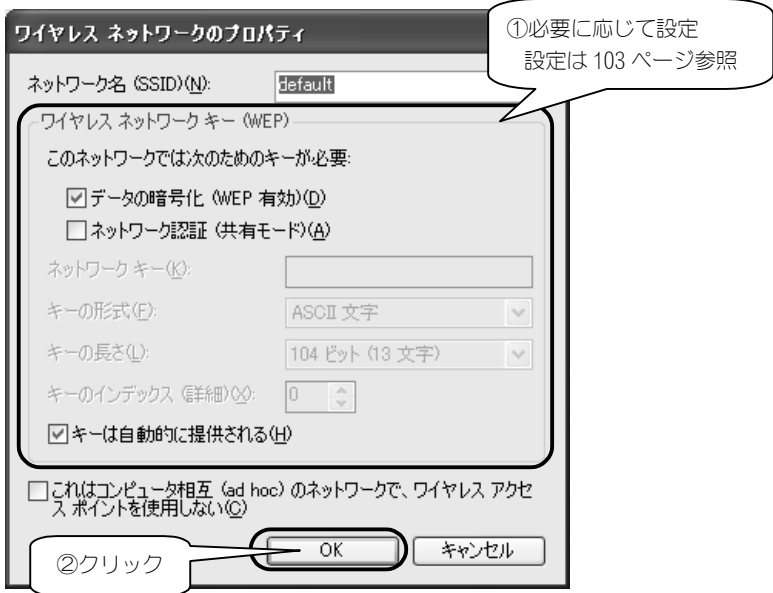
●Windows XPでご使用の場合
⇒【Windows XPで使う】（次ページ）

●Windows 2000/Me/98/95/NT 4.0でご使用の場合
⇒【Windows 2000/Me/98/95/NT 4.0で使う】（60ページ）

Windows XPで使う

1 [スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。

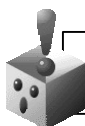
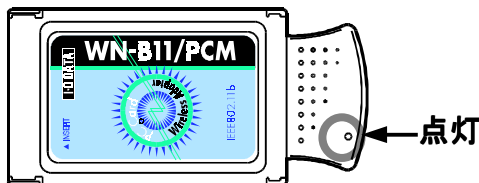
2 [ネットワークとインターネット接続]をクリックします。

[クラシック表示]の場合は、[ネットワーク接続]アイコンをクリックして手順4へお進みください。

3 [ネットワーク接続]をクリックします。

4 [ネットワーク接続]では、インストール済みの[ワイヤレスネットワーク接続]アイコンが表示されますのでアイコンを選択後、[この接続の設定を変更する]をクリックします。

5 **[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ]が表示されますので[ワイヤレスネットワーク]タブをクリックします。**

6 **[利用できるネットワーク]中にネットワーク名(24ページで確認したSSID)が表示されますので選択後、[構成]ボタンをクリックします。**

7 [ワイヤレスネットワークのプロパティ]画面が表示されますので暗号化(WEP)の設定を行う場合は設定し、暗号化を行わない場合はそのまま[OK]ボタンをクリックします。

8 [ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ]へ戻りますので[OK]ボタンをクリックします。

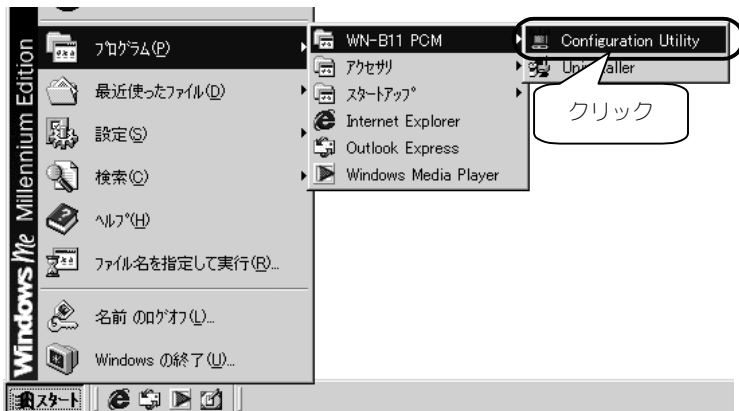
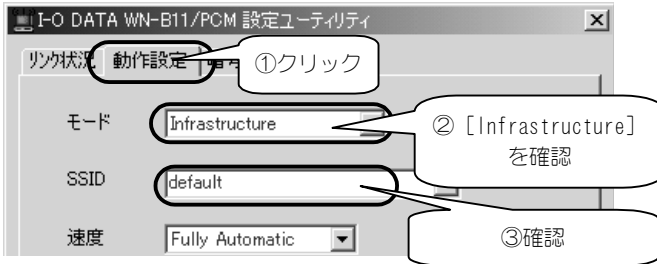
以上で設定は完了です。

Windows 2000/Me/98/95/NT 4.0で使う

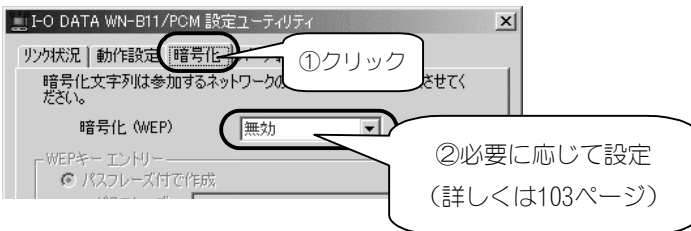
1 **アクセスポイントの電源が入っていることを確認してください。**

2 **本製品を装着したすべてのパソコンの電源を入れます。**

本製品の［LINK］ランプが緑色に点灯するかを確認してください。

3 **設定ユーティリティを起動します。**

［スタート］→［プログラム］→［WN-B11 PCM］→［Configuration Utility］を順にクリックします。

4 **［動作設定］タブで［モード］が［Infrastructure］となっていることを確認し、[SSID]がアクセスポイントと一致していることを確認します。**

参考

［モード］が異なっている場合や、アクセスポイントがネットワーク上に見つからない場合は、［LINK］ランプは点滅します。

5 **アクセスポイントで暗号化設定をしている場合は、［暗号化］タブで暗号化の設定をします。**

6　正常に通信できているかを確認します。

正常に通信できている場合、［リンク状況］タブで［状態］が“Associated ……”と表示されます。

確認後、［OK］ボタンをクリックして、画面を閉じてください。

以上で設定は完了です。

無線LANアダプタのみで通信する

Ad hocモード

本製品を使えるようにするには、以下の作業が必要です。手順にしたがって準備しましょう。

①使用環境を確認する

本製品を使用する環境を確認します。

 64ページ

②接続とインストール

本製品をパソコンに接続し、ドライバをインストールします。
OSにより手順が異なります。

 65ページ

③使ってみる

本製品を接続したパソコン同士で通信するための設定をします。

 79ページ

①使用環境を確認する

本製品を使用するには、SS IDとIPアドレスを決める必要があります。

1 **本製品を使用する環境を、以下から選び、チェックを付けます。**

□ 新たにネットワークを構築する（１台目の導入）	□ 既存のネットワークで使用する（追加導入）

2

SS ID（ESS ID）を決めます。 任意のSS ID（ESS ID）を決め、下に書き込んでください。 （半角英数字32文字以内で設定します。大文字、小文字の区別もあります。）	**ネットワーク管理者にSS ID（ESS ID）をご確認ください。** 確認したSS ID（ESS ID）を下に書き込んでください。

▼決めた(確認した)SS ID(ESS ID)を記入してください。

※SS ID(ESS ID)は【③使ってみる】で使用します。

SS ID(ESS ID)	

3

IPアドレスを決めます。 【IPアドレス設定例】（161ページ）をご覧の上、任意のIPアドレスを決め、下に書き込んでください。	**ネットワーク管理者にIPアドレスをご確認ください。** 確認したIPアドレスを下に書き込んでください。

▼決めた(確認した)IPアドレスを記入してください。

※IPアドレスは【③使ってみる】で使用します。

IP アドレス	. . .

●SS IDとは？
複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。SS IDが一致していないとそのネットワークには参加できません。アクセスポイントによっては、SS IDがESS IDと記載されている場合もあります。

②接続とインストール

本製品を接続しインストールします。

・パソコンへ OS をインストールする、または、OS をアップグレードにてインストールする際には、本製品を取り外した状態で行ってください。OS のインストール完了後に、再度本製品のインストールを行ってください。

・PC カードスロットが１つのみのパソコンで、PC カード接続の CD-ROM ドライブをお使いの方は、インストール時に CD-ROM ドライブが使えません。本製品を接続する前に、17 ページの手順でサポートソフトの内容をハードディスクにコピーしてください。インストール作業では、サポートソフトの挿入は不要となります。

・パソコンに CD-ROM ドライブが無い場合は、17 ページを参照してください。インストール作業では、サポートソフトの挿入は不要となります。

用意するもの

・サポートソフトディスク（CD-ROM）

接続とインストール

1．お使いのパソコンのOSごとに、インストール方法が異なります。以下の必要なページのみご覧ください。

●Windows XPでご使用の場合
⇒【Windows XPで使う】（26ページ～30ページ）

●Windows 2000/Me/98/95でご使用の場合
⇒【Windows 2000/Me/98/95で使う】
（31ページ～40ページの手順*14*まで）

●Windows NT 4.0でご使用の場合
⇒【Windows NT 4.0で使う】
（44ページ～47ページの手順*7*まで）

2．以下のページにお進みください。

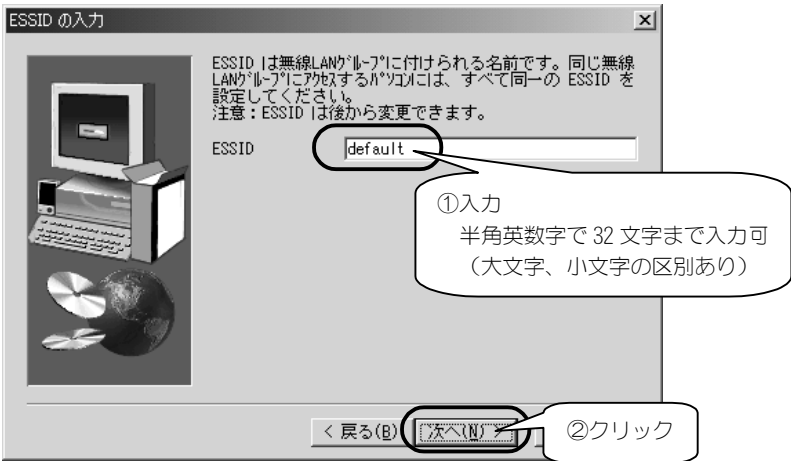
●Windows XPでご使用の場合
⇒【③使ってみる】（79ページ）

●Windows 2000/Me/98/95でご使用の場合
⇒【Windows 2000/Me/98/95で使う】（次ページ）

●Windows NT 4.0でご使用の場合
⇒【Windows NT 4.0で使う】（71ページ）

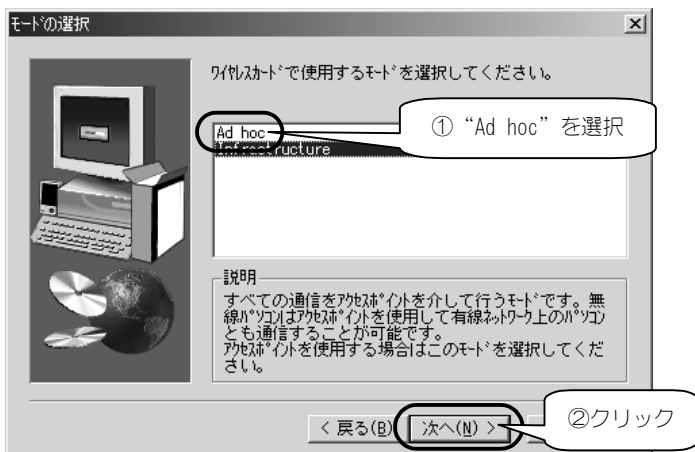
Windows 2000/Me/98/95で使う

40ページの手順からのつづき

15 ［ESS ID］を設定し、［次へ］ボタンをクリックします。

⇒【①使用環境を確認する】（64ページ）で記入した［SS ID］（［ESS ID］）を入力してください。

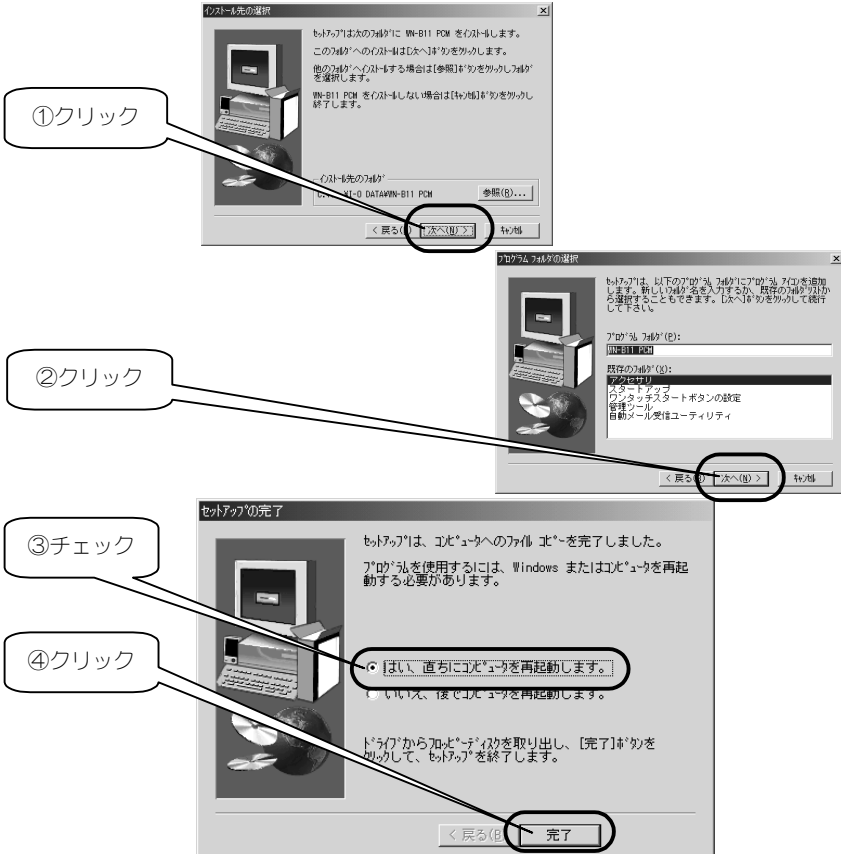
注意！

- **本製品を含め、同一のアクセスポイントと通信する無線 LAN アダプタ製品は、すべて同じ ESS ID にする必要があります。**
- **ESS ID およびチャンネルの値が他の無線 LAN と重なると、他の無線 LAN に通信の内容が流れる、あるいは、他の無線 LAN の通信が来てしまいます。**
  そのために起こったトラブルに対しては弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

16 “Ad hoc”を選択後、［次へ］ボタンをクリックします。

弊社製 USB 無線 LAN アダプタ「WN-B11/USB」と通信する場合、ここでの設定は、［Ad hoc］を選択しますが、【③使ってみる】に進む前に、設定ユーティリティで［通信モード］を［802.11 Ad hoc］に変更してください。

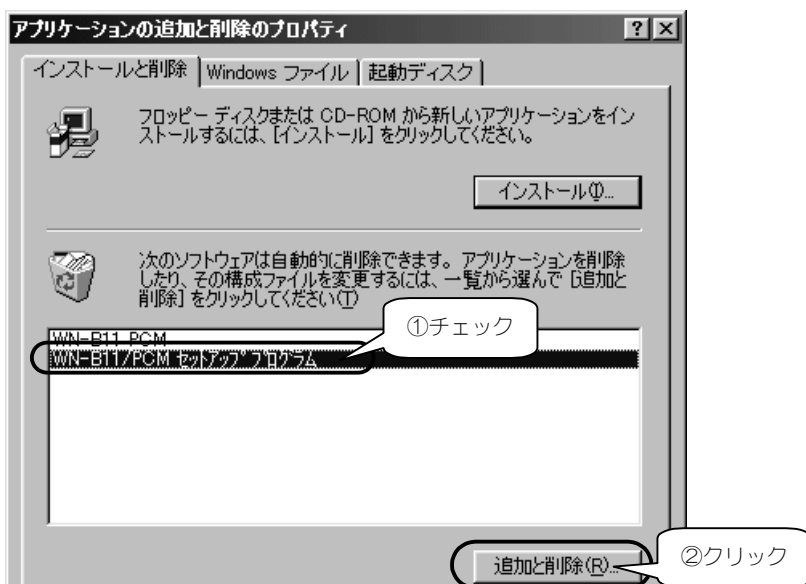
●［設定ユーティリティ］画面

17 画面の指示にしたがいます。

①[次へ]ボタンをクリックします。
②[次へ]ボタンをクリックします。
③[はい…]をチェックします。
④[完了]ボタンをクリックします。
⇒パソコンを再起動します。

18 パソコン再起動後、[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]を開きます。

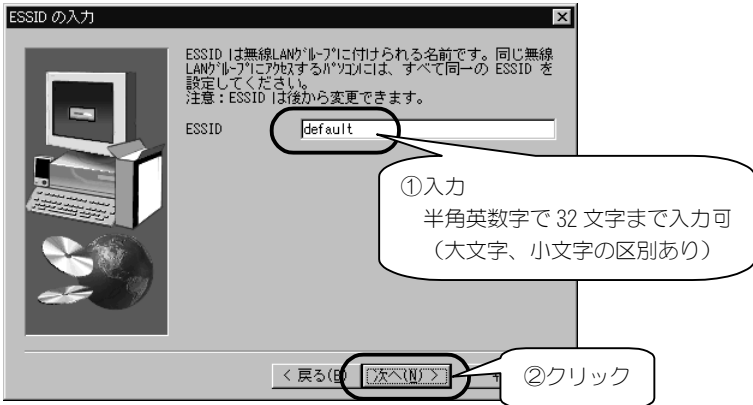
19 ここまでの手順で不要となった［WN-B11/PCM セットアップ プログラム］を削除します。

［WN-B11/PCM セットアップ プログラム］をクリック後、［追加と削除］ボタンをクリックします。後は、画面の指示にしたがってください。

［WN-B11 PCM］は削除しないでください。

以上でインストールは終了です。【③使ってみる】（79ページ）へお進みください。

Windows NT 4.0で使う

47ページの手順 7 からのつづき

8 ［ESS ID］を設定し、［次へ］ボタンをクリックします。

⇒【①使用環境を確認する】（64ページ）で記入した［SS ID］（［ESS ID］）を入力してください。

・本製品を含め、同一のアクセスポイントと通信する無線 LAN アダプタ製品は、すべて同じ ESS ID にする必要があります。

・ESS ID およびチャンネルの値が他の無線 LAN と重なると、他の無線 LAN に通信の内容が流れる、あるいは、他の無線 LAN の通信が来てしまいます。
そのために起こったトラブルに対しては弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

9 “Ad hoc”を選択し、［次へ］ボタンをクリックします。

弊社製 USB 無線 LAN アダプタ「WN-B11/USB」と通信する場合、ここでの設定は、［Ad hoc］を選択しますが、【③使ってみる】に進む前に、設定ユーティリティの［通信モード］を［802.11 Ad hoc］に変更してください。

●［設定ユーティリティ］画面

10 画面の指示にしたがいます。

①[次へ]ボタンをクリックします。

②[次へ]ボタンをクリックします。

③以前にネットワークの設定で［TCP/IP］を設定していない場合は、
［はい］ボタンをクリックしてください。

※以前に［TCP/IP］を設定していた場合は、画面は表示されません。

11 以下の画面が表示された場合は、次のようにします。

「Windows NT 4.0」CD-ROM

①「Windows NT 4.0」CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入します。

②CD-ROMドライブの　i386 フォルダを指定します。

（以下の画面例は、CD-ROMドライブがDドライブの場合）

③［次へ］ボタンをクリックします。

12 以下の画面が表示されたら、ネットワーク上（アクセスポイントで接続されているネットワークも含む）で**DHCPサーバを使用しているなら［はい］**ボタンを、**DHCPサーバを使用していないなら［いいえ］**ボタンをクリックしてください。

クリック後、［TCP/IP のプロパティ］画面が表示された場合は、ネットワーク管理者に設定を確認してください。

13 **[いいえ、後でコンピュータ・…] をチェックし、[完了]ボタンをクリックしてください。**

14 **お使いの環境を選択します。**

この後の手順は、お使いのパソコンのネットワーク設定により異なります。

▼すでにネットワークを設定している場合
▼お使いのパソコンにLANポートがある場合
　手順**22**（78ページ）へお進みください。
▼以前にネットワークを設定していない場合
　以下の手順**15**へお進みください。
　注意！ドメインコントローラにログオンする設定へ変更すると「NET Logon」の値は[自動]になりますが、改めて[手動]にする必要はありません。

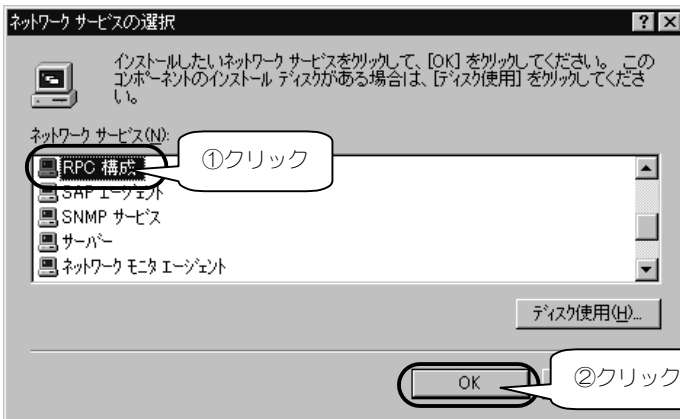
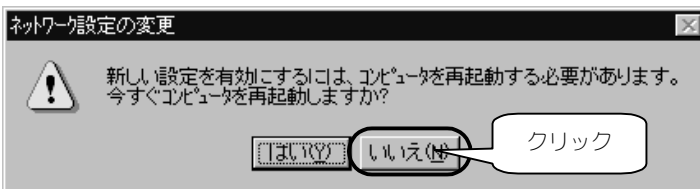
15 **[スタート] → [コントロールパネル] の [サービス] アイコンをダブルクリックします。**

16 ［Net Logon］をクリックして、［スタートアップ］ボタンをクリックします。

17 ［手動］をチェックして、［OK］ボタンをクリックします。

18 ［閉じる］ボタンをクリックします。

19 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックし、[サービス] タブで [追加] ボタンをクリックします。

20 [RPC構成] をクリック後、[OK] ボタンをクリックします。

21 [いいえ] ボタンをクリックします。

22 **再度、サービスパックをインストールし直します。**

23 **パソコンの電源を切ります。**

24 **本製品のラベル面を上にして、PCカードスロットの奥まで挿入します。**

25 **パソコンの電源を入れ、、Windows NT 4.0を起動します。**

26 **本製品の［LINK］ランプが点滅していることを確認します。**

以上でインストールは終了です。【③使ってみる】（次ページ）へお進みください。

③使ってみる

ここでは、無線LANアダプタ（本製品）同士で通信する場合［Ad hoc］モード（または［802.11 Ad hoc］モード）での手順について説明します。
本製品を接続したパソコンすべてにおいて、下記の設定をする必要があります。

・プロトコルを設定する
・ワークグループ名を同一にする
・共有を設定する（互いのパソコンのフォルダにアクセスする設定）

注意！

複数の無線LANグループがある場合は、それぞれのネットワークで別々の通信チャンネルの値（ユーティリティで設定する［チャンネル］の値）を設定してください。（電波の干渉を防ぐため５チャンネル分間隔を空けることをおすすめします。）
通信チャンネルの値が他の無線LANグループと重なると、他の無線LANグループに通信の内容が流れる、あるいは他の無線LANグループの通信が来てしまいます。そのために起こったトラブルに対しては弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

参考

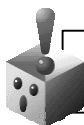
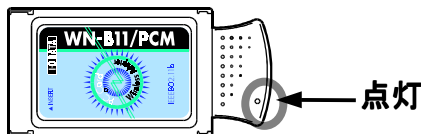
共有を設定すれば…
自分のパソコンのドライブやフォルダ等を共有設定すれば、他のパソコンからアクセスできるようになるため、マウス操作（マウスのドラッグアンドドロップ）で簡単にデータのやりとりができるようになります。

お使いのパソコンのOSごとに、設定方法が異なります。
以下の必要なページのみご覧ください。

●Windows XPでご使用の場合
⇒【Windows XPで使う】（次ページ）

●Windows 2000/Me/98/95/NT 4.0でご使用の場合
⇒【Windows 2000/Me/98/95/NT 4.0で使う】（87ページ）

Windows XPで使う

1　本製品を装着したすべてのパソコンの電源を入れます。

本製品の［LINK］ランプが緑色に点灯するかを確認してください。

2　[スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。

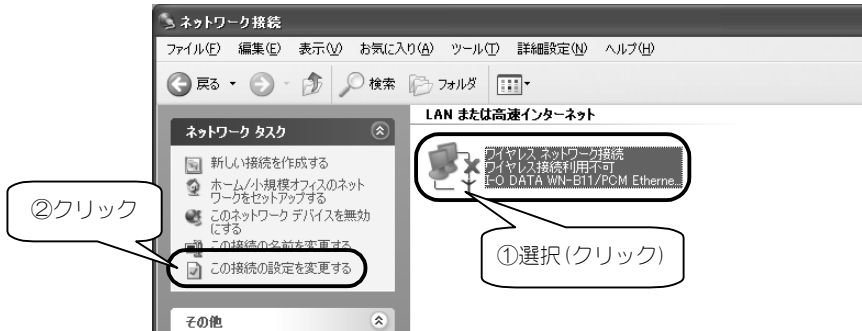
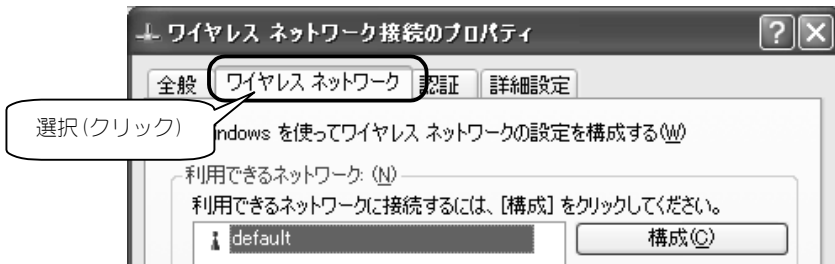
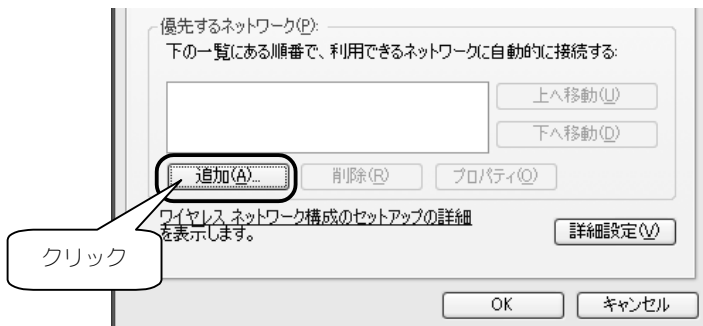
3　[ネットワークとインターネット接続]をクリックします。

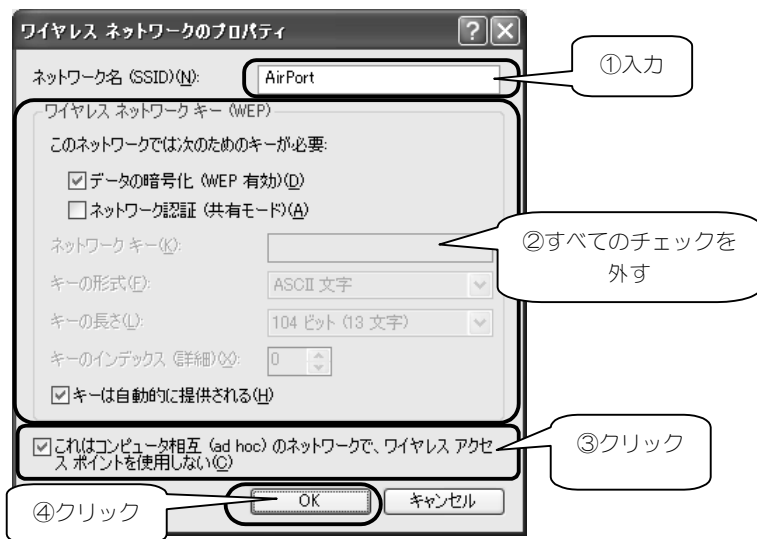
[クラシック表示]の場合は、[ネットワーク接続]アイコンを ダブルクリックして手順4へお進みください。

4　[ネットワーク接続]をクリックします。

5 **[ネットワーク接続]では、インストール済みの[ワイヤレスネットワーク接続]アイコンが表示されますのでアイコンを選択後、[この接続の設定を変更する]をクリックします。**

6 **[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ]が表示されますので[ワイヤレスネットワーク]タブをクリックします。**

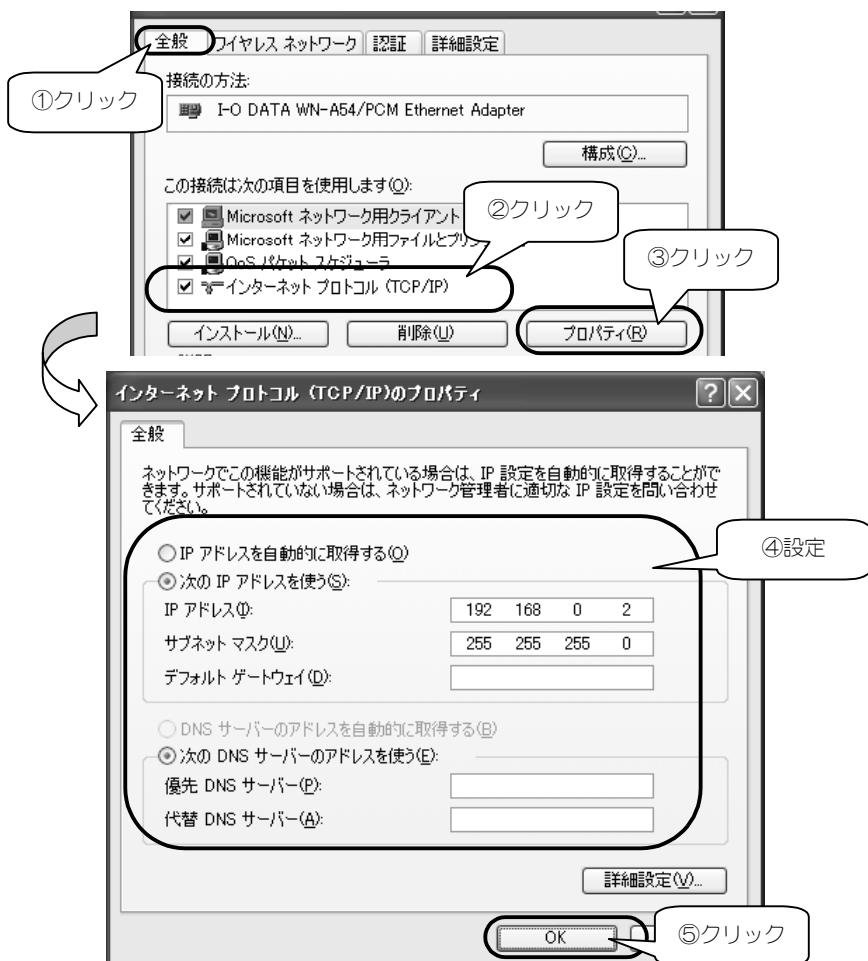
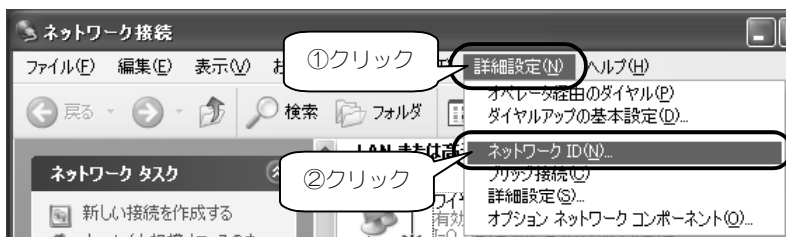
ワイヤレス ネットワーク接続のプロパティ
全般 ワイヤレス ネットワーク 認証 詳細設定
選択(クリック)
ndows を使ってワイヤレス ネットワークの設定を構成する(W)
利用できるネットワーク: (N)
利用できるネットワークに接続するには、[構成] をクリックしてください。
default
構成(C)

7 **[優先するネットワーク]の[追加]ボタンをクリックします。**

8 [ワイヤレスネットワークのプロパティ]画面が表示されますのでSS IDを入力します。

①【①使用環境を確認する】（64ページ）で確認したSS ID(ESS ID)を入力します。
②ワイヤレスネットワークキー（WEP）のチェックをすべて外します。
③「これはコンピュータ相互（Ad hoc）…」にチェックを付けます。
④[OK]ボタンをクリックします。

Windows XPのAd hocモードは、802.11 Ad hocとなります。

Windows XPではチャンネルの設定を行う必要はありません。

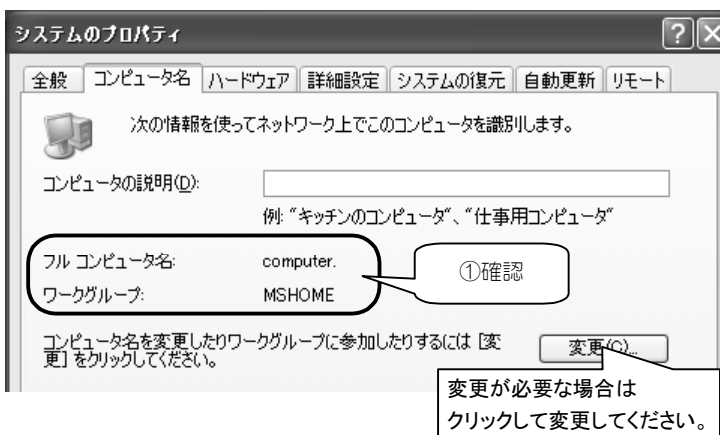
9 **[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ]へ戻りますので、[有線するネットワーク]に追加したSSIDが表示されているかを確認します。**

10 IPアドレスの設定を行います。

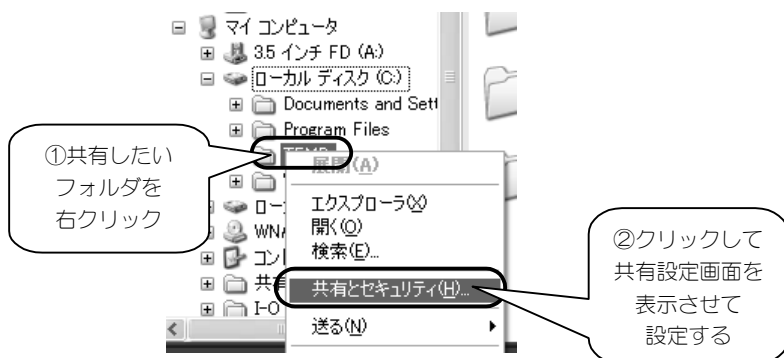
①［全般］タブをクリックします。
②［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をクリックします。
③［プロパティ］ボタンをクリックします。
④【①使用環境を確認する】（64ページ）で確認したIPアドレスを入力します。
⑤設定後、［OK］ボタンをクリックします。
⑥［ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ］画面に戻りますので、［OK］ボタンをクリックします。

11 [詳細設定]メニューの[ネットワークＩＤ]をクリックします。

12 ［フル コンピュータ名］と［ワークグループ］が以下となっていることを確認してください。

フル コンピュータ名	ネットワーク上のそれぞれのパソコンを識別するための名前。（それぞれのパソコンで別々な固有の名前を設定します。）※
ワークグループ	ネットワーク上でグループ分けするための名前。（同じグループではすべて同じグループ名を指定します。）※ 本製品を使って接続する同一ネットワーク上のすべてのパソコンで同じものを指定してください。

※相手のコンピュータが見えない等のトラブルを未然に防ぐため、半角英数字の使用をおすすめします。

変更が必要な場合は、[変更]ボタンをクリックして、変更してください。

13 このパソコンにあるドライブやフォルダあるいはプリンタをネットワーク上の別のパソコンで使いたい（共有したい）場合は、共有の設定をします。

詳細はWindows XPのヘルプを参照してください。

例：エクスプローラ上からの共有の設定

14 後は、［マイネットワーク］→［近くのコンピュータ］を順にダブルクリックすれば、本製品を装着した他のコンピュータ名や共有したフォルダ名等が表示されます。

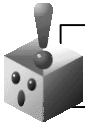
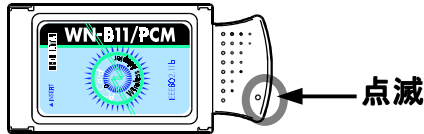
【困ったときには】の P132
をご参照ください。

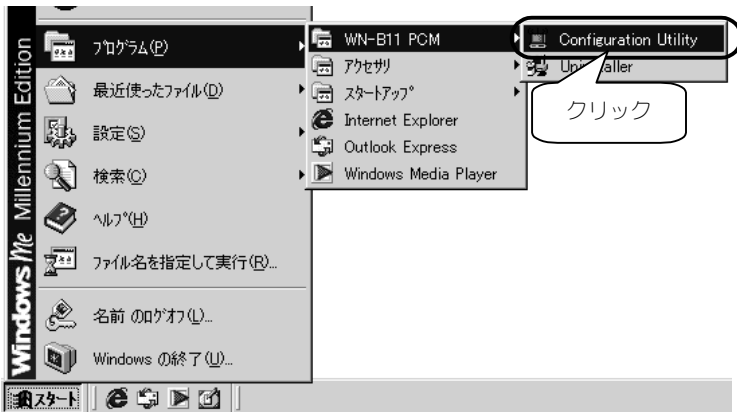
以上で設定は完了です。

・本書では、設定するプロトコルとして[TCP/IP]についてのみ説明しています。
他のプロトコルについては、ネットワーク管理者にご確認ください。
・弊社では、本製品が正しく動作し、ファイルやプリンタの共有が確認できるまでをサポート範囲としております。

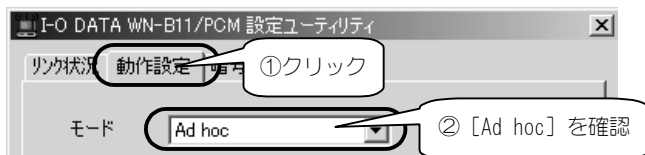
Windows 2000/Me/98/95/NT 4.0で使う

1　本製品を装着したすべてのパソコンの電源を入れます。

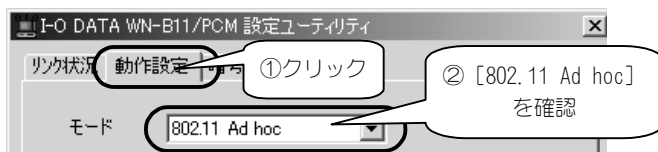
本製品の［LINK］ランプが緑色に点滅するかを確認してください。

2　設定ユーティリティを起動します。

［スタート］→［プログラム］→［WN-B11 PCM］→［Configuration Utility］を順にクリックします。

3 **［動作設定］タブで［モード］が以下のようになっていることを確認します。**

・本製品のみで構成するネットワークの場合

［モード］が［Ad hoc］となっていることを確認します。

※[Ad hoc]モードの場合、[LINK]ランプは点灯します。

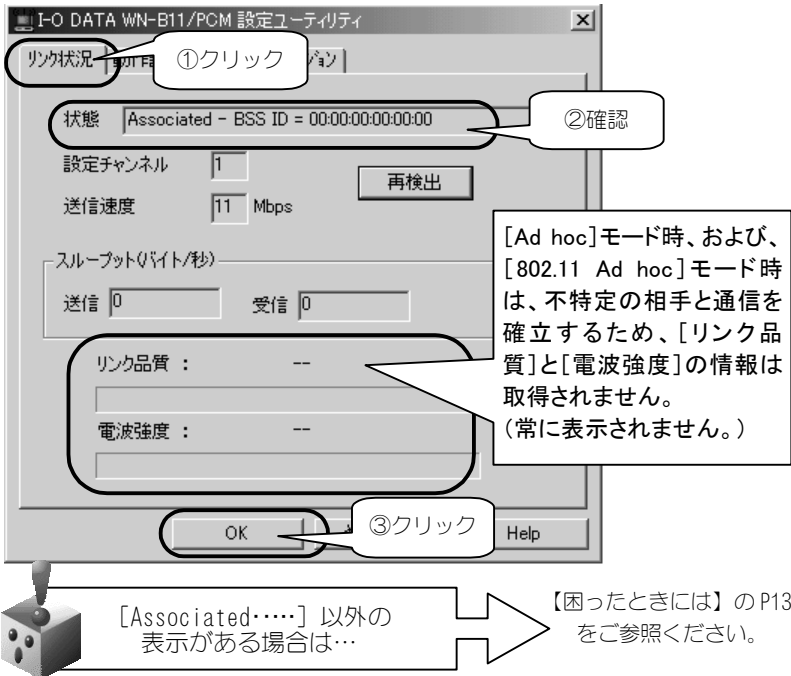
・弊社製無線LAN USBアダプタ［WN-B11/USB］と直接通信する場合

［モード］が［802.11 Ad hoc］となっていることを確認します。

※[802.11 Ad hoc]モードの場合、[LINK]ランプは点滅します。

4 正常に通信できているかを確認します。

正常に通信できている場合、［リンク状況］タブで［状態］が“Associated …”と表示されます。

確認後、［OK］ボタンをクリックして、画面を閉じてください。

【困ったときには】の P134 をご参照ください。

5 すべてのパソコンの［プロトコル］と［ワークグループ名］および、共有の設定を行います。

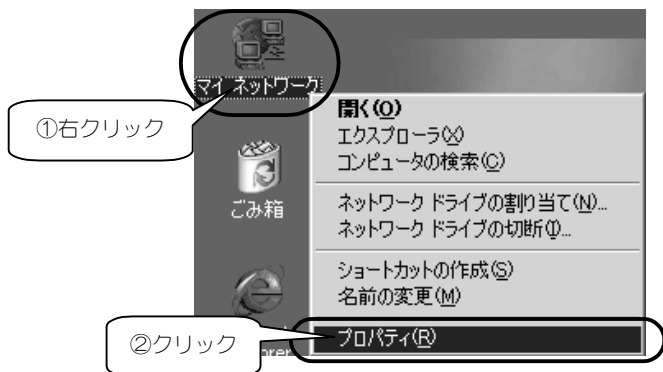
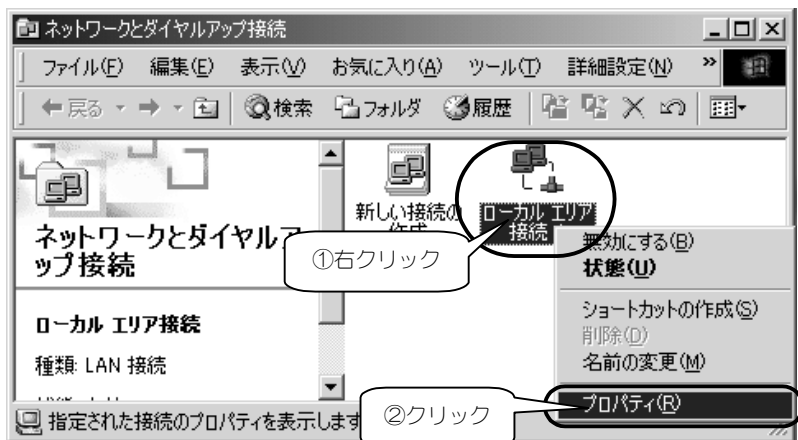
以下を参考にしてください。

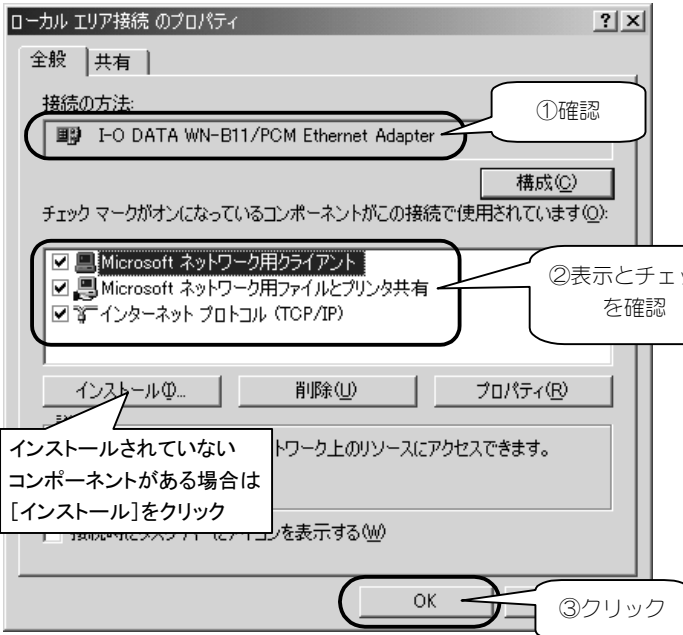
- Windows 2000の場合の設定　→　次ページ参照
- Windows Me/98/95の場合の設定　→　96ページ参照

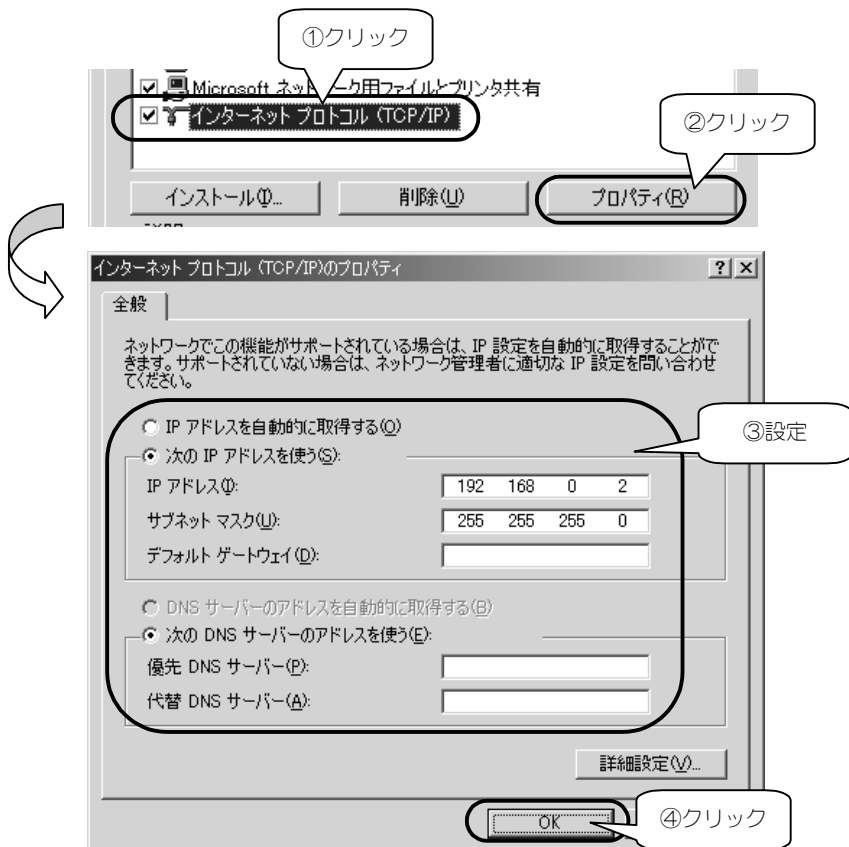
注意！

- **本書では設定するプロトコルとして［TCP/IP］についてのみ説明します。他のプロトコルについては、ネットワーク管理者にご確認ください。**
- **弊社では、本製品が正しく動作し、ファイルやプリンタの共有が確認できるまでをサポート範囲としております。**

●Windows 2000での共有設定

1 **[マイ ネットワーク]を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。**

2 **[ローカルエリア接続]を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。**

3　以下が表示およびチェックされているかを確認します。確認後、［OK］ボタンをクリックします。

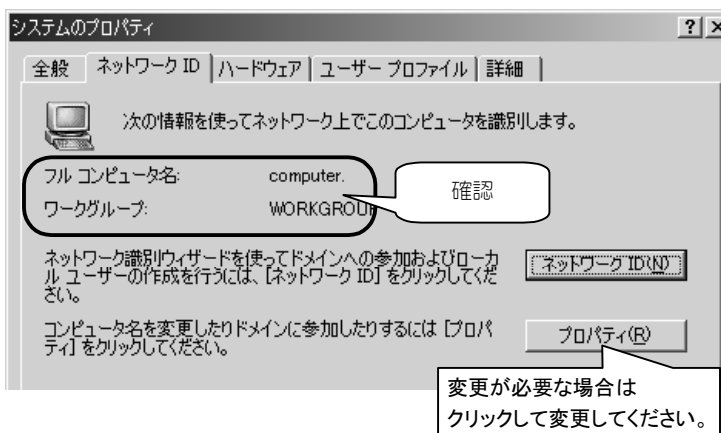
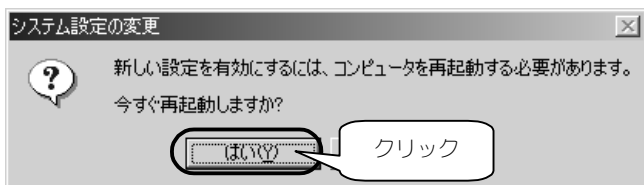
①［I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter］の表示
②［Microsoftネットワーク用クライアント］のチェック
［Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有］のチェック
［インターネットプロトコル（TCP/IP）］のチェック

4 IPアドレスを設定します。

①［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をクリックします。
②［プロパティ］ボタンをクリックします。
③【①使用環境を確認する】（64ページ）で確認したIPアドレスを入力します。
④［OK］ボタンをクリックします。

5 **[詳細設定]メニューの[ネットワークＩＤ]をクリックします。**

6 **［フル コンピュータ名］と［ワークグループ］が以下となっていることを確認してください。**

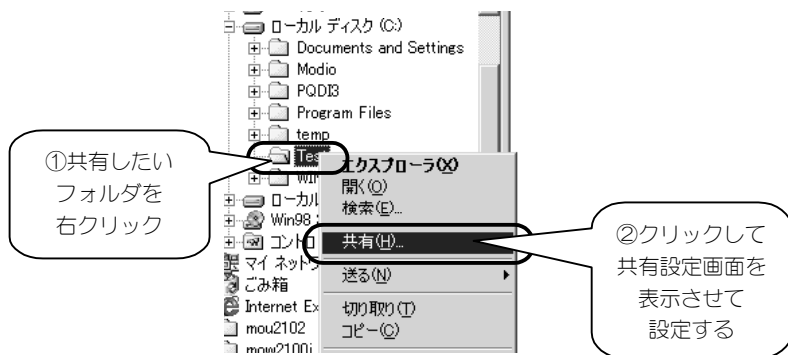
フル コンピュータ名	ネットワーク上のそれぞれのパソコンを識別するための名前。（それぞれのパソコンで別々な固有の名前を設定します。）※
ワークグループ	ネットワーク上でグループ分けするための名前。（同じグループではすべて同じグループ名を指定します。）※ 本製品を使って接続する同一ネットワーク上のすべてのパソコンで同じものを指定してください。

※相手のコンピュータが見えない等のトラブルを未然に防ぐため、半角英数字の使用をおすすめします。

変更が必要な場合は、[プロパティ]ボタンをクリックして、変更してください。

7 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動してください。

8 このパソコンにあるドライブやフォルダあるいはプリンタをネットワーク上の別のパソコンで使いたい（共有したい）場合は、共有の設定をします。

（詳細はWindows 2000のヘルプを参照してください。）

（エクスプローラ上からの共有の設定）

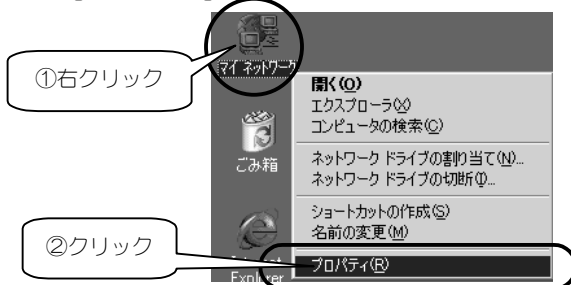
参考

共有を設定すれば…

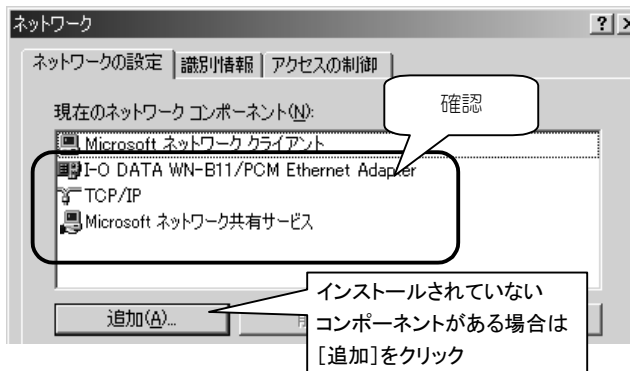
自分のパソコンのドライブやフォルダ等を共有設定すれば、他パソコンからアクセスできるようになるため、マウス操作（マウスのドラッグアンドドロップ）で簡単にデータのやりとりができるようになります。手順についての詳細はWindows 2000のヘルプを参照してください。

9　［マイネットワーク］→［近くのコンピュータ］を順にダブルクリックすれば、本製品を装着した他のコンピュータ名や共有したフォルダ名等が表示されます。

以上で設定は完了です。

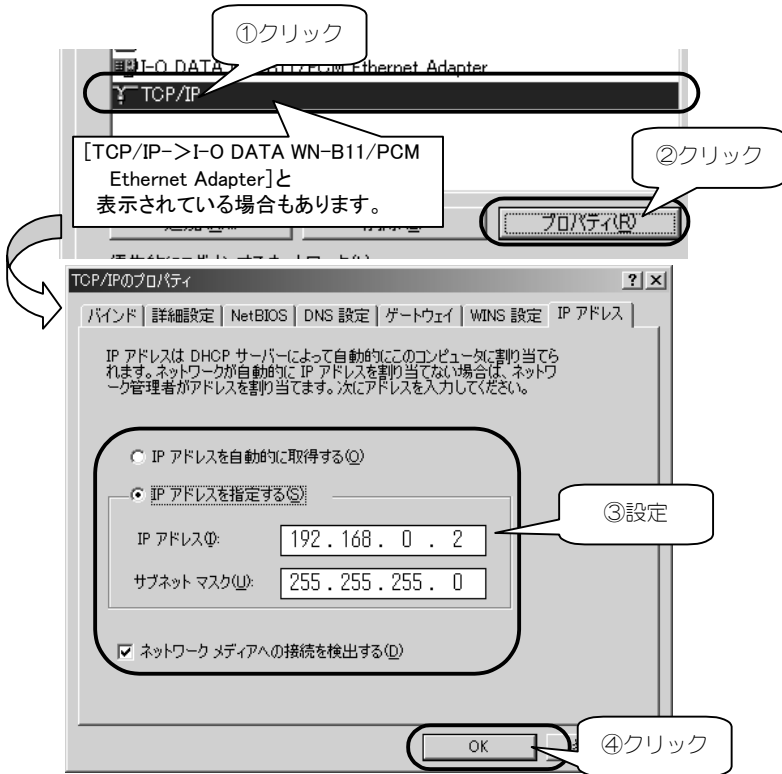
●Windows Me/98/95での共有設定

1 **[マイ ネットワーク]（ネットワークコンピュータ）を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。**

2 **以下（のコンポーネント）が表示されているかを確認します。**

・[Microsoftネットワーククライアント]
・[I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter]
・[TCP/IP]
・[Microsoftネットワーク共有サービス]
※[TCP/IP]と表示されずに、[TCP/IP->I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter]と表示されている場合もあります。

【困ったときには】のP132
をご参照ください。

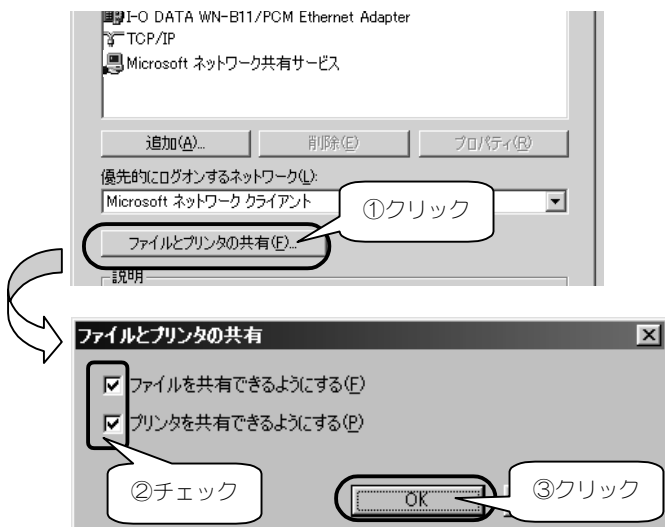
3 IPアドレスを設定します。

① [TCP/IP]（あるいは [TCP/IP->I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter]）をクリックします。

② [プロパティ] ボタンをクリックします。

③【①使用環境を確認する】（64ページ）で確認したIPアドレスを入力します。

④ [OK] ボタンをクリックします。

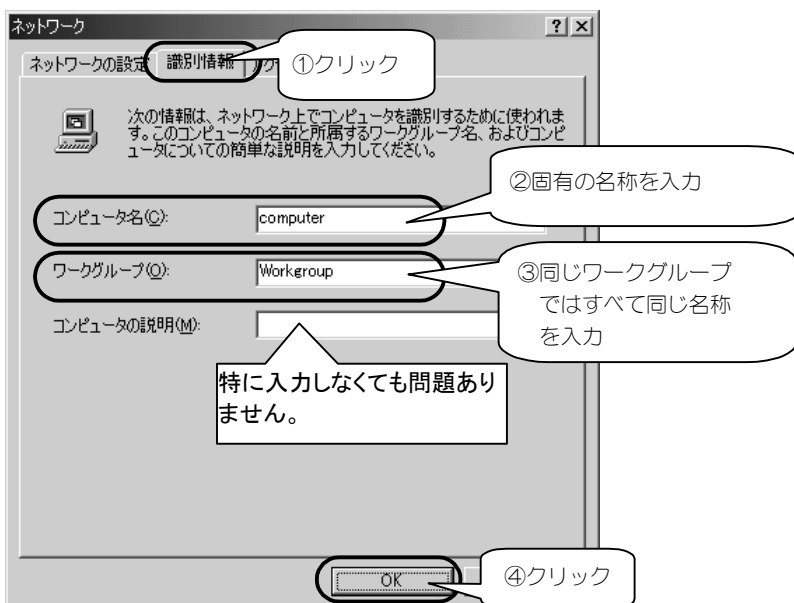
4　このパソコンにあるドライブやフォルダあるいはプリンタをネットワーク上の別のパソコンで使いたい（共有したい）場合は、共有の設定をします。

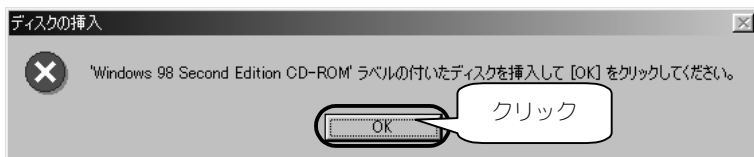
［ファイルとプリンタの共有］ボタンをクリックし、共有したい項目をチェックします。チェック後、［OK］ボタンをクリックします。

参考

共有を設定すれば…
自分のパソコンのドライブやフォルダ等を共有設定すれば、他のパソコンからアクセスできるようになるため、マウス操作（マウスのドラッグアンドドロップ）で簡単にデータのやりとりができるようになります。手順についての詳細はWindowsのヘルプを参照してください。

5 ［識別情報］タブをクリックして、［コンピュータ名］と［ワークグループ］に以下を入力し、［OK］ボタンをクリックしてください。

コンピュータ名	ネットワーク上のそれぞれのパソコンを識別するための名前。（それぞれのパソコンで別々な固有の名前を設定します。）※
ワークグループ	ネットワーク上でグループ分けするための名前。（同じグループではすべて同じグループ名を指定します。）※ 本製品を使って接続する同一ネットワーク上のすべてのパソコンで同じものを指定してください。

※相手のコンピュータが見えない等のトラブルを未然に防ぐため、半角英数字の使用をおすすめします。

③使ってみる

⇒以下のような画面が表示された場合は…

①WindowsのCD-ROMを挿入します。

②［OK］ボタンをクリックします。

⇒以下のような画面が表示された場合は…

ファイルのコピー

Windows 98 Second Edition CD-ROM 上のファイル arp.exe が見つかりませんでした。

Windows 98 Second Edition CD-ROM を選択したドライブに入れて、[OK] をクリックしてください。

OK

キャンセル

スキップ(S)

詳細(D)...

ファイルのコピー元(C):

D:¥WIN98

①入力

②クリック

［ファイルのコピー元］に以下を入力し、［OK］ボタンをクリックします。

- Windows 98をご自分でインストールした場合
  D:¥WIN98　　（CD-ROMドライブがDドライブの場合）
- Windows 98あるいはWindows 95プリインストールパソコンをお使いの場合
  Windowsがインストールされているドライブの
  ¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS

ファイルのコピー元(C):

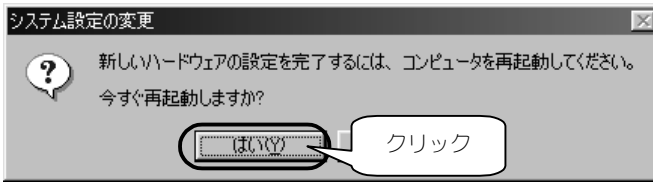
C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS

Windows 98やWindows 95が Cドライブにプリインストールされている場合の入力例

注意！

以下のアップグレードをした場合は、「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」は選択せず、CD-ROM ドライブを参照してください。

- **Windows 95 プリインストールモデルを、Windows 98（Second Edition 含む）へアップグレードした場合**
- **Windows 98プリインストールモデルをWindows 98 Second Editionへアップグレードした場合**

6 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動してください。

7 このパソコンにあるドライブやフォルダあるいはプリンタをネットワーク上の別のパソコンで使いたい（共有したい）場合は、共有の設定をします。

詳細は、Windowsのヘルプを参照してください。

（エクスプローラ上からの共有の設定）

8 ［マイネットワーク］（ネットワークコンピュータ）をダブルクリックすれば、本製品を装着した他のコンピュータ名や共有したフォルダ名等が表示されます。

以上で設定は完了です。

通信を暗号化する

本製品を暗号化する方法を説明します。

暗号化のメリット

通信を暗号化する長所について説明します。

▼

☞ 104ページ

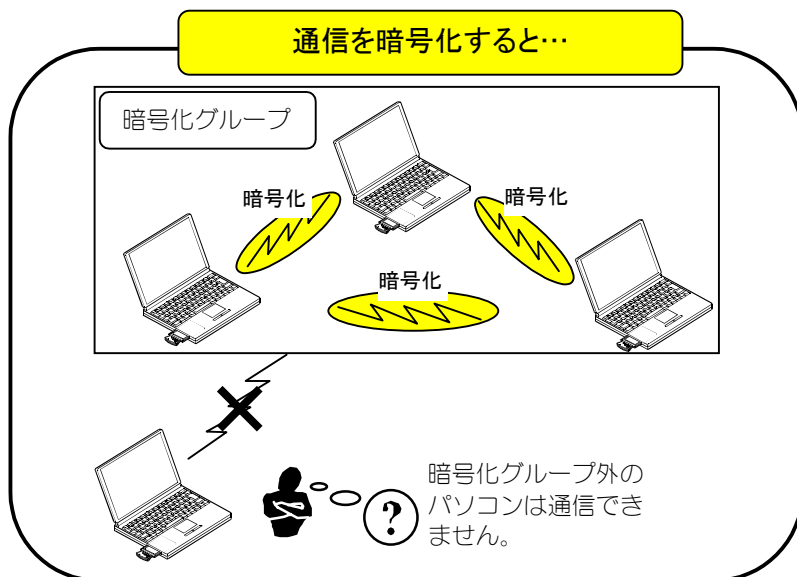
通信を暗号化する

通信内容を暗号化します。

▼

☞ 105ページ

暗号化のメリット

通信時に暗号化していない場合、電波の届く範囲であれば、通信内容を傍受される危険があります。
本製品では、無線LANの暗号化の標準であるWEP（Wired Equivalent Privacy）での暗号化を行うことによって、傍受の危険を回避することができます。

暗号化を行う場合、暗号化して通信するすべてのパソコンで設定が必要です。
アクセスポイントと通信する場合は、アクセスポイントの暗号キーに合わせてください。

通信を暗号化する

通信を暗号化する方法を説明します。

お使いのパソコンのOSごとに、設定方法が異なります。
以下の必要なページのみご覧ください。

●Windows XPでご使用の場合
⇒【Windows XPで設定する】（次ページ）

●Windows 2000/Me/98/95/NT 4.0でご使用の場合
⇒【Windows 2000/Me/98/95/NT 4.0で設定する】（107ページ）

Windows XPで設定する

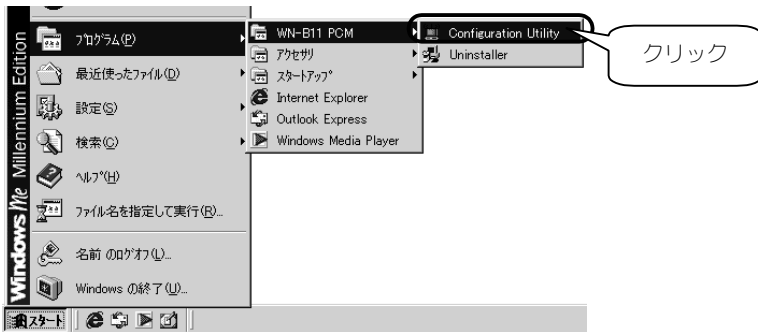
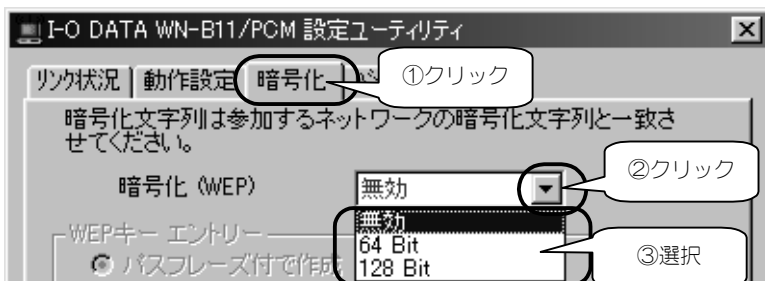
データの暗号化(WEP有効)	暗号化(WEP)を有効にする場合にクリックします。
ネットワーク認証(共有モード)	共有キー(シェアードキー)を使用する場合にクリックします
ネットワークキー	「キーの形式」に合わせた暗号キーを入力します。
キーの形式	暗号キーの形式を「ASCII文字」「16進数」から選択します。
キーの長さ	暗号キーを入力する長さを ASCII文字の場合 「40ビット(5文字)」「104ビット(13文字)」 16進数の場合 「40ビット(10桁)」「104ビット(26桁)」 から選択します。
キーのインデックス(詳細)	インデックスを0～3の範囲で指定します。 通常は0を指定します。
キーは自動的に提供される	ネットワークキーが提供される環境の場合はチェックを入れてください。

※「キーの長さ」と「キーのインデックス」は他のOS用に提供されている弊社製設定ユーティリティとWindows XPとで標記が異なります。それぞれ以下のように読み替えてください。
40ビット=64ビット、104ビット＝128ビット
キー1=キー0、キー2=キー1、キー3＝キー2、キー4＝キー3

Windows 2000/Me/98/95/NT 4.0で設定する

以下の暗号化設定は“64Bit”の暗号化を行う場合の例です。“128Bit”の暗号化を行う場合は、手順2で[暗号化（WEP）]を[128Bit]に設定し、以下手順にしたがってください。（一般的に暗号キーが長いほどセキュリティが高まります。）

1 設定ユーティリティを起動します。

［スタート］→［プログラム］→［WN-B11 PCM］→［Configuration Utility］を順にクリックします。

2 ［暗号化］タブをクリックし、［暗号化（WEP）］を設定します。

無効	通信時の暗号化は行いません。
64 Bit	64Bitの暗号化を行います。
128 Bit	128Bitの暗号化を行います。

3 **暗号方法を設定し、［OK］ボタンをクリックします。**

アクセスポイントと通信する場合は、アクセスポイントと同じ暗号キーを設定してください。

本製品同士のみでの暗号化の場合に、以下のパスフレーズでの設定で暗号化通信ができます。
弊社製無線LAN USBアダプタやアクセスポイントおよび他社製の無線LAN製品と暗号化を行う場合は、必ず次ページの手動による暗号化で暗号キーを設定してください。

●WEPキーを作成する場合

ここでは、「パスフレーズ」を使って作成する方法を説明します。

①［パスフレーズ付で作成］をチェックします。

②［パスフレーズ］に、好きな文字列を入力します。

③［更新］ボタンをクリックします。

⇒「キー１」～「キー４」が作成されます。

④［デフォルト送信キー］で選択されている番号のキーをメモします。

※このキーを次ページの[WEPキーがある場合]を参照して、他のパソコンに入力します。

⑤［OK］ボタンをクリックします。

⑥Windowsを再起動します。

●WEPキーがある場合

①［手動で作成］をチェックします。

②［デフォルト送信キー］で選択されている番号のキーにWEPキーを入力します。

※通常、［デフォルト送信キー］は「1」を選択します。

③［更新］ボタンをクリックします。

④［OK］ボタンをクリックします。

⑤Windowsを再起動します。

入力するキー	0～9またはA～Fの文字列を用いて入力してください。 ※設定する値は、本製品と通信する機器と同じ値にする必要があります。 すでに設定済みの機器と通信する場合は、設定済み機器の暗号キーの値を確認し、入力してください。 （他社製品との暗号化については、次ページ参照）

暗号化を行う場合、暗号化で通信するすべてのパソコンで設定する必要があります。
アクセスポイントと通信する場合は、アクセスポイントの暗号化キーに合わせてください。

暗号キー入力方式の異なる他社製品との暗号化について

本製品を含む WN-B11 シリーズでは、暗号キーとして 16 進コードでの暗号キー入力方式を採用していますが、他社製品には、５文字の英数字・記号で暗号キーを指定する方式や、文字列から 16 進コードへ変換する際、本製品と変換方式の異なる製品があります。
これらの製品と暗号化を行う場合は、最初に英数字・記号の５文字で暗号キーに使用する文字列を決め、16 進コードを入力できない他社製品はこの５文字の文字列を入力します。
WN-B11 シリーズや 16 進コードを入力可能な他社製品にはこの５文字の文字列を下記対応表に基づき、16 進コードに変換したうえで入力することで通信可能となります。
各文字と 16 進コードの対応については下記の表を参照してください。
〈例〉 文字で ″PLANT″ と設定している場合、
16進コードでは [50 4c 41 4e 54] となります。

文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進
!	21	/	2f	=	3d	K	4b	Y	59	g	67	u	75
″	22	0	30	>	3e	L	4c	Z	5a	h	68	v	76
#	23	1	31	?	3f	M	4d	[	5b	I	69	w	77
$	24	2	32	@	40	N	4e	¥	5c	j	6a	x	78
%	25	3	33	A	41	O	4f	]	5d	k	6b	y	79
&	26	4	34	B	42	P	50	^	5e	l	6c	z	7a
’	27	5	35	C	43	Q	51	_	5f	m	6d	{	7b
(	28	6	36	D	44	R	52	`	60	n	6e	|	7c
)	29	7	37	E	45	S	53	a	61	o	6f	}	7d
＊	2a	8	38	F	46	T	54	b	62	p	70	~	7e
+	2b	9	39	G	47	U	55	c	63	q	71		
,	2c	:	3a	H	48	V	56	d	64	r	72		
−	2d	;	3b	I	49	W	57	e	65	s	73		
.	2e	<	3c	J	4a	X	58	f	66	t	74		

設定ユーティリティを使う

設定ユーティリティを使って設定を行う方法を説明します。
設定ユーティリティを使用するのはWindows 2000/Me/98/95/NT 4.0のみです。Windows XPでは使用しません。

設定ユーティリティのメリット

設定ユーティリティを使う長所を説明します。

☞ 112ページ

設定ユーティリティを使う

設定ユーティリティの詳細を説明します。

☞ 113ページ

設定ユーティリティのメリット

設定ユーティリティでは、以下の機能があります。

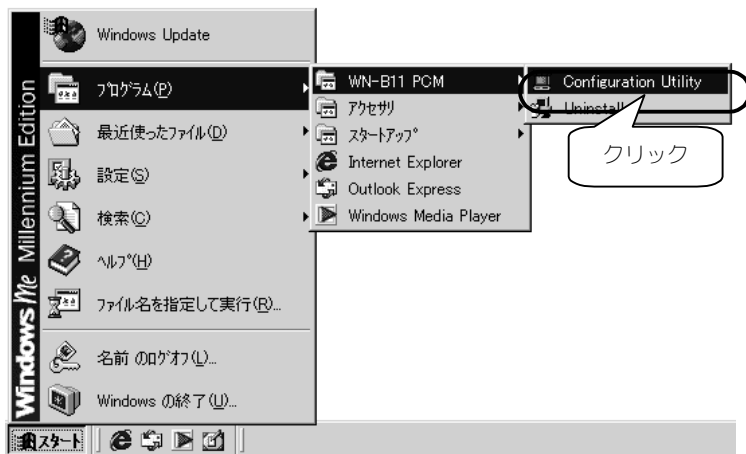
機能名	内容
リンク状況	通信状態を表示します。 実際に通信が正常に行われているか確認できます。
動作設定	無線LANの設定ができます。
暗号化	通信の暗号化の設定ができます。
バージョン	設定ユーティリティの説明です。

本製品の設定ユーティリティは、Windows 2000/Me/98/95/NT 4.0専用です。
Windows XPでは使用しません。

設定ユーティリティを使う

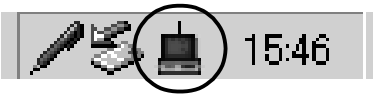
ここでは、ユーティリティの詳細について説明します。

ユーティリティの起動方法

［スタート］→［プログラム］→［WN-B11 PCM］→［Configuration Utility］を順にクリックすれば起動できます。

画面右下のタスクトレイのアイコンをクリックすることでも起動することができます。

クリック

アイコン色による電波強度の確認

タスクトレイのアイコンの色によって、電波強度を確認することができます。

<table>
<tr><th>モード</th><th>アイコン色による電波強度</th></tr>
<tr><td>Infrastructure</td><td>緑････電波強度　　最強～強
黄････電波強度　　普通～弱
赤････アクセスポイントと通信できない電波強度です。</td></tr>
<tr><td>Ad hoc、または
802.11 Ad hoc</td><td>緑････他の無線LANアダプタ製品と通信できている状態
赤････他の無線LANアダプタ製品と通信できていない状態</td></tr>
</table>

通信状態の表示……［リンク状況］

ユーティリティの［リンク状況］タブでは、通信状態を表示します。
実際に通信が正常に行われているか確認することができます。

項目	設定内容
状態	ドライバの状態を表示します。 "Associated"と表示されている場合は正常に動作しています。BSSID（Basic SSID）にはコンピュータが接続しているアクセスポイントのMACアドレスが表示されます。 "Scanning"と表示されている場合は使用可能なアクセスポイントを検索しています。 エラーメッセージが表示されている場合はドライバの初期化に失敗しています。
設定チャンネル	現在使用しているチャンネルを表示します。
送信速度	現在の送信速度を表示しています。
［再検出］ボタン	設定されている値を使用して再度無線ネットワークの検出を行います。

項目	設定内容
スループット（バイト／秒）	現在のスループットをおおよその値で表示しています。
リンク品質	**・[Infrastructure]モード時** リンクの品質をパーセンテージ・グラフおよび５段階評価で表示しています。 リンク品質は送受信エラーの率によって変化します。 **・[Ad hoc]モード時** リンク品質に関係無く、何も表示されません。 **※[Ad hoc]モード時は、不特定の相手と通信を確立するため、[リンク品質]の情報は取得されません。（常に表示されません。）**
電波強度	**・[Infrastructure]モード時** 電波の強度をパーセンテージ・グラフおよび５段階評価で表示しています。 電波強度は受信している電波の強さによって変化します。 **・[Ad hoc]モード時** 電波の強度に関係なく、何も表示されません。 **※[Ad hoc]モード時は、不特定の相手と通信を確立するため、[電波強度]の情報は取得されません。（常に表示されません。）**

無線LANの設定……［動作設定］

ユーティリティの［動作設定］タブでは、無線LANの設定を行うことができます。

項目	設定内容
モード	通信モードの設定です。 [Infrastructure]：（初期値） アクセスポイント（弊社製WN-B11/AXPなど）と通信する場合に選択します。 [Ad hoc]： アクセスポイントと通信しない場合で、本製品同士のみで構成するネットワークで使用する場合に選択します。 [802.11 Ad hoc]： アクセスポイントと通信しない場合で、弊社製無線LANUSBアダプタ「WN-B11/USB」とともに構成するネットワークで使用する場合に選択します。

<table>
<tr><th>項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td>SS ID</td><td>アクセスポイント（弊社製WN-B11/AXPなど）と通信する場合は、アクセスポイントの［SS ID］を入力してください。
半角英数字で32文字まで入力できます。（大文字、小文字の区別もあります。）
アクセスポイントと通信しない場合、他の無線機器と同一のSSIDを入力します。）</td></tr>
<tr><td>速度</td><td>接続時の通信速度です。
以下より選択できます。
<table>
<tr><td>[Fully Automatic]</td><td>（初期値）
通信可能な最高速度で通信します。
（最高11Mbps）</td></tr>
<tr><td>[1 Mb]</td><td>１Mbpsで通信します。</td></tr>
<tr><td>[2 Mb]</td><td>２Mbpsで通信します。</td></tr>
<tr><td>[Auto 1 or 2 Mb]</td><td>２Mbpsあるいは１Mbpsの通信可能な速度で通信します。</td></tr>
<tr><td>[5.5 Mb]</td><td>5.5Mbpsで通信します。</td></tr>
<tr><td>[11 Mb]</td><td>11Mbpsで通信します。</td></tr>
</table>※電波状態により自動的に設定した速度よりも低速に落ちることもあります。</td></tr>
<tr><td>省電力</td><td>本製品自体のパワーセーブ（PS：PowerSaving）モード［省電力モード］の設定です。
現在は対応しておりませんので、[Disable]のままご利用ください。
[Disable]: パワーセーブは行いません。
[Enable]: パワーセーブを行います。（現在、未対応）
パワーセーブモードでは、通信していない場合に自動的に休止状態となり、通信を開始すると動作を再開します。</td></tr>
</table>

項目	設定内容
チャンネル	通信チャンネル（使用する電波の周波数に番号を割り当てたもの）の設定を行います。 **※[モード]を、[Ad hoc]または[802.11 Ad hoc]に設定している場合にのみ設定できます。** 同一の無線LANではすべて同じ値に設定してください。 無線LANが１つしかない場合は、初期値のまま変更する必要はありません。 複数の無線LANがある場合にのみ、それぞれのネットワークで別々の通信チャンネルの値を設定してください。（電波の干渉を防ぐため５チャンネル間隔を空けることをおすすめします。） 設定値：　１～１４

・本製品を含め、同一のアクセスポイントと通信する無線 LAN 製品は、すべて同じ SS ID にする必要があります。
・SS ID は半角英数字で 32 文字まで入力できます。（大文字、小文字の区別もあります。）
・SS IDおよびチャンネルの値が他の無線LANグループと重なると、他の無線LANグループに通信の内容が流れる、あるいは他の無線LANグループの通信が来てしまいます。
そのために起こったトラブルに対しては弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

・SS ID とは、本製品とアクセスポイントの通信時に使用する識別用の ID です。アクセスポイント単位に割り当てるため、同一のアクセスポイントに通信する無線ネットワーク製品は、同じ ID にする必要があります。無線 LAN 製品によっては、ESS ID と記載されている場合もあります。
・アクセスポイント使用時の通信チャンネルは、アクセスポイントの通信チャンネルが使用されます。

暗号化の設定……［暗号化］

ユーティリティの［暗号化］タブでは、通信の暗号化の設定を行うことができます。
暗号化の設定については、【通信を暗号化する】(105ページ)をご覧ください。

暗号キー入力方式の異なる他社製品との暗号化については、
110ページの【参考】を参照してください。

本ユーティリティについて……［バージョン］

ユーティリティの［バージョン］タブでは、本ユーティリティについて確認することができます。

付録

困った時には

本製品を使用していて異常があった場合にご覧ください。

状態	参照ページ
本製品を取り付けてもLINKランプが点灯、あるいは点滅しない CD-ROMドライブがないので、インストールできない	126
［デバイスマネージャ］の確認で、［I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter］が表示されない ［デバイスマネージャ］の確認で、［I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter］の頭に、黄色の！マークがついている	127
本製品が正常に動作しない	131
［ネットワーク］画面で、［I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter］が表示されない ［マイネットワーク］（ネットワークコンピュータ）に、他のコンピュータ名が表示されない	132
［Infrastructure］モード使用時（アクセスポイントにアクセス時）に、設定ユーティリティの［リンク状況］に“Associated‥‥”以外が表示される ［Ad hoc］モード、または［802.11 Ad hoc］モード使用時に、設定ユーティリティの［リンク状況］に“Associated‥‥” 以外が表示される	134
「レジューム」「ハイバネーション」「スタンバイ」の後、動作が不安定になる	135
設定ユーティリティがインストールできない	136

状態	参照ページ
（Windows Me/98/95のみ） インストール後の確認で、［ネットワークパスワードの入力］画面が表示されない	１３６
（Windows Me/98/95のみ） インストール後の確認で、デスクトップ上に、［マイネットワーク］（ネットワークコンピュータ）アイコンが表示されない	１３７
（Windows Me/98/95のみ） ［ネットワーク］画面に、 ［TCP/IP－＞xxxxxxxx］は複数表示されているのに、 ［TCP/IP－＞I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter］ が表示されていない	１３８
（Windows Me/98/95のみ） ［マイネットワーク］または［ネットワークコンピュータ］アイコンをダブルクリックしてもワークグループ名アイコンや他のパソコンが表示されない。	
（Windows NT 4.0のみ） インストール後の確認で、［サービスコントロールマネージャ］によるエラー画面が表示される	１４１
（Windows NT 4.0のみ） 本製品のドライバをインストール後、Windows NT 4.0が正常に動作しない	

トラブルの状態と対処

本製品を取り付けてもLINKランプが点灯、あるいは点滅しない

原因1	本製品を取り付けているPCカードスロットが不安定である。
対処1	別のPCカードスロットに取り付けてみてください。
対処2	【Windows 2000/Me/98/95/NT 4.0のみ】 LINKランプが点滅しない場合は、［設定ユーティリティのインストール］をダブルクリックする前に、一度パソコンを再起動してください。

原因2	パワーマネジメント機能がONになっている。
対処	本製品を取り外してから、パワーマネジメント機能をOFFにします。 再度、本製品を取り付けてください。

CD-ROMドライブがないので、インストールできない

対処	17ページを参照して、弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/lib/）より「設定ユーティリティ」を入手してください。

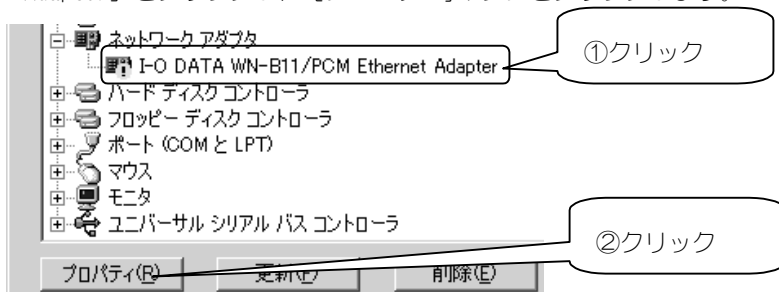
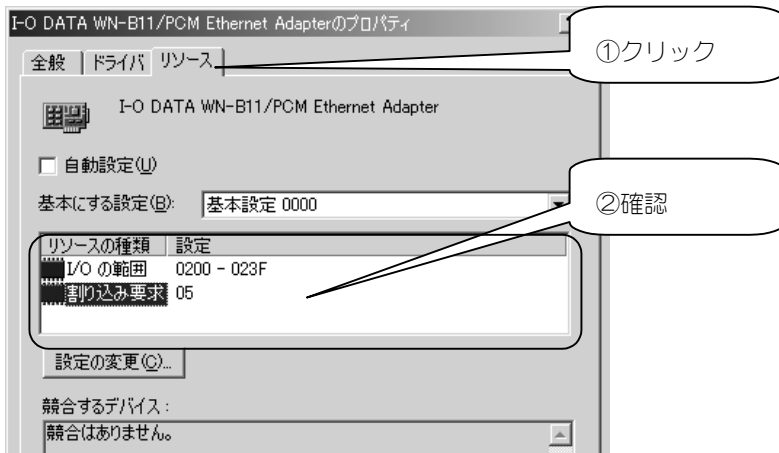
[デバイスマネージャ]の確認で、[I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter]が表示されない

原因	本製品を取り付けていない、または、正しく取り付けていない。
対処	本製品を差し込んでいない状態では表示されません。本製品がPCカードスロットに差し込まれていることを確認してください。 タスクトレイ（画面右下）にPCカードアイコンがなければ、本製品をそのまま取り外して、もう一度取り付けてください。 タスクトレイにPCカードアイコンがあれば、155ページを参照し、カードを取り外し、再度取り付けてください。

[デバイスマネージャ]の確認で、[I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter]の頭に、黄色の！マークがついている

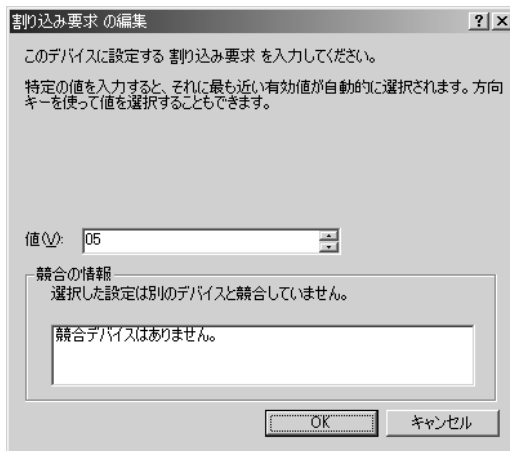
原因1	パソコンを再起動していない。
対処	本製品をPCカードスロットに挿入したまま、パソコンを再起動します。再起動後、【インストール状態を確認する】(142ページ)の手順で再度確認してみてください。

原因2	リソースが競合している。
対処	次ページの手順を行ってみてください。（画面は、Windows 98を例にしています。）

1 ！マークが表示されている［I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter］をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

2 ［リソース］タブをクリックし、［競合するデバイス］欄内に表示されている競合しているリソース（［割り込み要求］，［I/Oの範囲］）を確認します。このリソースの変更や競合する製品側でのリソースの変更を行います。
次ページ以降の方法で変更してみてください。

リソースの変更 方法１ 本製品側でリソースの変更を行う方法

ご使用のパソコンによっては、変更できない場合があります。
その場合は、以下の方法をお試しください。

1 ［自動設定］（Windows 98の場合は、［自動設定を使う］）のチェックを外します。
競合しているリソース（［割り込み要求］，［I/Oの範囲］）をクリックし、［設定の変更］ボタンをクリックします。

2 競合デバイスが無くなるよう、値を変更します。変更後、［OK］ボタンをクリックしてすべての画面を閉じます。

3 Windowsを再起動して、！マークが消えていないか確認してみてください。

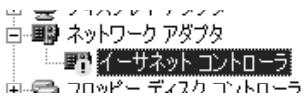
リソースの変更 方法２
本製品と競合している製品側で リソースの変更で行う方法

1 ［デバイスマネージャ］画面で、競合している製品を探します。（詳細は、その製品の取扱説明書やメーカーにご確認ください。）

2 後は、前ページの手順 **1**～**3**を参考に、その製品のリソースの変更ができないか、おためしください。

リソースの変更 方法３
パソコン本体に 空きのリソースを作成する方法

1 既存のデバイスの内、使用していないものを無効にしたり、取り外したりして、必要なリソースの空きを作ってください。方法については、パソコン本体の取扱説明書を参照してください。

2 空きを作成後、！マークが消えていないか確認してみてください。

《パソコンで使用しているリソースの確認方法》

1.［マイコンピュータ］を右クリックし、メニューから［プロパティ］をクリックします。
2.［デバイスマネージャ］タブをクリックし、［コンピュータ］を選択します。
3.［プロパティ］ボタンをクリックして、リソースの空きが確認できます。
（詳しくはパソコン本体の取扱説明書をご覧ください。）

本製品が正常に動作しない

原因1	本製品を取り付けていない、または、正しく取り付けていない。
対処	本製品を差し込んでいない状態では表示されません。本製品がPCカードスロットに差し込まれていることを確認してください。 タスクトレイ(画面右下)にPCカードアイコンがなければ、本製品をそのまま取り出して、もう一度取り付けてください。 タスクトレイにPCカードアイコンがあれば、【本製品を取り外す】(155ページ)を参照して、カードを取り出し、もう1度、取り付けてください。

原因2	間違ったドライバが既にインストールされている、または、インストール時に[スキップ]ボタンや[キャンセル]ボタンなどをクリックして中断したためにドライバが正常にインストールされていない。
対処	[デバイスマネージャ]の一覧に[？その他のデバイス]が無いかご確認ください。 [？その他のデバイス]がある場合で、さらにその下に、[イーサネットコントローラ]が無いかご確認ください。 ある場合は、[イーサネットコントローラ]をクリックし、[削除]ボタンで削除後、パソコンを再起動してください。 (Windows XPおよびWidows 2000の場合は、[イーサネットコントローラ]を右クリックし、メニュー内の[削除]をクリックして削除後、パソコンを再起動してください。) 再起動後、以下の個所を参照して、再度インストールしてください。 ・Windows XPの場合 → 26ページ参照 ・Windows 2000/Me/98/95の場合 → 31ページ参照

対処	[デバイスマネージャ]一覧→[ネットワークアダプタ]の下の[イーサネットコントローラ]の頭に！マークがないかご確認ください。 ある場合は、次ページ【[デバイスマネージャ]の確認で、……黄色の！マークがついている】での[対処]を参照してください。

[ネットワーク]画面で、[I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter]が表示されない

対処	上記【本製品が正常に動作しない】の[対処]を参照してください。

[マイネットワーク](ネットワークコンピュータ)に、他のコンピュータ名が表示されない

原因1	本製品を正しく取り付けていない。
対処	タスクトレイ（画面右下）にPCカードアイコン（またはハードウェアの取り外しアイコン）がなければ、本製品をそのまま取り外して、もう一度取り付けてください。PCカードアイコン（またはハードウェアの取り外しアイコン）があれば、155ページの各OSの項を参照して、カードを取り外し、もう１度、取り付けてください。正しく通信できていれば、本製品のLINKランプが緑色に点灯（［802.11 Ad hoc］モード時は点滅）します。

原因2	アクセスポイントを使用していない場合で、他のワークグループのパソコンの通信チャンネルの値を同一にしていない。
対処	アクセスポイントが無い場合は、他のワークグループと同じ通信チャンネルにする必要があります。 **【設定ユーティリティを使う】(111ページ)**を参照して、通信チャンネルを同じ値にしてください。

原因3	アクセスポイントを使用していない場合で、他のワークグループのパソコンと同じワークグループ名が指定されていない。
対処	**【インストール状態を確認する】(142ページ)**の各OSの項を参照して、ネットワーク上のすべてのパソコンに対し、同じワークグループ名を指定してください。

原因4	アクセスポイントを使用している場合で、アクセスポイントと同じSS IDを設定していない。
対処	アクセスポイントと通信する場合は、アクセスポイントと同じSS IDにする必要があります。SS IDを同じ値にしてください。

原因5	IPアドレスの設定が間違っている。
対処	正しい設定にしてください。

原因6	無線状態が悪く、電波が届かない。
対処	無線間の距離を短くしたり、障害物を取り除いたり、通信チャンネルを変更してから、再度、試してみてください。

[Infrastructure]モード使用時（アクセスポイントにアクセス時）に、設定ユーティリティの[リンク状況]に、“Associated……”以外が表示される

対処	138ページ【［マイネットワーク］または[ネットワークコンピュータ]アイコンをダブルクリックしてもワークグループ名アイコンや他のパソコンが表示されない】の対処方法を参照してください。

原因	通信モードを［Ad hoc］モードに設定している
対処	［モード］を［Infrastructure］に変更してください。

[Ad hoc]モード、または[802.11 Ad hoc]モード使用時に、設定ユーティリティの[リンク状況]に、“Associated……”以外が表示される

対処	138ページ【［マイネットワーク］または[ネットワークコンピュータ]アイコンをダブルクリックしてもワークグループ名アイコンや他のパソコンが表示されない】の対処方法を参照してください。

原因	通信モードを［Infrastructure］モードに設定している
対処	［モード］を［Ad hoc］または［802.11 Ad hoc］に変更してください。

「レジューム」「ハイバネーション」「スタンバイ」の後、動作が不安定になる

対処	「レジューム」「ハイバネーション」「スタンバイ」を行わないように設定してください。

注意！

「レジューム」「ハイバネーション」はメーカー独自のユーティリティやパソコン本体のBIOS で設定している場合があります。
設定を変更するにはパソコン本体の取扱説明書をご覧になるか、パソコンメーカーにお問い合わせください。

参考

「レジューム」とは…
→レジューム機能とは、しばらく何も操作しないでいたり、電源を入れたままノートパソコンのふたを閉めると自動的に働く省電力機能です。

レジューム機能の停止方法（Windows Me/98/95 の例）
①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の[電源の管理]アイコンをダブルクリックします。
②[システムスタンバイ]欄の[電源に接続][バッテリを使用中]を共に「なし」に設定してください。

参考

「ハイバネーション」とは…
→ハイバネーション機能とは、ノートパソコンでバッテリーが残り少なくなると自動的に電源を切る直前の状態をハードディスクに保存しておき、電源を入れた時に元の状態に戻す機能です。
ハイバネーション機能が無効になるよう設定してください。

参考

本製品を使用中は、スタンバイ機能に対応しているパソコンでは“[スタート]→[Windows の終了]”での[スタンバイ]は選択しないでください。

設定ユーティリティがインストールできない（以下のようなエラーとなる）

エラーメッセージ

「InstallShieldエンジン(iKernel.exe)をインストールできませんでした。
システムは、指定されたデバイスからは読み取れません。」

原因	パソコンに常駐しているアプリケーションが、InstallShieldの動作の妨げになっている。 （弊社では、RealNetworks社提供の「RealJukebox」がインストールされている環境にて発生することを確認しています。）
対処	設定ユーティリティをインストールする場合のみ、常駐しているアプリケーションを常駐解除してください。（「設定ユーティリティ」のインストール時のみのもので、インストール後は、常駐してもかまいません。） **・RealJukeboxでの常駐を解除する例** 1. タスクトレイに常駐している「RealJukebox」のアイコンを右クリックします。 2. メニューから「StartCenterを終了」をクリックします。 3. タスクトレイから常駐解除されたことを確認した上で、再度、設定ユーティリティをインストールしてください。 **※常駐解除は一時的な操作であり、アプリケーションをアンインストールする操作ではありません。**

（Windows Me/98/95のみ）インストール後の確認で、[ネットワークパスワードの入力]画面が表示されない

原因	設定ユーティリティが正常にインストールされていない。
対処	**【Windows Me/98/95の確認】での【確認③】(147ページ)**で、インストールが正常かを確認してください。

（Windows Me/98/95のみ）
インストール後の確認で、デスクトップ上に、[マイネットワーク]（ネットワークコンピュータ）アイコンが表示されない

原因	ネットワークの設定で［Microsoftネットワーククライアント］が登録されていない。
対処	［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］→［ネットワーク］を開き、［Microsoftネットワーククライアント］が登録されているか確認してください。 無い場合は、［追加］ボタンで追加してください。 また、［優先的にログインする］を［Microsoftネットワーククライアント］になっているかも確認してください。

（Windows Me/98/95のみ）
[ネットワーク]画面に、
[TCP/IP－＞xxxxxxxx]は複数表示されているのに、
[TCP/IP－＞I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter]
が表示されていない

原因	登録されているLANアダプタの数が多い。 （登録できるLANアダプタの数には、制限があります。）
対処	［ネットワーク］画面で、必要の無い、あるいは使用していないLANアダプタをクリックして、［削除］ボタンで削除してください。 ***●必要の無いLANアダプタの例*** ・以前使用していたが、現在使用していないLANアダプタ ・赤外線通信を行わない場合の「赤外線通信アダプタ」 **※赤外線通信アダプタの名称は、パソコン本体により異なります。** **また、パソコン本体のBIOSの設定が必要となる場合がありますので、詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。** ・インターネット・プロバイダに「AOL」を使用していない場合の「AOL Adapter」および「AOL Dialup Adapter」

（Windows Me/98/95のみ）
[マイネットワーク]または[ネットワークコンピュータ]アイコンをダブルクリックしてもワークグループ名アイコンや他のパソコンが表示されない。

原因	Windowsのネットワーク機能が正常に動作していない。
対処	次ページの【ネットワーク機能を確認する】を参照してください。

･ネットワーク機能を確認する

正常に組み込まれなかったネットワークに関するものを以下の順番で削除を行ってください。

1 [マイコンピュータ]→[コントロールパネル]→[ネットワーク]を開きます。

2 [ネットワーク]画面に表示される内容を次ページの種類順に削除してください。

削除する順番が異なると、ネットワークがうまく構成し直せなくなる場合がありますので、必ず下記の順で削除してください。

＜削除する順番＞

1) サービスをすべて削除します。

[Microsoft ネットワーク共有サービス]など[xxxx 共有サービス]という名称のものが該当します。

サービスの削除後は、［ネットワーク］画面で［OK］ボタンをクリックし、画面を閉じます。その後に、Windowsの再起動を要求されますので、再起動を行ってください。

2) クライアントをすべて削除します。

[Microsoft ネットワーククライアント]、[Microsoft ファミリログオン]など[xxxxクライアント]という名称のものが該当します。

［コントロールパネル］→［ネットワーク］を開いて、クライアントをすべて削除します。サービスの削除後は、［ネットワーク］画面で［OK］ボタンをクリックし、画面を閉じます。その後に、Windowsの再起動を要求されますので、再起動を行ってください。

3) プロトコルをすべて削除します。

[TCP/IP(TCP/IP->xxxx)]、[NetBEUI(NetBEUI->xxxx)]、[IPX/SPX(IPX/SPX->xxxx)という名称のものが該当します。

プロトコルの削除後は、［ネットワーク］画面で［OK］ボタンをクリックし、画面を閉じます。その後に、Windowsの再起動を要求されますので、再起動を行ってください。

3 ［コントロールパネル］→［ネットワーク］を開くと、アダプタ関連が残ります。その状態になりましたら、お客様が接続するネットワーク環境に必要なものを以下の順に追加を行います。

＜追加する順番＞

1） クライアントとプロトコルを追加します。

※クライアントを追加しますと、プロトコルも一緒に追加されます。

追加する方法は、以下の通りです。

① ［追加］ボタンをクリックします。
② ［クライアント］をクリック後、［追加］ボタンをクリックします。
③ ［製造元］で［Microsoft］を選択し、［クライアント］で必要なプロトコルの名称（［Microsoft ネットワーククライアント］など）をクリックし選択します。
④ ［OK］ボタンをクリックします。
⑤ クライアントとプロトコルが追加されたことを確認します。

2） サービスを追加します。

追加する方法は、以下の通りです。

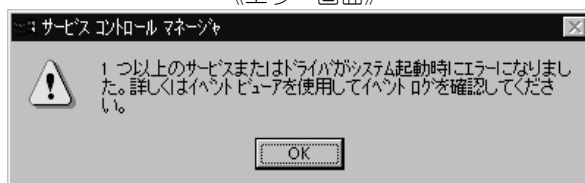
① ［追加］ボタンをクリックします。
② ［サービス］をクリック後、［追加］ボタンをクリックします。
③ ［製造元］で［Microsoft］を選択し、［サービス］で必要なサービスの名称（［Microsoft ネットワーク共有サービス］など）をクリックし選択します。
④ ［OK］ボタンをクリックします。
⑤ サービスが追加されたことを確認します。

4 ［優先的にログオンする］は、上記にて追加し直したクライアントを選択してください。

5 以上の設定を行って再起動した際、ネットワークへのログオン画面が表示されると思います。ここでは、キャンセルせずに必ず［OK］ボタンをクリックしてください。（パスワードは未入力でも可）

以上で設定は終了です。

（Windows NT 4.0のみ）
インストール後の確認で、[サービスコントロールマネージャ]によるエラー画面が表示される

《エラー画面》

原因1	本製品が正しく取り付けられていない。
対処	①Windows NT 4.0を終了し、パソコンの電源を切ります。 ②本製品を挿入しなおします。 ③Windows NT 4.0を起動します。 それでも正常動作しない場合は、取り付けるスロットを変更してお試しください。

原因2	サービスパックをインストールし直していない。
対処	サービスパックをインストールし直し、その後再起動してください。 （Windows NT 4.0のインストール手順で、サービスパック以前の古いバージョンのファイルが組み込まれる場合があるためです。）

（Windows NT 4.0のみ）
本製品のドライバをインストール後、Windows NT 4.0が正常に動作しない

原因	ドライバのインストール前に、サービスパックをインストールしていた。
対処	本ページの上記[**原因2**]の[**対処**]を参照してください。

インストール状態を確認する

ここでは本製品が、Windowsで正常に認識されているかどうかの確認方法を説明します。インストール終了（再起動）後、必ず以下の事を確認してください。

・Windows XPの場合　⇒　以下の【Windows XPでの確認】参照

・Windows 2000の場合　⇒　144ページ【Windows 2000での確認】参照

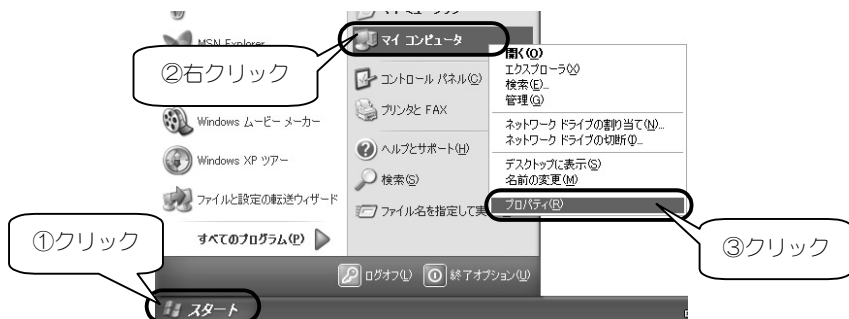
・Windows Me/98/95の場合　⇒　147ページ【Windows Me/98/95での確認】参照

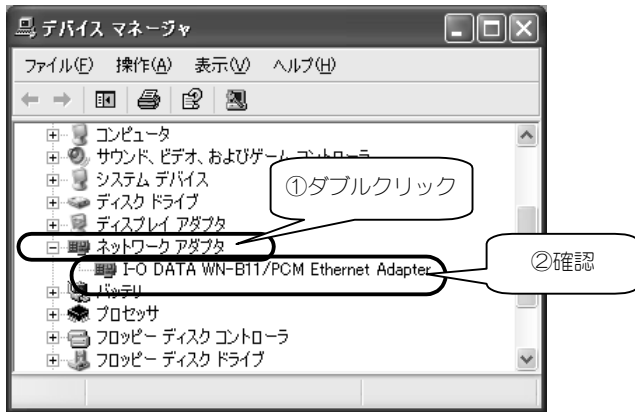
・Windows NT 4.0の場合　⇒　151ページ【Windows NT 4.0での確認】参照

Windows XPでの確認

確認：[デバイスマネージャ]に本製品が正常に登録されているか確認しましょう

本製品が正常にインストールされたかを確認するために、
以下の手順で、［デバイスマネージャ］に本製品が登録されているかを
確認します。

1 [スタート]をクリックし、[マイコンピュータ]を右クリックして、
[プロパティ]をクリックします。

2 [ハードウェア]タブをクリックして、
[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。

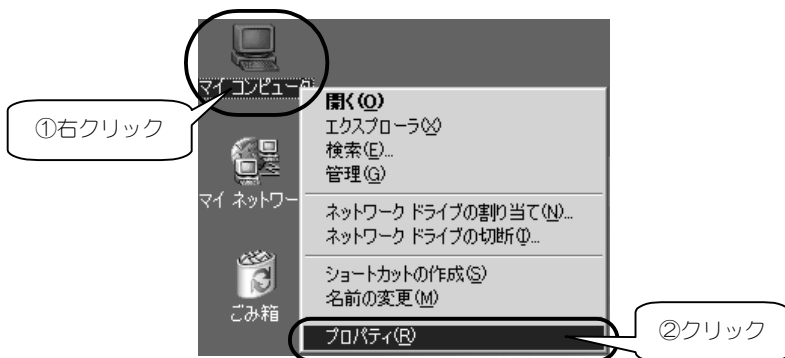
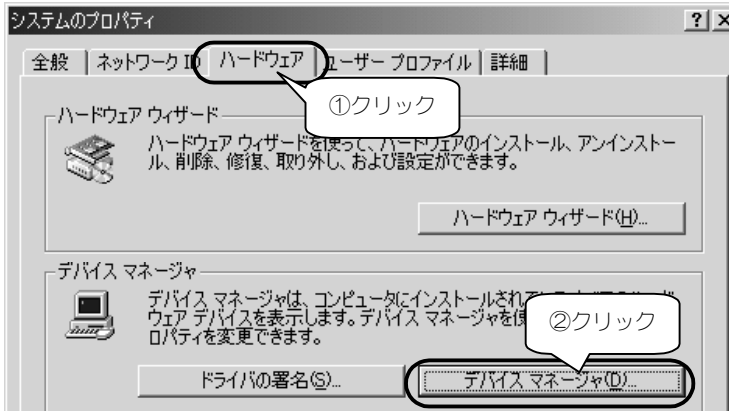
3 [ネットワークアダプタ]をダブルクリックします。
・[ネットワークアダプタ]の下に
[I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter]と表示されているかを確認します。
・その頭に！マークが表示されていないことも確認します。

正常に表示されていれば、Windows XPで本製品が使用できます。

Windows 2000での確認

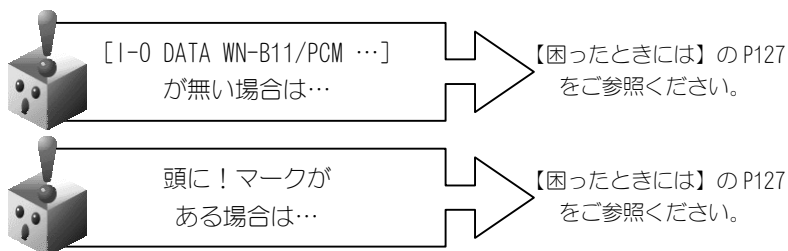
ここでは、Windows 2000での確認方法を説明します。

確認：[デバイスマネージャ]に本製品が正常に登録されているか確認しましょう

設定ユーティリティが正常にインストールされたかを確認するために、以下の手順で、［デバイスマネージャ］に本製品が登録されているかを確認します。

1 [マイコンピュータ]を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

2 [ハードウェア]タブをクリックして、
[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。

3 [ネットワークアダプタ]をダブルクリックします。

・[ネットワークアダプタ]の下に
[I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter]と表示されているかを確認します。

・その頭に！マークが表示されていないことも確認します。

4 [I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter」をダブルクリックし、[リソース]タブをクリックします。

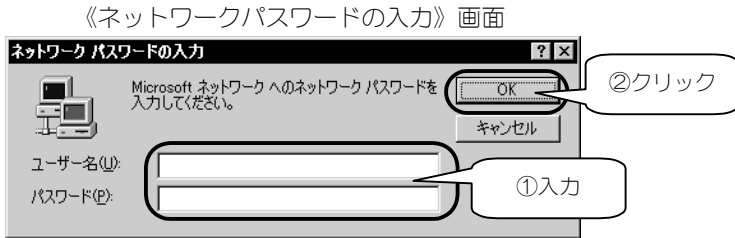
・デバイスが競合していないことを確認してください。

正常に表示されていれば、Windows 2000で本製品が使用できます。

Windows Me/98/95での確認

ここでは、Windows Me/98/95での確認方法を説明します。
インストール後、パソコンを再起動した後、以下の点をご確認ください。

確認①:Windows起動途中で、[ネットワークパスワードの入力]画面が表示されるか確認しましょう

《ネットワークパスワードの入力》画面

インストール後、パソコンを再起動すると起動途中で上記の画面が表示されますので、ユーザー名とパスワードを入力して[OK]ボタンをクリックしてください。
［キャンセル］ボタンをクリックすると、ネットワークにログインできません。

[ユーザー名]と[パスワード]について‥‥

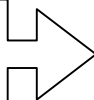
- **ネットワーク上にサーバーがある場合**
  サーバーの管理者にご確認ください。間違った場合は、ネットワークにログインできません。
- **ネットワーク上にサーバーがない場合**
  [ユーザー名]には、ネットワーク上で固有な名称(他のパソコンと重複しない名称)を入力してください。(入力した値は、忘れないようにしてください。)
  [パスワード]は特に入力する必要はありません。

【困ったときには】の P136
をご参照ください。

確認②:デスクトップ上に[マイネットワーク](Windows Meの場合)
または[ネットワークコンピュータ](Windows 98/95の場合)
のアイコンが表示されるか確認しましょう

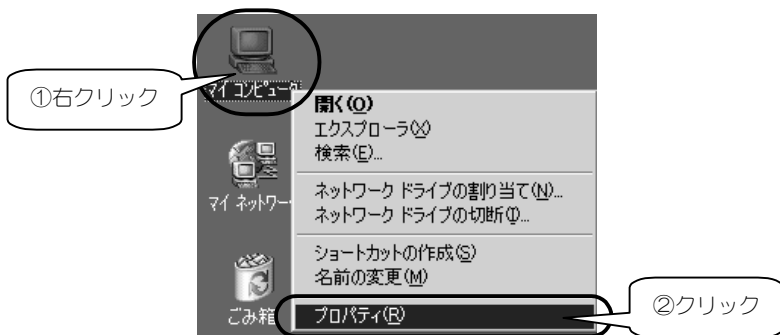
[マイネットワーク]
アイコン
(Windows Me)

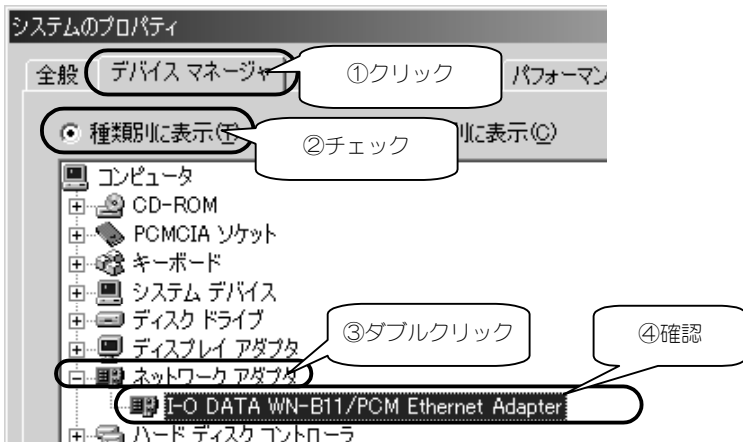
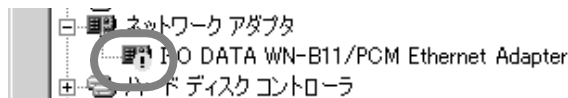
[ネットワークコンピュータ]
アイコン
(Windows 98/95)

アイコンが
表示されない場合は…

【困ったときには】の P137
をご参照ください。

確認③:[デバイスマネージャ]に本製品が正常に登録されているか確認しましょう

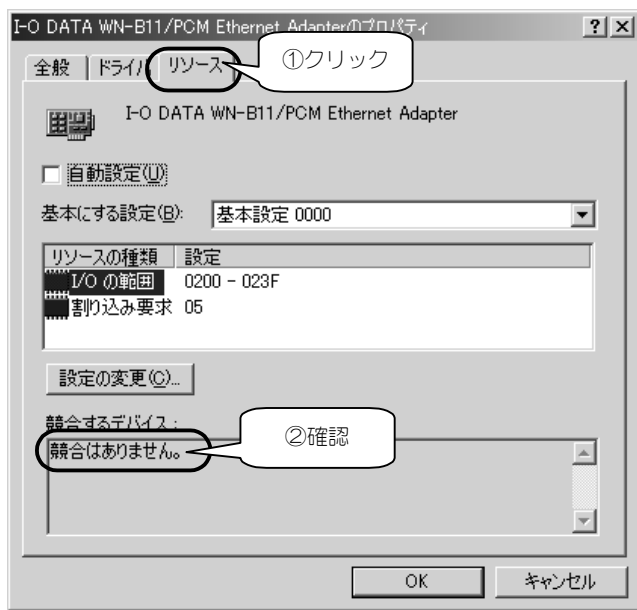
設定ユーティリティが正常にインストールされたかを確認するために、以下の手順で、[デバイスマネージャ]に本製品が登録されているかを確認します。

1 **[マイコンピュータ]を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。**

2 [デバイスマネージャ]タブをクリックし、[種類別に表示]で[ネットワークアダプタ]をダブルクリックします。

- [ネットワークアダプタ]の下に[I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter]と表示されていることを確認します。
- その頭に！マークが表示されていないことも確認します。

PC98-NX シリーズで[デバイスマネージャ]が表示されない場合は、以下の手順で[アドバンスドモード]に設定してください。

1.[スタート]→[プログラム]→[Cyber Trio-NX](あるいは[NX ユーティリティ]、[NX の設定])→[Cyber-Trio-NX セットアップ]を順に起動します。
2.[アドバンスドモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。
3.Windows を再起動します。

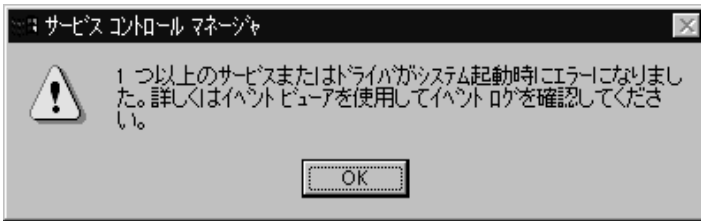
3 [I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter」をダブルクリックし、[リソース]タブをクリックします。

・デバイスが競合していないことを確認してください。

正常に表示されていれば、Windows Me/98/95で本製品が使用できます。

Windows NT 4.0での確認

ここでは、Windows NT 4.0での確認方法を説明します。
インストール後、パソコンを再起動した後、以下の点をご確認ください。

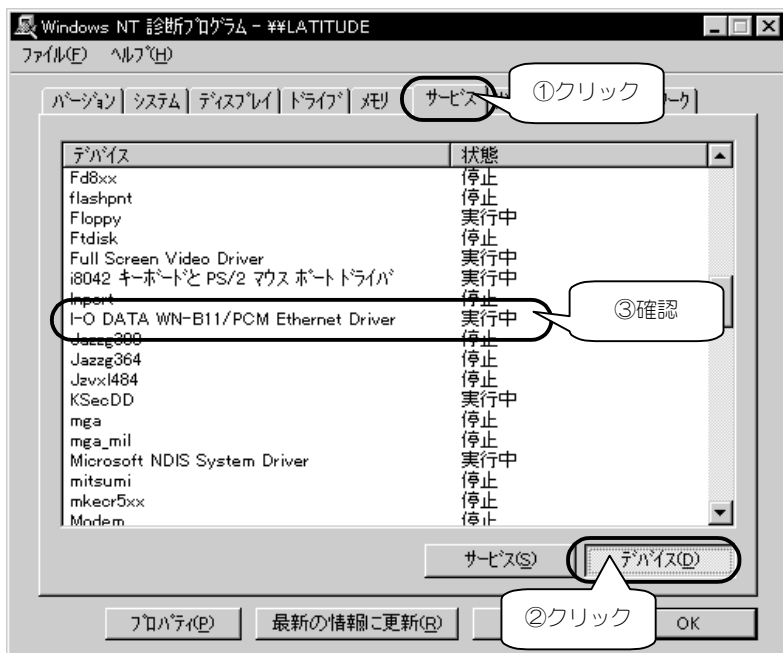
確認①:Windows起動時に以下のようなエラー画面が表示されないか確認しましょう

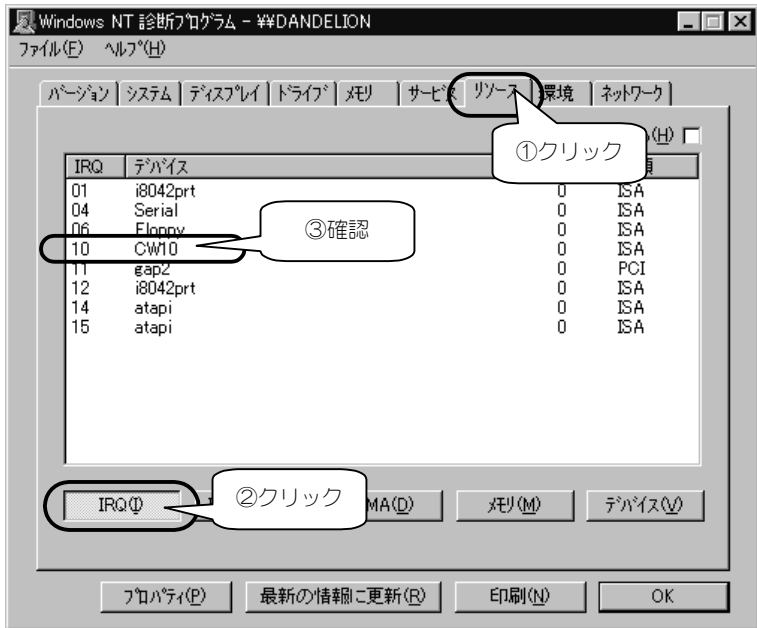
エラー画面

起動時に上記のようなエラーが表示されない事を確認してください。

【困ったときには】の P141
をご参照ください。

確認②:[Windows NT診断プログラム]に本製品が正常に表示されているか確認しましょう

1 [スタート]→[プログラム]→[管理ツール]をクリックし、[Windows NT診断プログラム]アイコンをダブルクリックします。

2 [サービス]タブの[デバイス]ボタンをクリックします。
・[I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Driver]と表示されているか確認してください。
・[状態]が[実行中]であることを確認してください。

3 [リソース]タブの[IRQ]ボタンをクリックします

・[デバイス]欄に[CW10]と表示されているか確認してください。

正常にリソースの割り当てがされない場合は、パソコン本体の BIOS にて PnP(PnPOS)を無効(Disable または NO 等)に設定し、お試しください。

4 [リソース]タブの[I/Oポート]ボタンをクリックします。
・[デバイス]欄に[CW10]と表示されているか確認してください。

正常にリソースの割り当てがされない場合は、パソコン本体の BIOS にて PnP(PnPOS)を無効(Disable または NO 等)に設定し、お試しください。

正常に表示されていれば、Windows NT 4.0で本製品が使用できます。

本製品を取り外す

本製品は、パソコンの電源を切った後にPCカードスロットから取り外すことができますが、Windows 2000/Me/98/95使用中に取り外すこともできます。

・本製品を取り外す場合は、本製品を使用していない、また、他のパソコンからアクセスされていないことを確認してから取り外してください。
・Windows XP、Windows NT 4.0 使用中に、本製品を取り外すことはできません。
必ず Windows XP、Windows NT 4.0 を終了し、パソコンの電源を切ってから、本製品を PC カードスロットから取り外してください。
・以下の手順を行うと、実際に本製品を PC カードスロットから抜かなくても動作は終了したとみなされ、本製品は使用できなくなります。
再度使用したい場合は、いったん PC カードスロットから本製品を抜いて、再び接続してください。

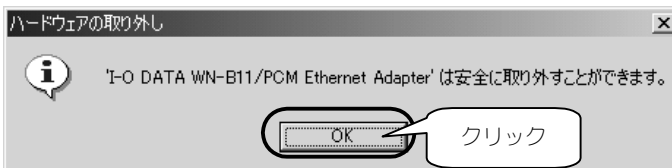
Windows使用中に取り外す場合

（画面例は、Windows 2000の場合）

1 画面右下のタスクトレイの （または ）アイコンをクリックし、[I-O DATA WN-B11/PCM‥‥‥‥]をクリックします。

①クリック
I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter を停止します
②クリック
14:41

2 [OK]ボタンをクリックします。

Windows XPの場合は不要です。

3 本製品をPCカードスロットから取り外します。

再度使用したい場合は、そのまま挿入してください。

本製品を削除する(アンインストール)

インストールしたドライバソフトやユーティリティソフトを削除します。

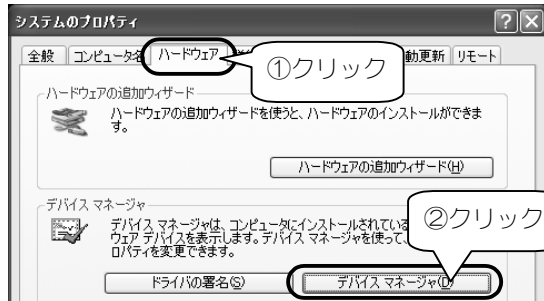
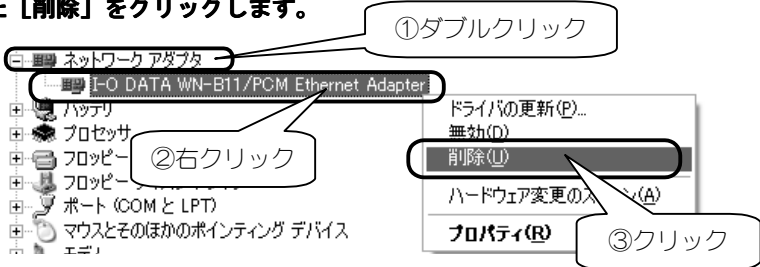
・*Windows XP* → 以下の【Windows XPの場合】をご覧ください。
・*Windows 2000/Me/98/95/NT 4.0*
→【Windows 2000/Me/98/95/NT 4.0の場合】(160ページ)をご覧ください。

Windows XPの場合

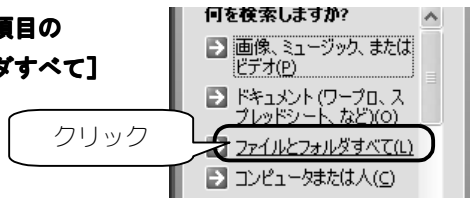
削除は、インストールした「サポートソフト」（「ドライバソフト」と「INFファイル」）を削除します。最初にドライバソフトを削除します。

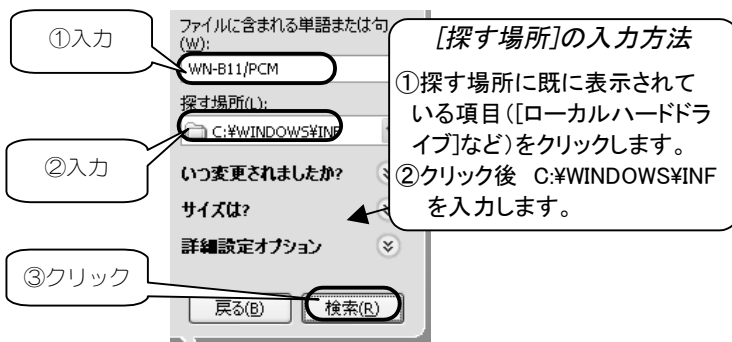
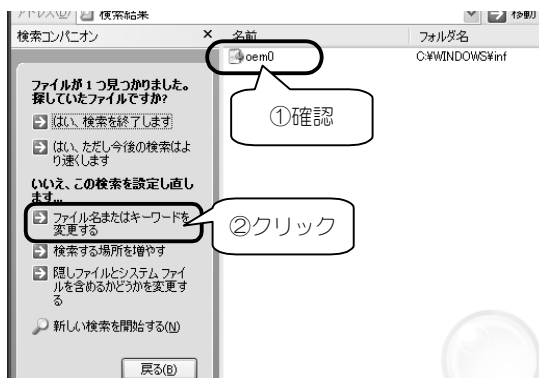
・本製品は取り付けたままにしておいてください。

1 ［スタート］をクリック後、［マイコンピュータ］を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。

2 **［ハードウェア］タブをクリック後、［デバイスマネージャ］ボタンをクリックします。**

3 **［ネットワークアダプタ］をダブルクリック後、［I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter］を右クリックし、表示された［削除］をクリックします。**

4 **［OK］ボタンをクリックして、ドライバソフトを削除します。**

5 次に INF ファイルを削除します。
［スタート］→［検索］を順にクリックします。

6 **「何を検索しますか？」の項目の中から［ファイルとフォルダすべて］をクリックします。**

7 **［含まれる文字列］、［探す場所］に以下を入力後、［検索］ボタンをクリックします。**

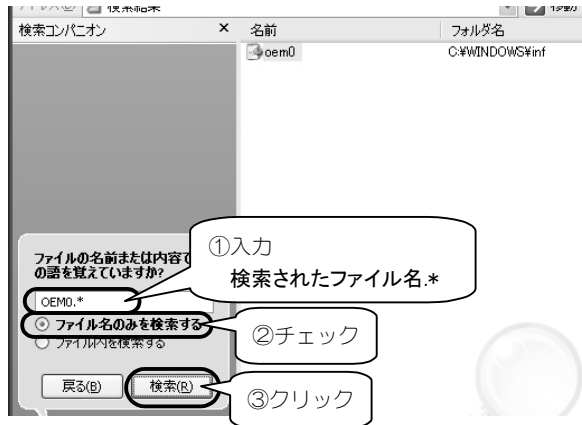
含まれる文字列	WN-B11/PCM
探す場所	C:¥WINDOWS¥INF ※Windows XPがCドライブのWINDOWSフォルダにインストールされている場合

8 **検索されたファイルを確認後、［ファイル名またはキーワードを変更する］をクリックします。**

・検索には、お使いのパソコンにより数分かかる場合があります。
・検索されるファイル名は、お使いのパソコンにより異なります。（上記画面例では、oem0　のファイルが検索されています。）

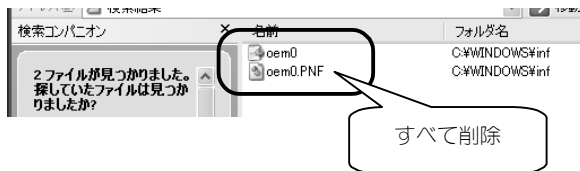
9 ［ファイルの名前または内容…］に以下を入力します。

検出されたファイル名.*

（画面例では、oem0 のファイル名が検出されていますので、

oem0.* と入力します。）

［ファイル名のみを検索する］をチェック後、［検索］ボタンをクリックします。

10 検索されたファイルを右クリックし、表示された[削除]をクリックします。

表示されたすべてのファイル（通常、「oemxx.inf」と「oemxx.PNF」の２つのファイル）をすべて削除してください。

11 削除後、パソコンを再起動してください。

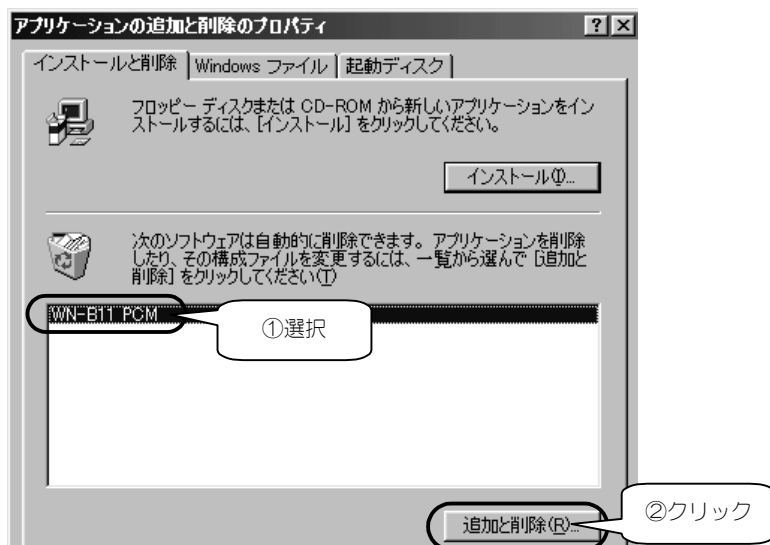
以上で、Windows XPでのインストールしたドライバソフトとINFファイルの削除（アンインストール）は終了です。

Windows 2000/Me/98/95/NT 4.0の場合

［アプリケーションの追加と削除］から削除することができます。

1 ［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］の［アプリケーションの追加と削除］を開きます。

2 ［WN-B11 PCM］を削除します。

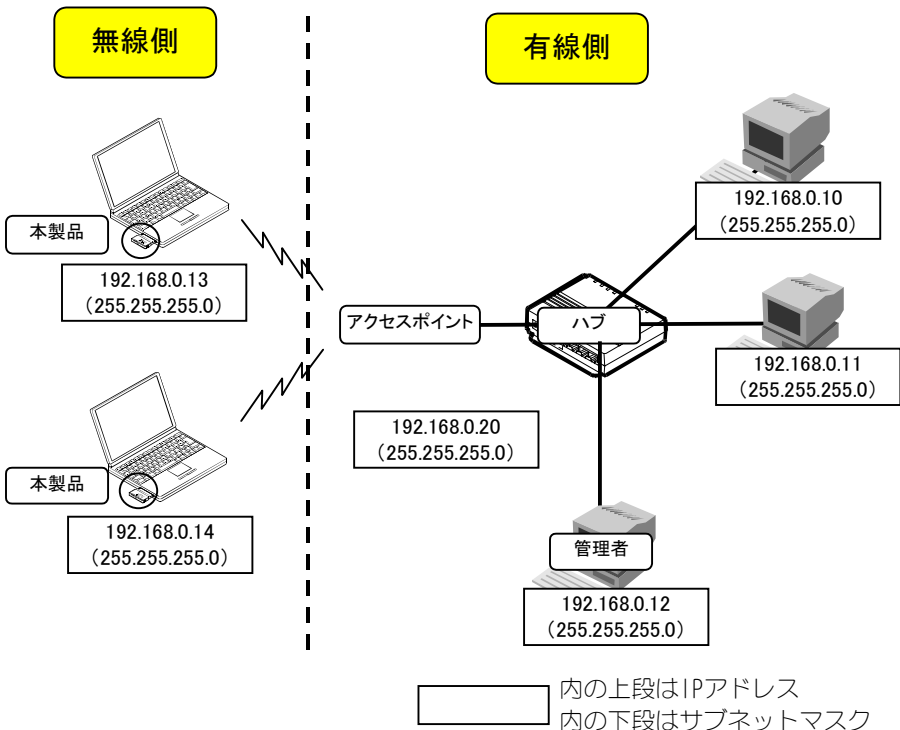
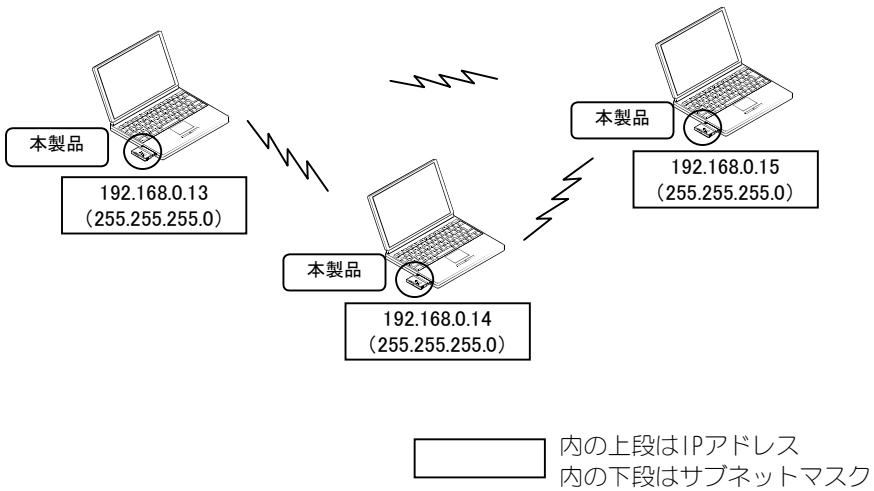
［WN-B11 PCM］をクリックした後、
［追加と削除］ボタンをクリックします。

後は、画面の指示にしたがってください。

IPアドレス設定例

ここでは、IPアドレスの設定例等を説明します。

具体的なIPアドレスの設定例

以下はIPアドレスの設定例です。
お使いの環境によってIPアドレスを設定してください。

●Infrastructureの場合

●Ad hocの場合

参考

上図は、IP アドレスを固定した場合の例です。自動取得に設定している場合で、DHCP サーバーが存在しない場合は、「169.254.xxx.xxx」というアドレスが自動生成されます。

IPアドレスのクラス

IPアドレスは、ネットワークを構成するパソコンの台数に応じて、３つのクラスに分かれます。
大規模なネットワークならば［クラスAのIPアドレス］、中規模なら［クラスBのIPアドレス］、小規模の場合は［クラスCのIPアドレス］となります。
同一のネットワーク内では、同一クラスのIPアドレスである必要があります。
実際には、IPアドレスは、ピリオドで区切られた４つの数字の羅列で構成されていて、４つのうち最初の数字で、クラスが分けられます。

この数字でクラス分け

IP アドレス　xxx.xxx.xxx.xxx

クラスは以下のように分類されています。

IP アドレスの最初の数字※	クラス	用途（ネットワークを構成するパソコンの台数）
１～１２７	クラスA	大規模ネットワーク用（最大約 1600 万台）
１２８～１９１	クラスB	中規模ネットワーク用（最大約 65000 台）
１９２～２２３	クラスC	小規模ネットワーク用（最大約 250 台）

※「224～255」は通常の IP アドレスとしては使われていません。

例えば、数台～数十台で構成されるネットワークでは、クラスCのIPアドレスを使用します。
通常、ネットワークを構成する場合は、以下の特別なローカルIPアドレスを使用します。

クラス	設定する IP アドレス
クラスA	10. 0. 0. 0　～　10. 255. 255. 255
クラスB	172. 16. 0. 0　～　172. 31. 255. 255
クラスC	192. 168. 0. 0　～　192. 168. 255. 255

IPアドレスの設定の確認

パソコンに設定しているIPアドレスの確認や、パソコン間での正常な通信（接続）の確認は、Windows標準のコマンドで行うことができます。

●設定したIPアドレスが正しいかの確認方法

･Windows XPの場合

1 [スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]をクリックします。

2 IPCONFIG と入力し、[ENTER]キーを押します。

3 IPアドレスが正常に表示されるか確認してください。

･Windows 2000の場合

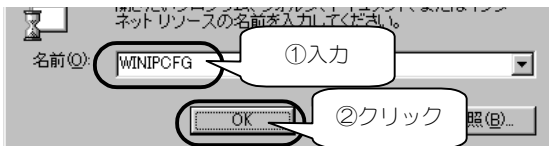
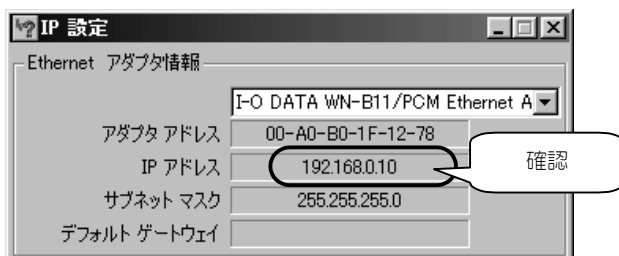
1 [スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]をクリックします。

2 IPCONFIG と入力し、[ENTER]キーを押します。

3 IPアドレスが正常に表示されるか確認してください。

･Windows Me/98/95の場合

1 [スタート]→[ファイル名を指定して実行]をクリックします。

2 [名前]に WINIPCFG を入力し、[OK]ボタンをクリックします。

3 お使いのアダプタを選択し、IPアドレスが正常に表示されるか確認してください。
[IPアドレス]が「0.0.0.0」と表示された場合は、正常にIPアドレスが設定されていません。

・Windows NT 4.0の場合

1 [スタート]→[プログラム]→[コマンドプロンプト]をクリックします。

2 IPCONFIG と入力し、[ENTER]キーを押します。

3 IPアドレスが正常に表示されるか確認してください。

●通信や接続が正しくできるかの確認方法（PINGコマンド）

Windows標準のPINGコマンドを使用して相手先のパソコンに正常に通信、あるいは接続が正常かを確認することができます。

以下で使用するPINGコマンドを使用するには、パソコンにTCP/IPがインストールされている必要があります。

1　［MS-DOSプロンプト］（またはコマンドプロンプト）を起動します。

・Windows XPの場合
　［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→
　［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。
・Windows 2000の場合
　［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→
　［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。
・Windows Meの場合
　［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→
　［MS-DOSプロンプト］を順にクリックして起動します。
・Windows 98/95の場合
　［スタート］→［プログラム］→［MS-DOSプロンプト］
　を順にクリックして起動します。
・Windows NT 4.0の場合
　［スタート］→［プログラム］→［コマンドプロンプト］
　を順にクリックして起動します。

2　以下のように入力し、［ENTER］キーを押します。

PING xxx.xxx.xxx.xxx（xxx.xxx.xxx.xxxは相手先のIPアドレス）
　入力例）　相手先のIPアドレスが「192.168.0.10」の場合は
　　　　　　以下のように入力します。
　　　　　　PING　192.168.0.10

3　正常に相手先が表示されるか確認してください。

正常なら「Reply from xxx.xxx.xxx.xxx」などと表示されます。
正常に接続されない場合、「Request timed out」や「Destination host unreachable」などと表示されます。

本製品のMACアドレスについて

MACアドレスは、本製品裏面のラベルの下側に記載されています。
（MACアドレスは、“00 A0 B0”から始まる12桁の英数字です。）

MAC アドレスとは…

個々の通信機器に固有のアドレスで、製品名毎ではなく、個々の製品すべてにおいて別々のアドレスです。
48bit の長さを持ち、世界中において重複することのないアドレスです。

用語解説

Ad hoc[アドホック]

アクセスポイントを介さずに、パソコン同士が直接通信しあう形態です。
他にインフラストラクチャモード（Infrastructure mode）があります。

DHCPサーバ(Dynamic Host Configuration Protocol Server)

DHCPとは各クライアントやEthernet機器へ起動時に動的にIPアドレスを割り当て、
終了時にIPアドレスを回収するためのプロトコルです。
同時にゲートウェイアドレスやドメイン名、サブネットマスクその他の情報を
ネットワーク上のクライアントやEthernet機器へ通知することもできます。

この動的にIPアドレスの割当を行う側の機器がDHCPサーバと呼ばれます。
ダイアルアップルータ等の機器もDHCPサーバの機能を持っています。

DS-SS[直接拡散・スペクトラム拡散]

無線通信における変調方式の１つです。
干渉がおきにくい、ノイズの影響を受けにくい、などの特徴があります。

Ethernet[イーサネット]

米国ゼロックス社、ディジタル・イクイップメント社、インテル社によって開発されたネットワーク通信方式です。当初この方式は、基礎帯域伝達、CSMA/CDアクセス、論理バストポロジー、同軸ケーブルを使用して構成されていました。
後にIEEE802.3として規格化され、光ファイバー、広周波数帯域、ツイストペアで運用するリピータなどを使って拡張する追加機能が定義されました。

IEEE802.11

無線LANの国際的な標準規格です。
IEEE802.11bでは、通信速度が11Mbpsまで拡張されています。

Infrastructure［インフラストラクチャ］

アクセスポイントを介して通信する形態です。

MACアドレス（Media Access Control Address）

Ethernet機器ごとの固有の物理アドレスです。
MACアドレスは、先頭からの３バイトのベンダーコードと残り３バイトのユーザコードの６バイトで構成されています。
ベンダーコードはIEEEが管理／割当を行っており、ユーザコードは、Ethernet機器のメーカーが独自の番号（重複することのない）で管理を行い、世界中で単一のアドレスが割り当てられています。
Ethernetではこのアドレスを元にしてフレームの送受信を行っています。

Mbps（Megabits per second）［メガビーピーエス］

１秒間に伝送するデータの単位です。
11Mbpsは１秒間に11メガビットのデータを伝送できます。

SS ID（Service Set ID）［エスエスアイディー］

複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。
SS IDが一致していないとそのネットワークには参加できません。

TCP/IP（Transmission Control Protocol/Internet Protocol）

主にインターネット上などで使用される基本プロトコルの１つです。

WEP（Wired Equivalent Privacy）

IEEE802.11bに含まれる標準の暗号化方式です。
各無線通信機器同士が共通の暗号鍵を使用して通信データを暗号化します。
暗号鍵を知らないパソコンは通信に参加することができません。

アクセスポイント

インフラストラクチャモード（Infrastructure mode）での通信の中継点となるポイントです。
他のパソコンでは、アクセスポイントと通信することで他のパソコンと通信します。
有線LANと無線LANの中継点ともなります。

チャンネル

無線通信では、使用する周波数帯域を分割して、それぞれの帯域で異なる通信を行うことができます。
チャンネルとは、その分割された個々の周波数帯域のことです。

ピアツーピア接続

サーバ／クライアントのような上下関係の無い対等な関係で行う通信のことです。

ローミング機能

複数のアクセスポイントを設置した環境で、各アクセスポイントのサービスエリア間を移動した場合に、自動的にアクセスポイントを切り替える機能です。
その場合、それぞれのアクセスポイントのSS IDとWEPが同じ設定である必要があります。

仕様

項目	内容
商品名	IEEE802.11b 無線LAN PCカード
製品型番	WN-B11/PCM
規格	IEEE802.11, IEEE802.11b RCR STD-33, ARIB STD-T66
周波数帯域	2.4GHz帯　(2.412〜2.4835GHz)
チャンネル	1ch〜14ch
伝送方式	直接拡散・スペクトラム拡散方式(DS-SS)
伝送速度	1Mbps, 2Mbps, 5.5Mbps, 11Mbps
変調方式	1Mbps：DBPSK 2Mbps：DQPSK 5.5Mbps,11Mbps：CCK
無線設備の種別	小電力データ通信システム
データ到達距離（最大）	11Mbps時：屋内 40m／屋外 100m 5.5Mbps時：屋内 70m／屋外 160m 2Mbps時：屋内 90m／屋外 200m 1Mbps時：屋内 100m／屋外 240m ※これらの値は、弊社アクセスポイント(WN-B11/AXP)との最大データ到達距離を計測したものです。 ※環境条件により変化します。
セキュリティ方式	WEP (Wired Equivalent Privacy), SS ID (Service Set ID) ※SS IDはアクセスポイント使用時
アクセス方式	アドホック (Ad hoc) インフラストラクチャ (Infrastructure) ※インフラストラクチャはアクセスポイント使用時
アンテナ方式	ダイバーシティ・アンテナ
ＬＥＤ表示	LINKランプ
ホストインターフェイス	PCMCIA PC CARD TYPE Ⅱ
使用電源	DC3.3V±5%
消費電流	DC3.3V:370mA
使用温度範囲	0℃〜+55℃
使用湿度範囲	20%〜80%（結露しないこと）
外形寸法	54.0 (W) mm×110.0 (D) mm×7.0 (H) mm (突起部含む)

	屋内	屋外
11Mbps時	40m	100m
5.5Mbps時	70m	160m
2Mbps時	90m	200m
1Mbps時	100m	240m

仕様

質量	約43g
適応規格	JATE VCCI CLASS B
認定番号	D00-0912JP

PLANTコールセンターへのお問い合わせ

お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及びFAX番号
2. ご使用の弊社製品名と、ハードウェアシリアルNo.
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用のOSとアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

オンライン

インターネット　**http://www.iodata.co.jp/support/**

「PLANTコールセンターお問い合わせ」内のフォームを使用して、E-Mailをお送りください。

郵便

〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地　ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第２ビル

株式会社アイ・オー・データ機器

PLANTコールセンター「WN-B11/PCM」係宛

電話

電話番号　**金沢　076-260-3644**

東京　03-3254-1144

受付時間　9:30～19:00　月～金曜日(祝祭日を除く)

FAX

FAX番号　**金沢　076-260-3360**

東京　03-3254-9055

宛先　株式会社アイ･オー･データ機器

PLANT コールセンター「WN-B11/PCM」係　宛

本製品に関するお問い合わせは、PLANT コールセンターのみで行っています。
予めご了承ください。

ソフトウェアのバージョンアップ

「設定ユーティリティ」がバージョンアップした場合は、以下の方法で入手できます。

オンライン

サポートライブラリ　　http://www.iodata.co.jp/lib/

サービス窓口からの郵送

下記の窓口までお問い合わせください。（送料及び手数料はお客様負担）

住所　〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第２ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「WN-B11/PCM」サービス窓口　宛
電話番号　076-260-3663
受付時間　9:30～12:00　13:00～17:00
月～金曜日（祝祭日を除く）

ご注意

●インターネットによるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。

修理について

修理の前に

故障かな？と思ったときは、

①本書をもう一度ご覧いただき、設定などをご確認ください。

②弊社PLANTコールセンターへお問い合わせください。

（【PLANTコールセンターへのお問い合わせ】をご覧ください）

明らかに故障の場合は、下記内容を参照して、本製品をお送りください。

修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

●お客様が貼られたシールなどについて

修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。
その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

●修理金額について

・保証期間中は、無償にて修理いたします。
ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」に該当する場合は、有償となります。

※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。

・保証期間が終了した場合は、有償にて修理いたします。

※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

・お送りいただいた後、有償修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。
修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。
（ご依頼時にFAX番号をお知らせいただければ、修理金額をFAXにて連絡させていただきます。）

修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

●メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、ハードウェアシリアルNO.、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

●これらを用意してください

・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書（コピー不可）
※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。

・下の内容を書いたもの
返送先［住所/氏名/(あれば)FAX番号］,日中にご連絡できるお電話番号,
ご使用環境（機器構成、OSなど）,故障状況（どうなったか）

●修理品を梱包してください

・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。
・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。
※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

●修理をご依頼ください

・修理は下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。
※ 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先	〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地 アイ・オー・データ第2ビル 株式会社アイ・オー・データ機器　修理係　宛

修理品の返送

・修理品到着後、通常約１週間ほどで弊社より返送できます。
※ただし、有償の場合や、修理内容によっては、時間がかかる場合があります。
・修理品の返送日については以下の窓口にお問い合わせください。

●サービス窓口

お問い合わせの際は、ご依頼の際にメモに控えた内容をお伝えください。

電話番号	076-260-3663
受付時間	9:30～12:00　13:00～17:00 月～金曜日（祝祭日を除く）